



神奈川県

政策局政策部  
情報公開広聴課

令和4年度

# 県民ニーズ調査

基本調査…………… 令和4年12月公表

県民の生活と県政についての意識調査

第1回課題調査…………… 令和5年2月公表

テーマ「食・食育」「食の安心・安全」「神奈川の農林水産業」

「肝炎対策」「将来の住まい」

「SDGs(持続可能な開発目標)」

「ともに生きる社会かながわ」

「神奈川の文化芸術」「子どもの貧困対策」

「配偶者等からの暴力」「地域社会との関わり」「治安対策」

第2回課題調査…………… 令和5年3月公表予定

テーマ「生物多様性」「環境問題」「かながわの水源地域」

「スポーツ」「自転車の利用」「かながわの広報」

「地震対策の取組み」「消防団」「かながわの人権」

「青少年を保護する条例」「子育てにおける体罰の意識」

「がん対策」「依存症に対する意識」

『未病改善』の取組み」「思いやりのある社会」



## 目次

県民ニーズ調査の概要	1
------------	---

### 基本調査

第Ⅰ部 調査の概要	3
-----------	---

- 1 調査の目的
- 2 調査内容
- 3 調査設計
- 4 回収結果
- 5 標本の抽出方法について
- 6 集計・分析にあたって
- 7 調査結果の誤差
- 8 回答者の属性

第Ⅱ部 調査結果の概要	11
-------------	----

第Ⅲ部 調査結果の詳細	21
-------------	----

- 第1章 暮らし全般について
  - 1 生活総合満足度
  - 2 暮らし向きの変化
  - 3 今後の暮らし向きの見通し
  - 4 地域の住みよさ
  - 5 定住意向
- 第2章 生活意識
- 第3章 暮らしの満足度
  - 1 重要度
  - 2 満足度
- 第4章 県行政への要望

第Ⅳ部 県政への自由意見	91
--------------	----

第Ⅴ部 グラフ（暮らしの満足度、県行政への要望）	95
--------------------------	----

- 暮らしの満足度（重要度）－過去との比較（図表A）
- 暮らしの満足度（満足度）－過去との比較（図表B）
- 県行政への要望－過去との比較（図表C）

第Ⅵ部 調査票と単純集計結果	121
----------------	-----

## 第1回課題調査

第Ⅰ部 調査の概要	135
1 調査の目的	
2 調査内容	
3 調査設計	
4 回収結果	
5 標本の抽出方法について	
6 集計・分析にあたって	
7 調査結果の誤差	
8 回答者の属性	
第Ⅱ部 調査結果の概要	143
第Ⅲ部 調査結果の詳細	155
第1章 食・食育	157
1 「食育」への関心	
2 健康的な食事内容の心がけ	
3 就寝前の食事を控えているか	
4 朝食を同居の方と食べる頻度	
5 夕食を同居の方と食べる頻度	
6 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
7 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度	
8 食事のマナーを正しくできていることへの意識	
9 ゆっくりよく噛んで食べているか	
10 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか	
11 歯と口の健康を保つためにかかりつけ医を決めているか	
第2章 食の安心・安全	179
1 食品を購入する際に確認している表示内容	
2 食中毒を予防する上で重要なこと	
3 食品を安全に食べるために必要な知識	
第3章 神奈川の農林水産業	185
1 「地産地消」の取組みの重要度	
2 「かながわブランド」の認知度	
3 県の農業に期待する役割	
第4章 肝炎対策	191
1 ウイルス性肝炎の認知度	
2 「肝炎ウイルス検査」の受検状況	
3 検査結果の把握状況	

第5章 将来の住まい	197
1 将来の住まいに対する不安	
2 将来の住まいに不安を抱く理由	
3 親族との同居意向	
第6章 SDG s (持続可能な開発目標)	203
1 「SDG s」の認知度	
2 SDG sの取組み意向	
3 SDG s達成に向け効果的な後押し	
第7章 ともに生きる社会かながわ	209
1 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度	
2 ともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法	
3 障がい者に配慮した行動をとる人	
4 障がい者への差別・偏見の有無	
5 希望する手話の学習方法	
6 文化芸術活動を楽しむために有効だと思う取組み	
第8章 神奈川の文化芸術	221
1 文化芸術の鑑賞意向	
2 行ってみたいと思う文化施設	
3 実践してみたいと思う文化芸術活動	
4 文化芸術活動をする際に感じる不満や不便	
第9章 子どもの貧困対策	229
1 「子どもの貧困」の認知度	
2 身近で支援を必要とする子どもの有無	
3 地域の支援活動に対する考え方	
第10章 配偶者等からの暴力	235
1 夫婦間での暴力行為における暴力(DV)としての認識	
2 配偶者等からの暴力(DV)について知っていたこと	
第11章 地域社会との関わり	241
1 地域社会との関わりを大切にする意識	
第12章 治安対策	243
1 不安を感じる犯罪	
2 地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法	
3 犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思うもの	
第IV部 調査票と単純集計結果	249



# 第1回課題調査

## 第I部 調査の概要





## 1 調査の目的

県政の直面する重要な課題や県民生活に関するテーマにおける県民ニーズを把握し、今後の行政施策の展開に資することを目的とする。

## 2 調査内容

- (1) 食・食育
- (2) 食の安心・安全
- (3) 神奈川の農林水産業
- (4) 肝炎対策
- (5) 将来の住まい
- (6) SDGs(持続可能な開発目標)
- (7) ともに生きる社会かながわ
- (8) 神奈川の文化芸術
- (9) 子どもの貧困対策
- (10) 配偶者等からの暴力
- (11) 地域社会との関わり
- (12) 治安対策

## 3 調査設計

- (1) 調査地域 神奈川県全域
- (2) 調査対象 県内在住の満18歳以上の男女
- (3) 標本数 3,000標本
- (4) 標本抽出方法 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出
- (5) 調査方法  
ア 郵送による調査票の配布  
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (6) 調査期間 令和4年9月9日(金)～10月3日(月)
- (7) 調査委託機関 株式会社CCNグループ

## 4 回収結果

- (1) 全体の回収結果

標本数	3,000標本
有効回収数	1,407標本 〔 郵送回答 : 910件 インターネット回答 : 497件 〕
有効回収率	46.9%

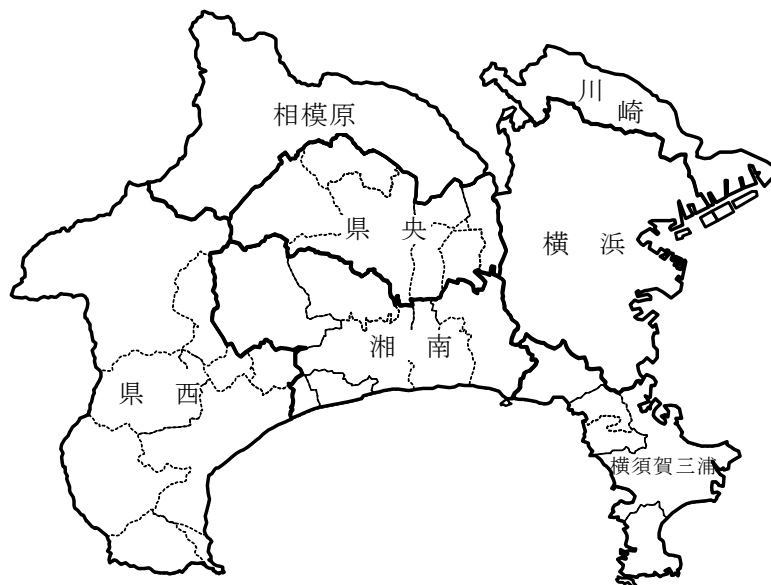
(2) 地域別の回収結果

地 域		設計標本数	有効回収数	有効回収率
横浜	横浜市	1,200	533	44.4%
川崎	川崎市	460	195	42.4%
相模原	相模原市	220	103	46.8%
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町	260	134	51.5%
県央	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村	300	142	47.3%
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町	440	215	48.9%
県西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町	120	62	51.7%
無 回 答			23	
全 体		3,000	1,407	46.9%

5 標本の抽出方法について

- (1) 県内を7地域に分類し、さらに各地域を人口規模によって層化した。
- (2) 各地域・人口規模別の層における18歳以上の人口（令和2年1月1日現在の推計値）により、3,000標本を比例配分した。
- (3) 比例配分した標本数を20（1地点あたりの標本数）で除し、地点数を算出した。

地域区分図



## 地点数及び標本配分

地域	人口50万人以上の市	人口50万人未満の市	町 村	計
横 浜	3,182,266人 60地点 1,200標本	-	-	3,182,266人 60地点 1,200標本
川 崎	1,270,952人 23地点 460標本	-	-	1,270,952人 23地点 460標本
相模原	614,463人 11地点 220標本	-	-	614,463人 11地点 220標本
横須賀三浦	-	572,482人 12地点 240標本	26,022人 1地点 20標本	598,504人 13地点 260標本
県 央	-	685,576人 14地点 280標本	36,096人 1地点 20標本	721,672人 15地点 300標本
湘 南	-	1,015,378人 20地点 400標本	90,993人 2地点 40標本	1,106,371人 22地点 440標本
県 西	-	198,375人 4地点 80標本	92,782人 2地点 40標本	291,157人 6地点 120標本
人口計	5,067,681人	2,471,811人	245,893人	7,785,385人
地点数計	94地点	50地点	6地点	150地点
標本数計	1,880標本	1,000標本	120標本	3,000標本

※ 人口数は、「神奈川県年齢別人口統計調査（令和2年1月1日現在）」（県統計センター）をもとに、18歳以上の各市区町村の人口を積算したものの。

## 6 集計・分析にあたって

- (1) 集計にあたっては、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (2) 標本数「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者数を表す。
- (3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並べ替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。（例えば、「非常に重要である」と「かなり重要である」を合わせたものを《重要である》と表現している）。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。
- (7) 今後の精査により、数値等は変動することがある。

## 7 調査結果の誤差

この調査は、全数調査ではないので、調査結果の数値は真の値（全数調査をした場合に得られる数値）と異なることがある。これを標本誤差という。

層化二段無作為抽出の場合、信頼度 95%のときの標本誤差は次の式で算出される。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

$b$  = 標本誤差  
 $N$  = 母集団数  
 $n$  = 回答者数  
 $P$  = 回答比率

上の式により、回答者数 (n)、および回答比率 (P) ごとに信頼度95%のときの標本誤差 (%) を計算すると、おおよそ次表のとおりとなる。

回答比率 (P) \ 回答者数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,407	± 2.26	± 3.02	± 3.46	± 3.69	± 3.77
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

※上表は  $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$  として算出している。

注) この表の見方

例えば、「ある設問の回答者数 (n) が 1,407 で、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差は 95%の信頼度で、±3.69%以内（真の値は、63.69%～56.31%）である」とみることができる。

## 8 回答者の属性

(1) 居住地 (n=1,407)  
(%)

横浜	37.9
川崎	13.9
相模原	7.3
横須賀三浦	9.5
県央	10.1
湘南	15.3
県西	4.4

(無回答 1.6)

(2) 性別 (n=1,407) (%)

男性	44.1
女性	52.8

(無回答 3.1)

(3) 年齢 (n=1,407)  
(%)

18～29歳	5.3
30～39歳	12.9
40～49歳	19.4
50～59歳	20.8
60～69歳	18.1
70～74歳	12.5
75歳以上	9.3

(無回答 1.7)

(4) 子どもの状況 (複数回答) (n=1,407) (%)

小学校入学前	7.7
小学校在学中	10.2
中学校在学中	6.3
高校在学中	5.5
短大、専門学校等在学中	1.3
大学、大学院等在学中	5.8
学校教育終了[未婚]	21.0
学校教育終了[既婚]	25.4
その他	3.1
子どもはいない	33.4

(無回答 2.8)

(5) 家族形態 (n=1,407) (%)

一人暮らし (単身世帯)	18.1
夫婦のみ (1世代世帯)	29.4
親と子の世帯 (2世代世帯)	43.6
祖父母と親と子の世帯 (3世代世帯)	3.6
その他の世帯	4.0

(無回答 1.2)

(6) 職業区分 (n=1,407) (%)

自営業主・ 家族従業者	自営業主	5.0
	家族従業者	1.1
勤め・内職	勤め (フルタイム)	38.6
	勤め (パートタイム)	15.9
	内職	0.2
主婦・主夫 (勤めについていない)	13.7	
学生	0.8	
無職	16.2	
その他	0.9	

(無回答 7.7)

(6-1) 有職者の職業内容 (n=855) (%)

自営業主・ 家族従業者	農林水産業	0.5
	商工サービス業	5.3
	自由業	3.6
勤め・内職	経営・管理職	6.0
	専門・技術職	22.9
	事務職	24.6
	教育職	5.0
	技能・労務職	11.0
販売・サービス職	19.2	

(無回答 2.0)



## 第 1 回課題調査

# 第Ⅱ部 調査結果の概要





## 調査結果の概要

### 【記載内容についての注意】

- ・ 調査結果の比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。
- ・ 複数回答の設問では、その比率(%)の合計が100%を上回ることがある。
- ・ 文中の「n」は、「Number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- ・ 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせた場合に用いる。

例：問1で「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせたものを《関心がある》と表現している。

また、この場合の比率は実際の回答数の合計から算出しており、個々の選択肢の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。

- ・ 文中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

## 1 食・食育（問1～問9）

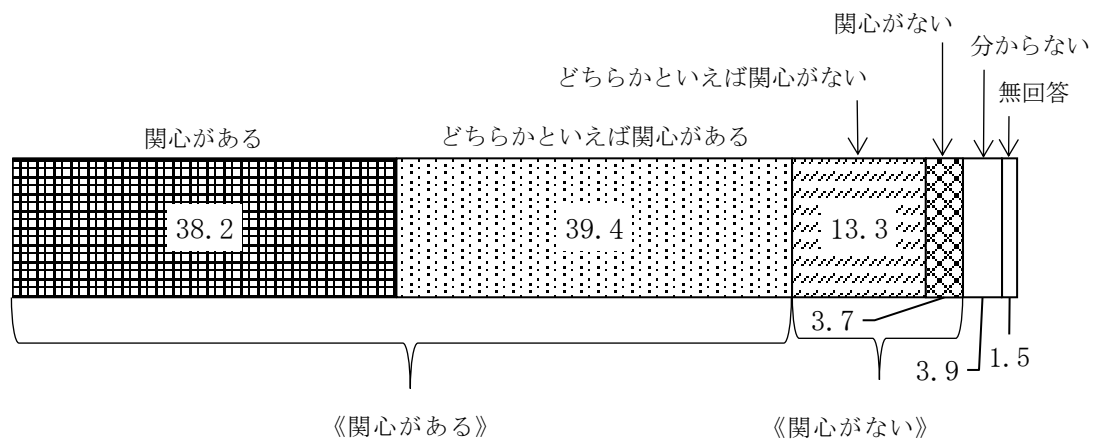
県では、未病を改善するための重要な要素である「食」について、県民一人ひとりが理解を深め、健全な食生活を実践することで、誰もが元気に笑顔で長生きできる社会の実現を目指して、「食育」を推進しています。今回、「食育」への関心などについて調査しました。

### ▼「食育」への関心（問1）

「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」（38.2%）と「どちらかといえば関心がある」（39.4%）を合わせた《関心がある》は77.6%であった。

一方、「関心がない」（3.7%）と「どちらかといえば関心がない」（13.3%）を合わせた《関心がない》は17.0%であった。[図表1]

図表1 「食育」への関心（n=1,407）（%）



## 2 食の安心・安全（問10～問12）

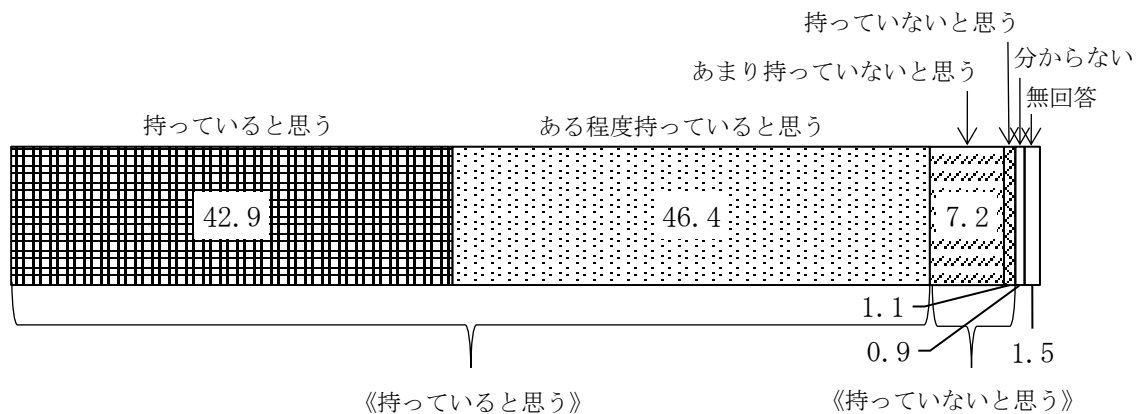
県では、県民の皆様の食の安全・安心の確保に向けた取組みを推進しています。今回、食品を安全に食べるための知識などについて調査しました。

### ▼食品を安全に食べるために必要な知識（問12）

食品を安全に食べるために必要な知識（例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど）を持っていると思うか尋ねたところ、「持っていると思う」（42.9%）と「ある程度持っていると思う」（46.4%）を合わせた《持っていると思う》は89.3%であった。

一方、「持っていないと思う」（1.1%）と「あまり持っていないと思う」（7.2%）を合わせた《持っていないと思う》は8.3%であった。〔図表2〕

図表2 食品を安全に食べるために必要な知識（n=1,407）（%）



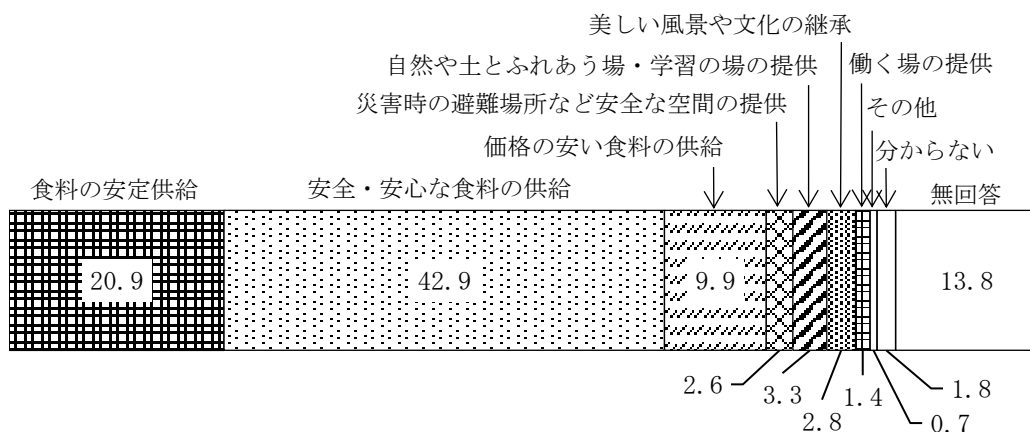
## 3 神奈川の農林水産業（問13～問15）

県では、都市農業の持続的な発展を図るため、地産地消の推進や多様な担い手の育成などの取組みを進めています。今回、県の農業に期待する役割などについて調査しました。

### ▼県の農業に期待する役割（問15）

県の農業にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」が42.9%で最も多く、次いで「食料の安定供給」が20.9%であった。〔図表3〕

図表3 県の農業に期待する役割（n=1,407）（%）



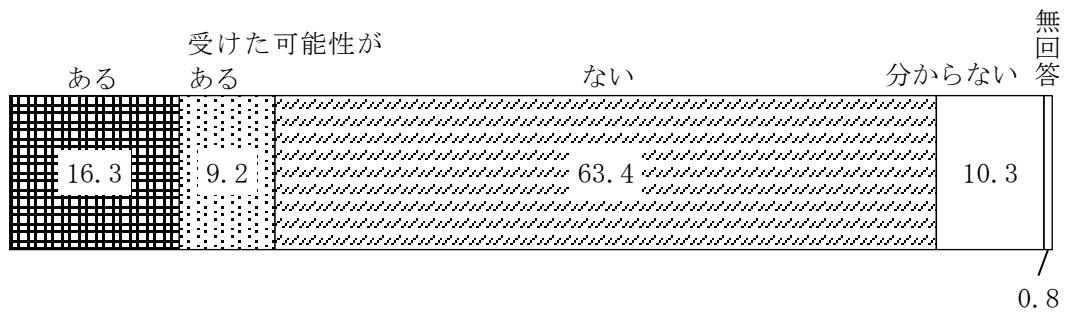
#### 4 肝炎対策（問 16～問 17）

県では、神奈川県肝炎対策推進計画を策定し、肝炎治療医療費の助成など、様々な対策に取り組んでいます。今回、「肝炎ウイルス検査」の受検状況などについて調査しました。

##### ▼「肝炎ウイルス検査」の受検状況（問 17）

これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるかを尋ねたところ、「ある」が 16.3%であった。一方、「ない」が 63.4%であった。〔図表 4〕

図表 4 「肝炎ウイルス検査」の受検状況（n=1,407）（%）



#### 5 将来の住まい（問18～問19）

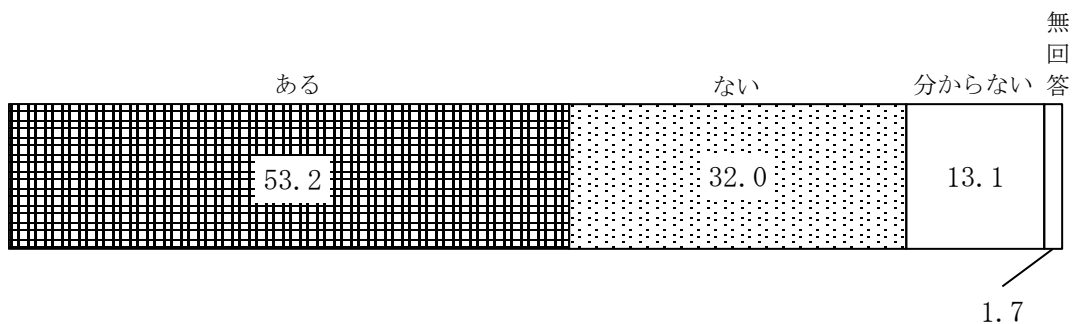
県では、人生 100 歳時代に向けて、全ての県民がともに支えあい、安全で安心してくらせる「いのち輝く住まいまちづくり」を実現するため、地域の実情に応じた総合的な住宅施策を展開しています。今回、施策の推進に役立てるため、将来の住まいに対する不安などについて調査しました。

##### ▼将来の住まいに対する不安（問 18）

高齢者の方に対しては現在、それ以外の年代の方には将来高齢者になったとき、現在の住まいに不安があるかどうかを尋ねたところ、「ある」が 53.2%であった。

一方、「ない」が 32.0%であった。〔図表 5〕

図表 5 将来の住まいに対する不安（n=1,407）（%）



## 6 SDGs（持続可能な開発目標）（問 20～問 21）

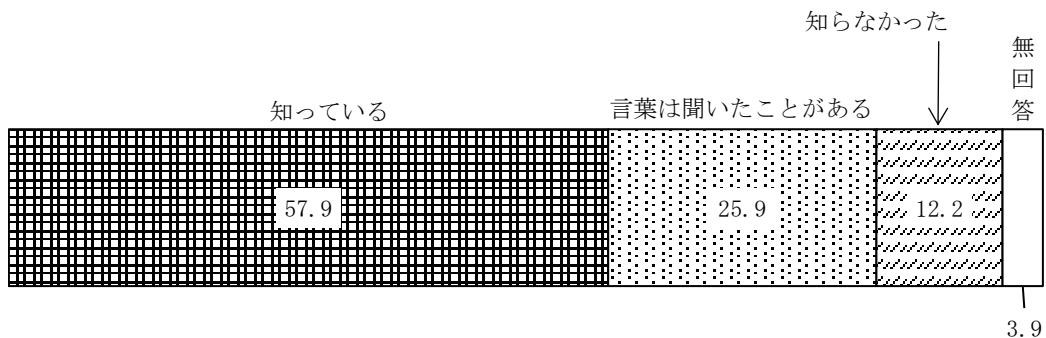
県では、「いのち輝く神奈川」の実現に向けて、持続可能な社会を目指すSDGsの推進に取り組んでいます。今回、「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度などについて調査しました。

### ▼「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度（問 20）

「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」について知っているか尋ねたところ、「知っている」が 57.9%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が 25.9%であった。

一方、「知らなかった」が 12.2%であった。〔図表 6〕

図表 6 「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」の認知度（n=1,407）（%）



## 7 とともに生きる社会かながわ（問 22～問 26）

平成 28 年 7 月に県立の障害者支援施設である「津久井やまゆり園」で発生した事件が二度と繰り返されないよう、県は、ともに生きる社会の実現をめざし、県議会とともに「ともに生きる社会かながわ憲章」を策定しました。この憲章の理念を広く県民の皆様に普及する活動を行い、ともに生きる社会の実現に向けた取組みを推進しています。今回、「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度などについて調査しました。

### ▼ともに生きる社会かながわ憲章の認知度（問 22）

「ともに生きる社会かながわ憲章」を知っているか尋ねたところ、「知っている」が 6.9%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が 23.3%であった。

一方、「知らなかった」が 66.6%であった。〔図表 7〕

図表 7 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度（n=1,407）（%）



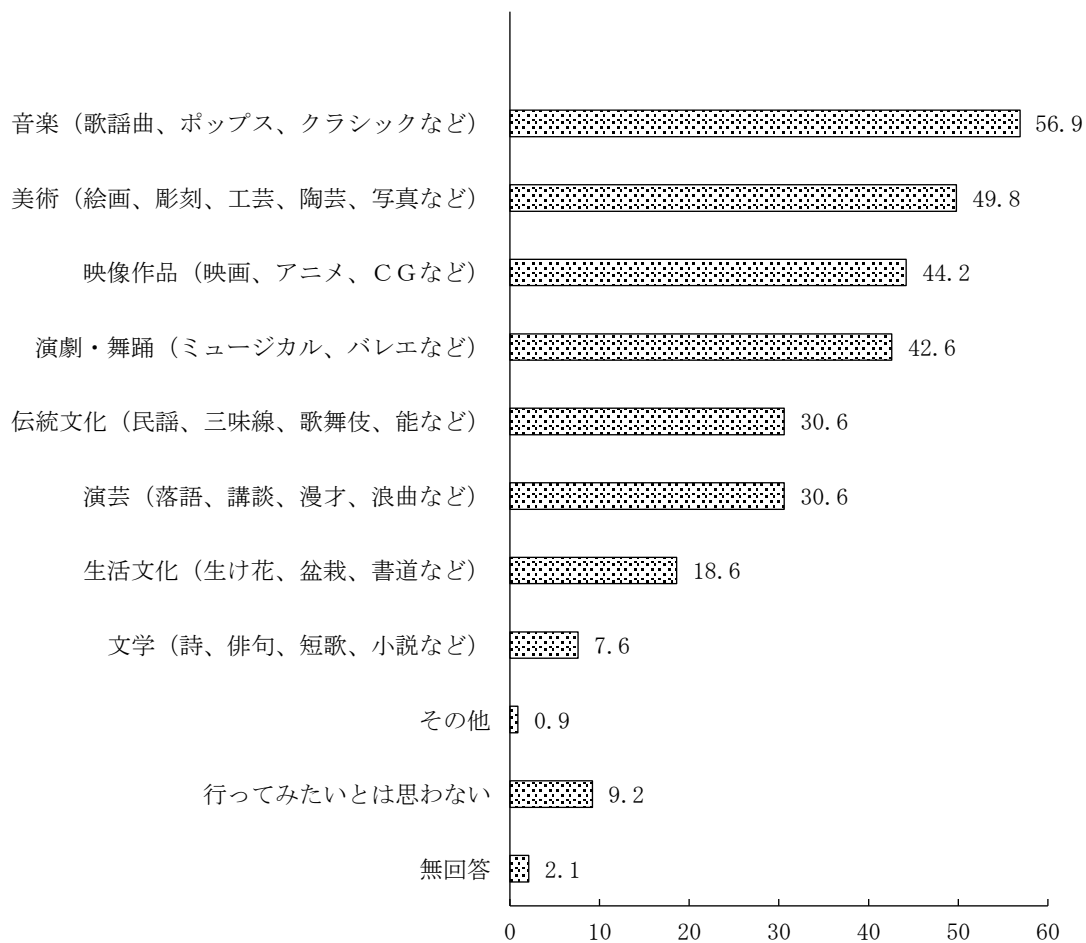
## 8 神奈川の文化芸術（問 27～問 30）

県では、かながわ文化芸術振興計画に基づき、県民の文化芸術活動の充実などに取り組んでいます。今回、文化芸術の鑑賞意向などについて調査しました。

### ▼文化芸術の鑑賞意向（問 27）

文化芸術のうち、ホールなどの文化施設での公演や展覧会へ行ってみたいと思うものを複数回答で尋ねたところ、「音楽（歌謡曲、ポップス、クラシックなど）」が56.9%で最も多く、次いで「美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など）」が49.8%であった。〔図表 8〕

図表 8 文化芸術の鑑賞意向（複数回答）（n=1,407）（%）



## 9 子どもの貧困対策（問 31～問 33）

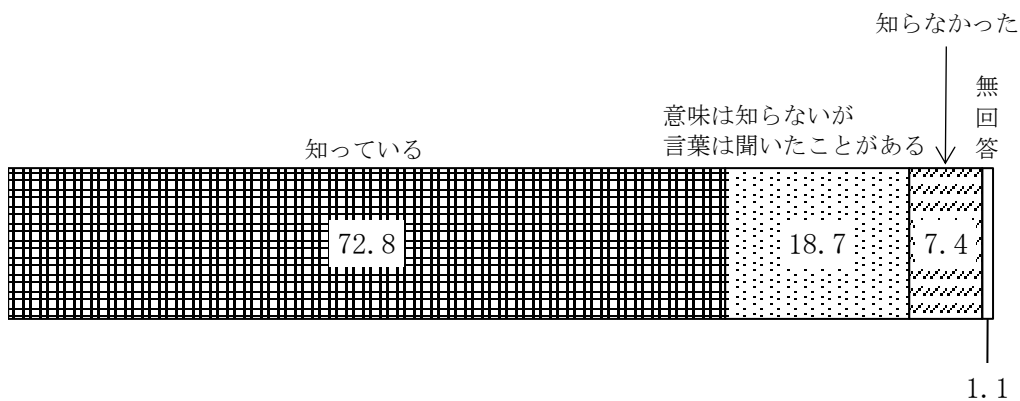
県では、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、神奈川県子どもの貧困対策推進計画を策定し、子どもの貧困対策を総合的に推進しています。今回、子どもの貧困の認知度などについて調査しました。

### ▼子どもの貧困の認知度（問 31）

「子どもの貧困」という言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が 72.8%であった。また、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が 18.7%であった。

一方、「知らなかった」が 7.4%であった。〔図表 9〕

図表 9 「子どもの貧困」の認知度（n=1,407）（%）



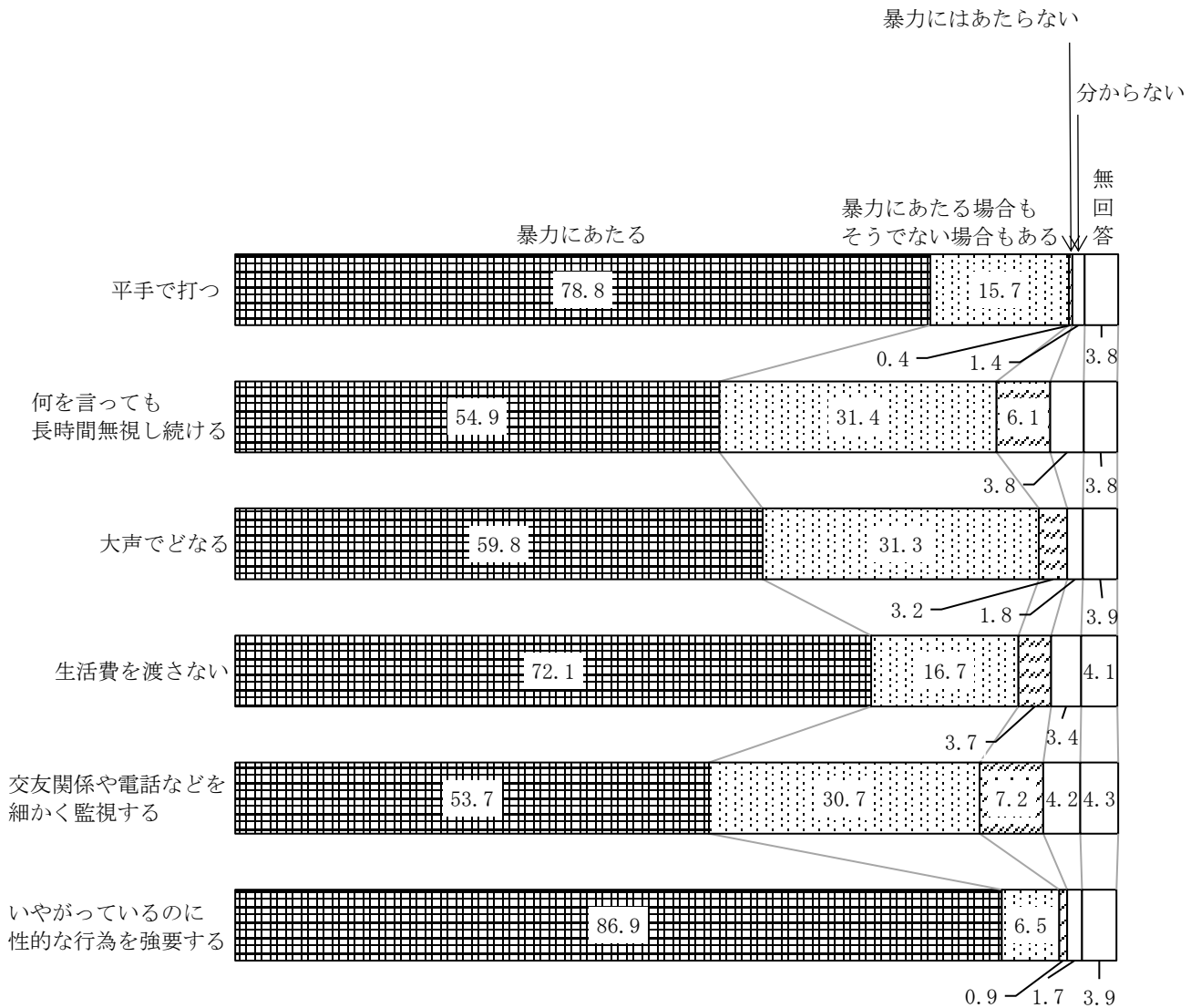
## 10 配偶者等からの暴力（問34～問35）

県では、かながわDV防止・被害者支援プランに基づき、DV被害者への支援の充実に加え、DV防止の取組みの強化を図っています。今回、夫婦間での暴力行為における暴力（DV）としての認識などについて調査しました。

### ▼夫婦間での暴力行為における暴力（DV）としての認識（問34）

夫婦（事実婚や別居中を含む）の間で行われた暴力について6項目を示し、それぞれ暴力（DV）だと思いか尋ねたところ、「暴力にあたる」では、「いやがっているのに性的な行為を強要する」が86.9%で最も多く、次いで「平手で打つ」が78.8%であった。〔図表10〕

図表10 夫婦間での暴力行為における暴力（DV）としての認識（n=1,407）（%）



## 11 地域社会との関わり（問 36）

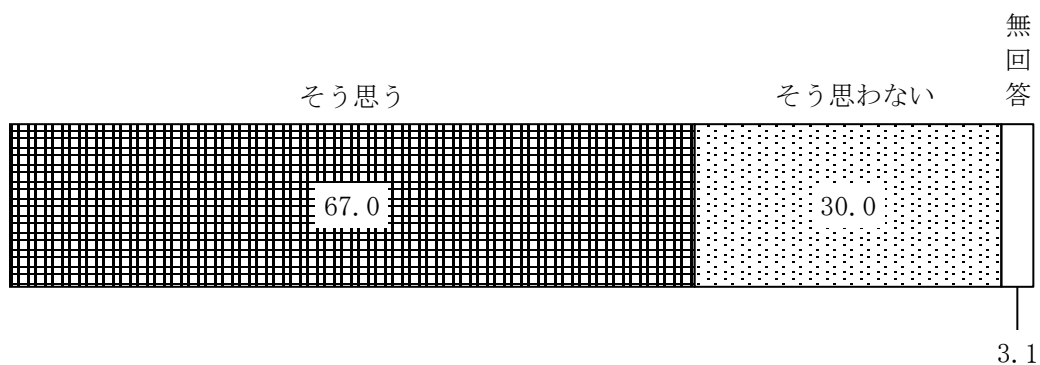
県ではコミュニティ再生・活性化に向けた取組みを進めています。今回、地域社会との関わりに関する意識について調査しました。

### ▼地域社会との関わりを大切にする意識（問 36）

長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしているか尋ねたところ、「そう思う」が 67.0%であった。

一方、「そう思わない」が 30.0%であった。[図表 11]

図表 11 地域社会との関わりを大切にする意識（n=1,407）（%）





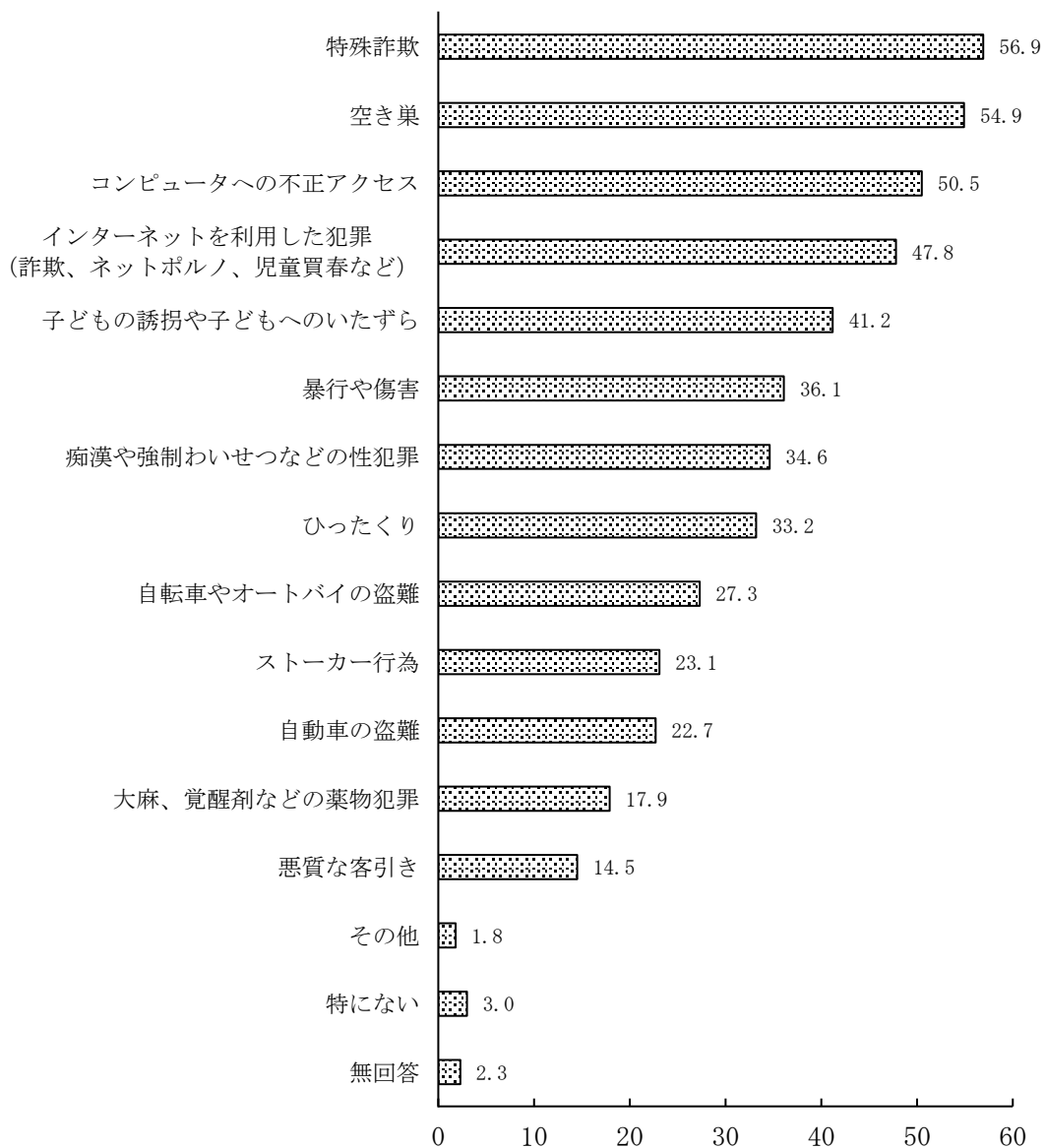
## 12 治安対策（問 37～問 39）

県警察では、県民が身近に不安を感じる犯罪の抑止・検挙活動を始めとした各種警察活動を推進し、県民の皆様が安全で安心してくださる地域社会の実現に努めています。今回、不安を感じる犯罪などについて調査しました。

### ▼不安を感じる犯罪（問 37）

身近で発生する可能性がある犯罪のうち、不安を感じるものを複数回答で尋ねたところ、「特殊詐欺」が 56.9%で最も多く、次いで「空き巣」が 54.9%であった。〔図表 12〕

図表 12 不安を感じる犯罪（複数回答）（n=1,407）（%）





## 第Ⅲ部 調査結果の詳細

### 【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of cases」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。



# 第1章 食・食育【問1～問9】

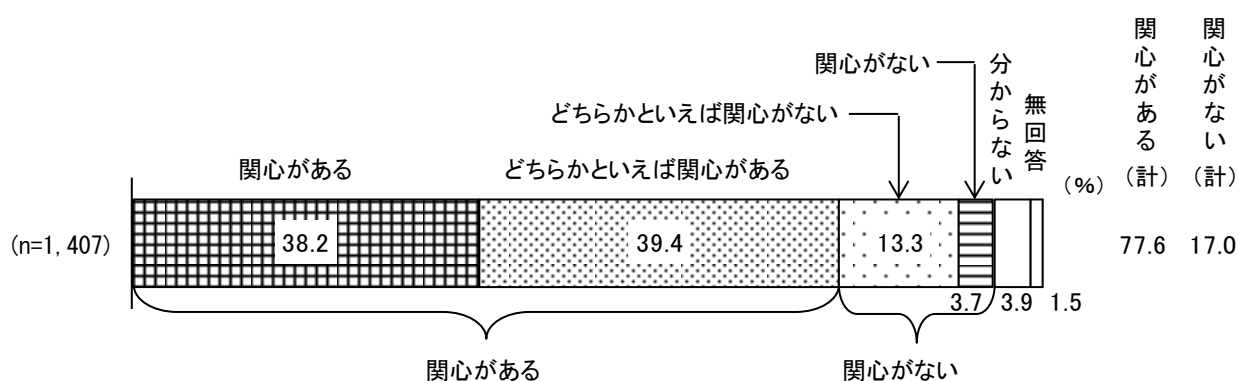
## 1 「食育」への関心【問1】

### 【全体の状況】

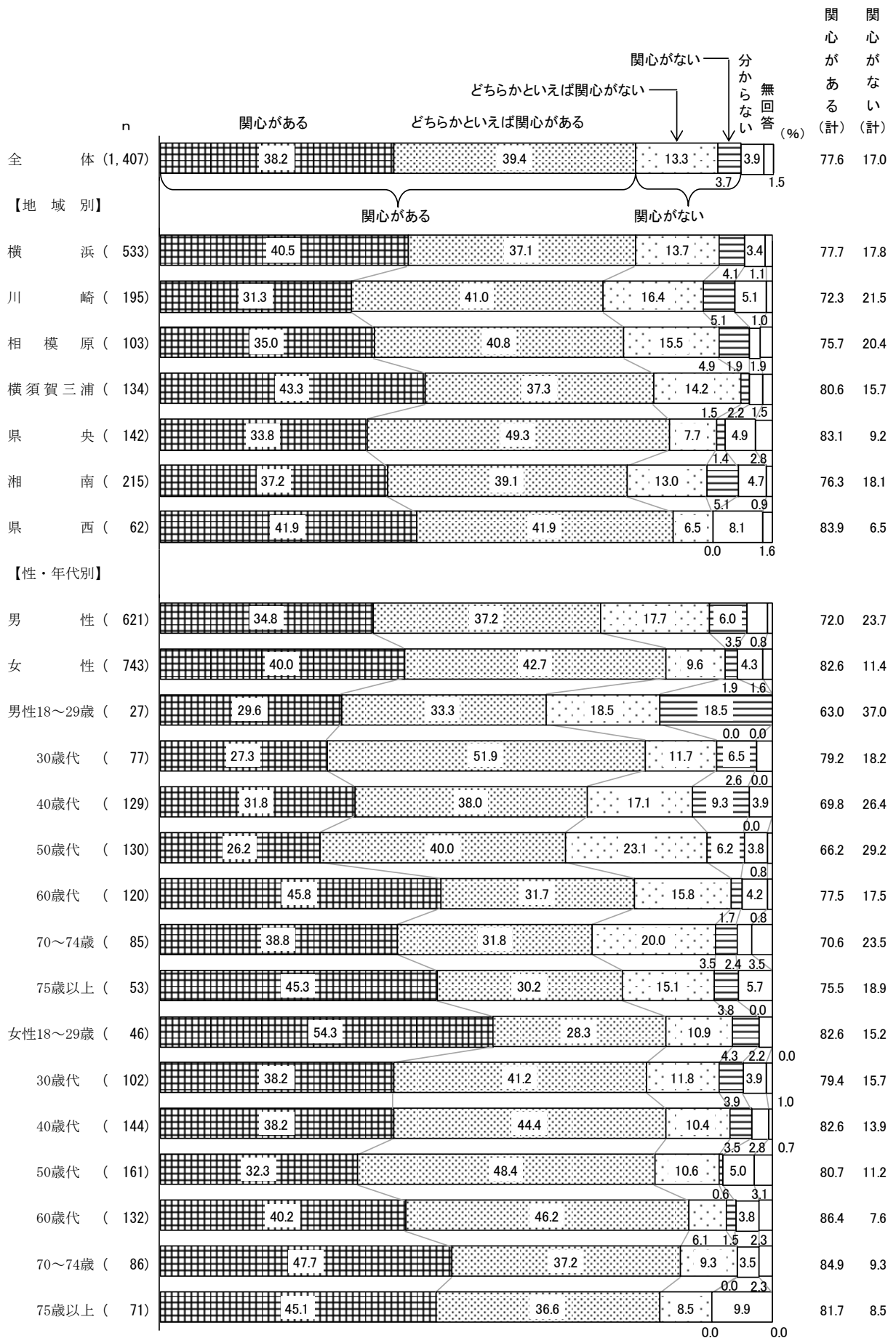
「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(38.2%)と「どちらかといえば関心がある」(39.4%)を合わせた《関心がある》は77.6%であった。

一方、「関心がない」(3.7%)と「どちらかといえば関心がない」(13.3%)を合わせた《関心がない》は17.0%であった。(図表1-1-1)

図表1-1-1 「食育」への関心



図表1-1-2 「食育」への関心—地域別、性・年代別



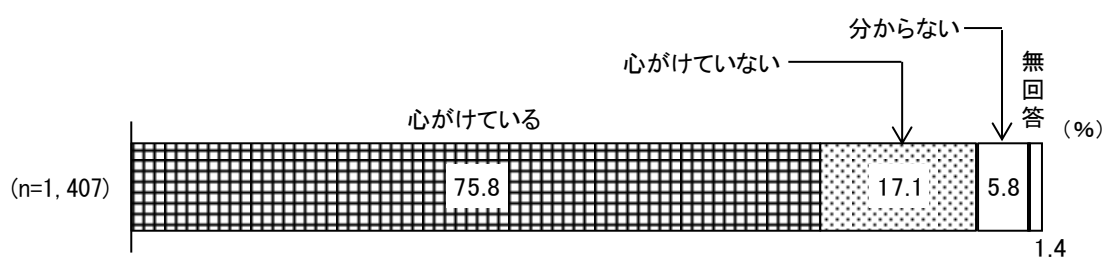
## 2 健康的な食事内容の心がけ【問2】

### 【全体の状況】

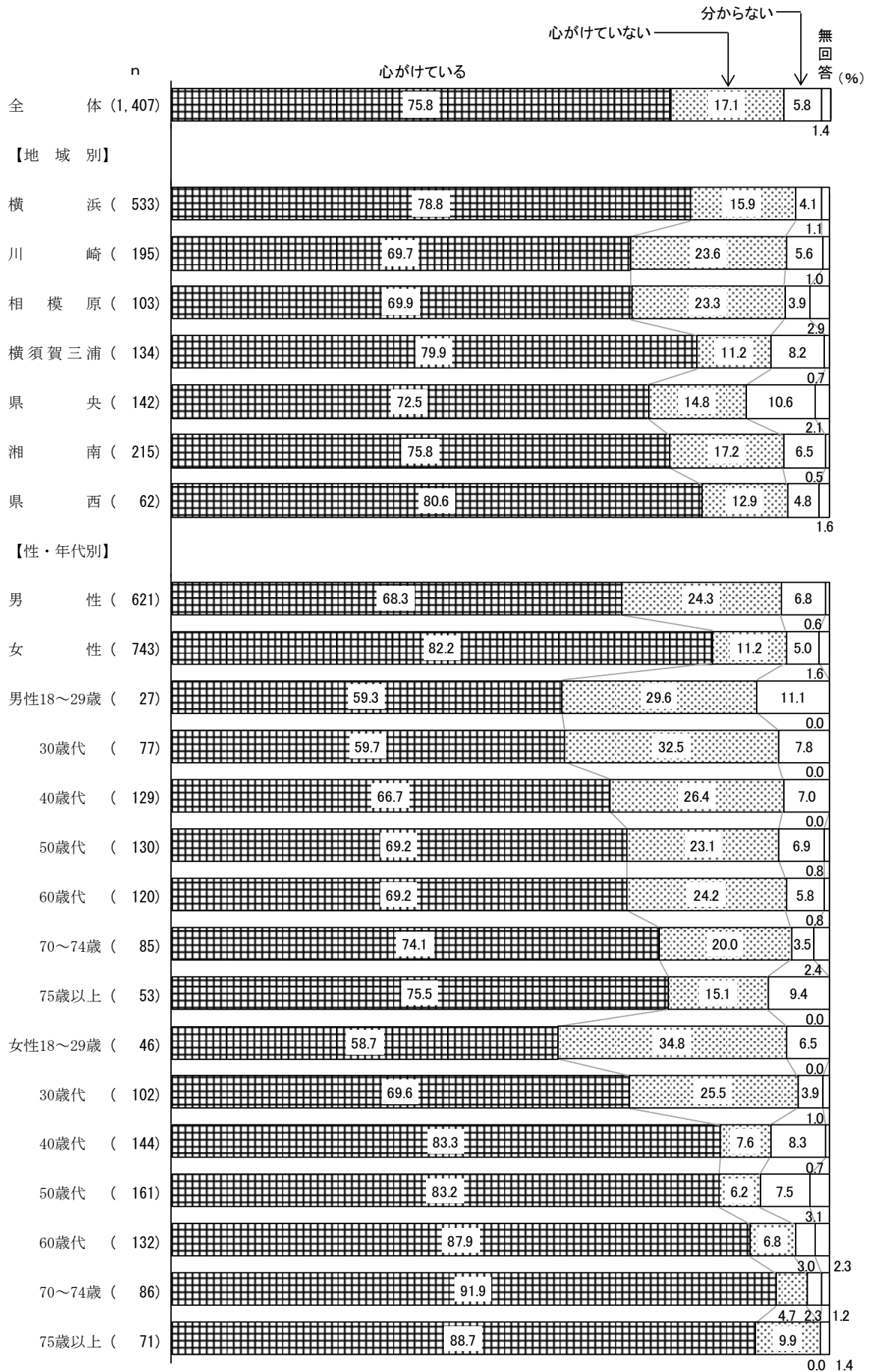
毎日の食生活で、主食・主菜・副菜を組み合わせた健康的な食事内容を心がけているか尋ねたところ、「心がけている」が75.8%であった。

一方、「心がけていない」は、17.1%であった。(図表1-2-1)

図表1-2-1 健康的な食事内容の心がけ



図表1-2-2 健康的な食事内容の心がけ—地域別、性・年代別





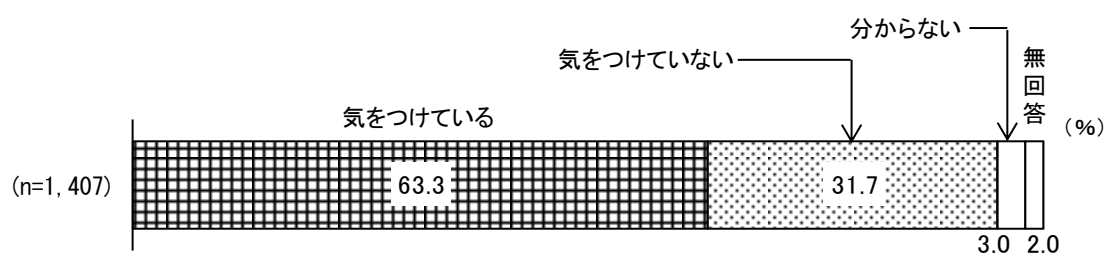
### 3 就寝前の食事を控えているか【問3】

#### 【全体の状況】

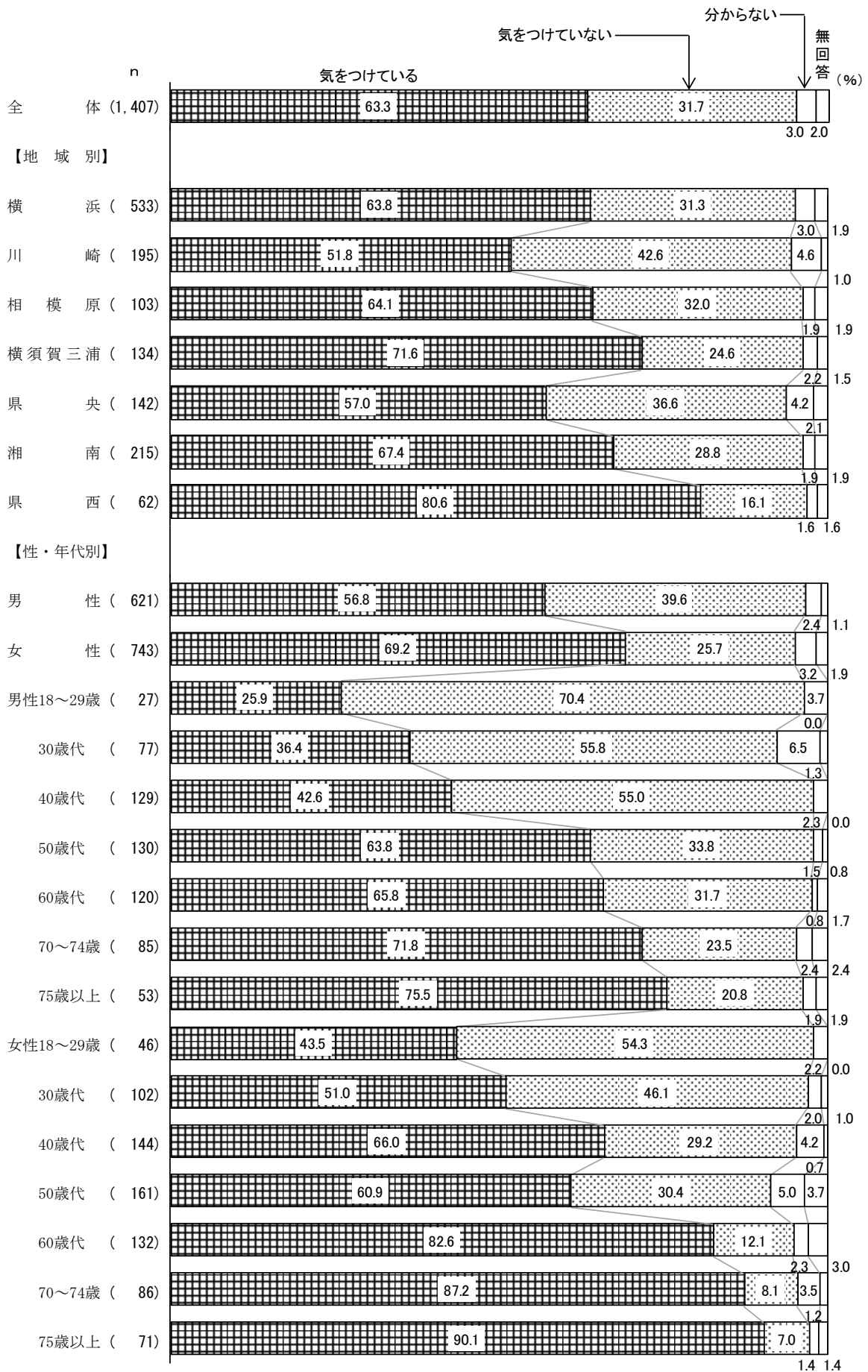
就寝前2時間以内に食事をとらないよう気をつけているか尋ねたところ、「気をつけている」が63.3%であった。

一方、「気をつけていない」は、31.7%であった。(図表1-3-1)

図表1-3-1 就寝前の食事を控えているか



図表1-3-2 就寝前の食事を控えているかー地域別、性・年代別

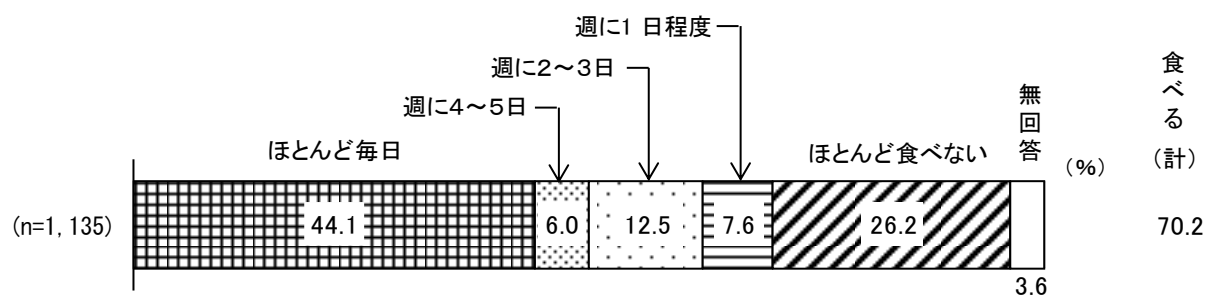


#### 4 朝食を同居の方と食べる頻度【問4-1】

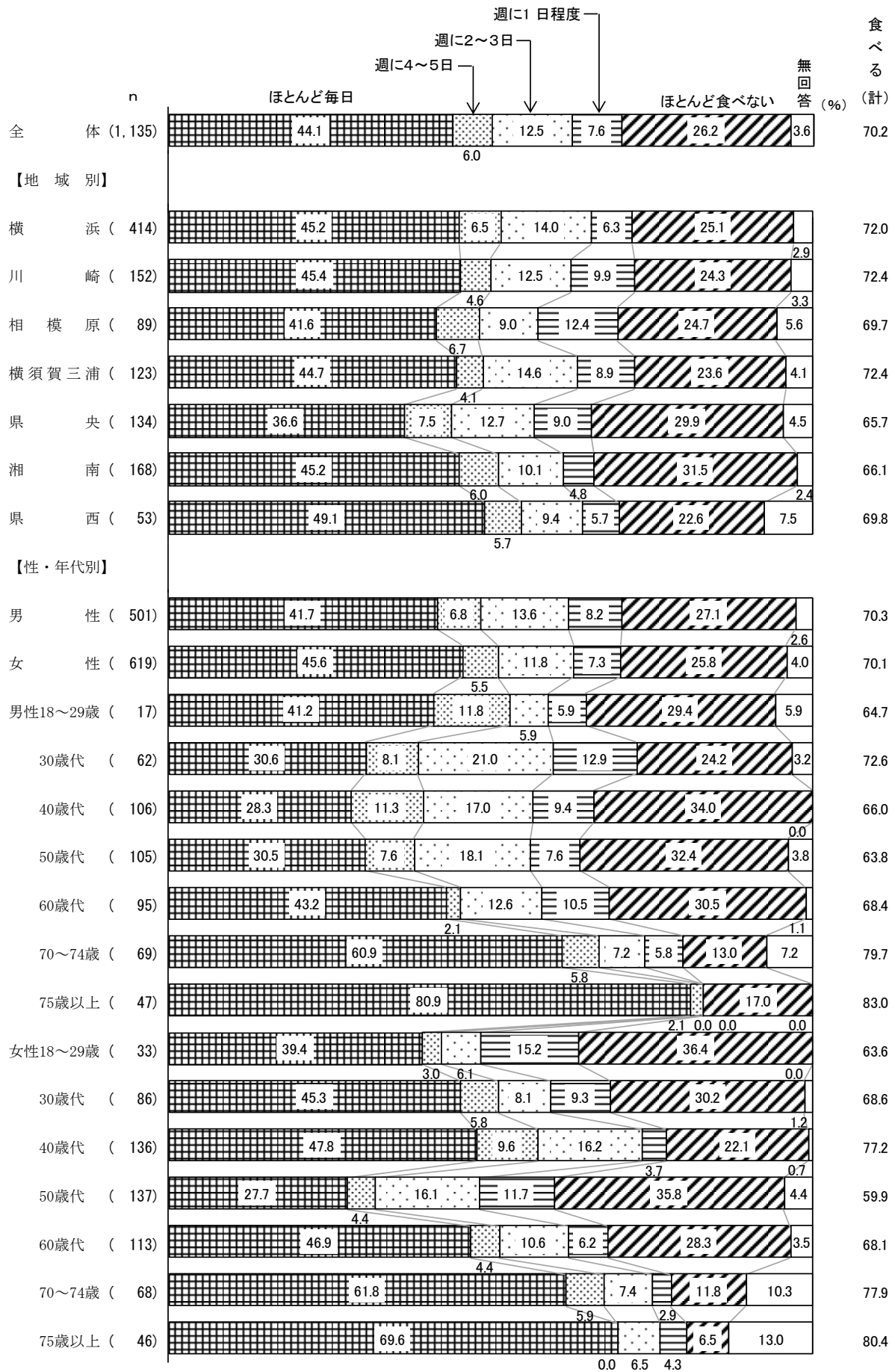
##### 【全体の状況】

複数人でお住まいの1,135人に、朝食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日」が44.1%で最も多く、次いで「ほとんど食べない」が26.2%であった。(図表1-4-1)

図表1-4-1 朝食を同居の方と食べる頻度



図表1-4-2 朝食を同居の方と食べる頻度—地域別、性・年代別

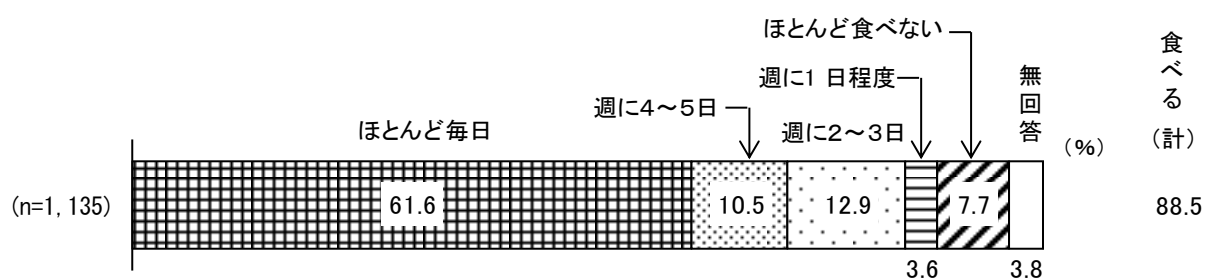


## 5 夕食を同居の方と食べる頻度【問4-2】

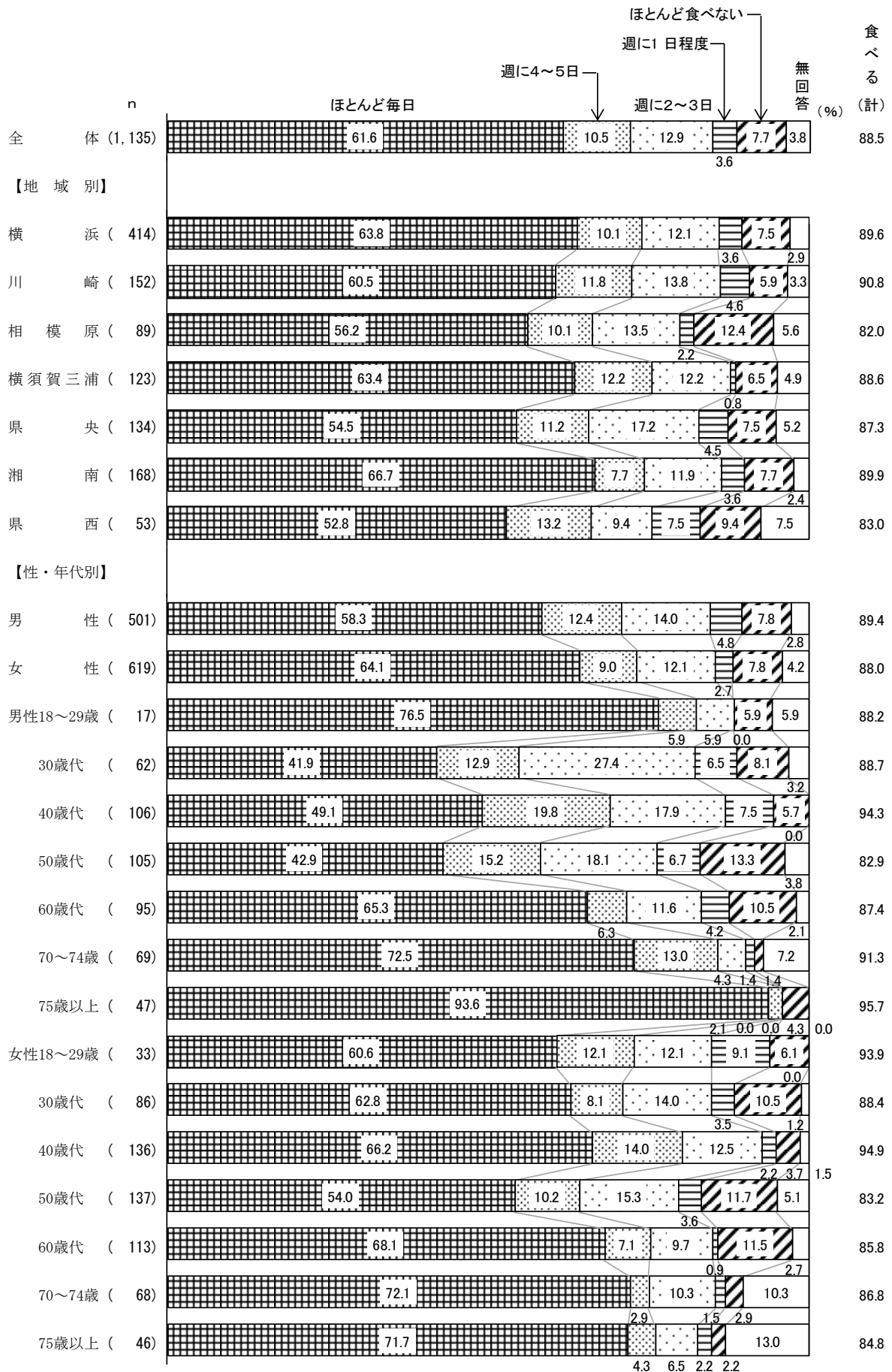
### 【全体の状況】

複数人でお住まいの1,135人に、夕食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日」が61.6%で最も多く、次いで「週に2～3日」が12.9%であった。（図表1-5-1）

図表1-5-1 夕食を同居の方と食べる頻度



図表1-5-2 夕食を同居の方と食べる頻度—地域別、性・年代別

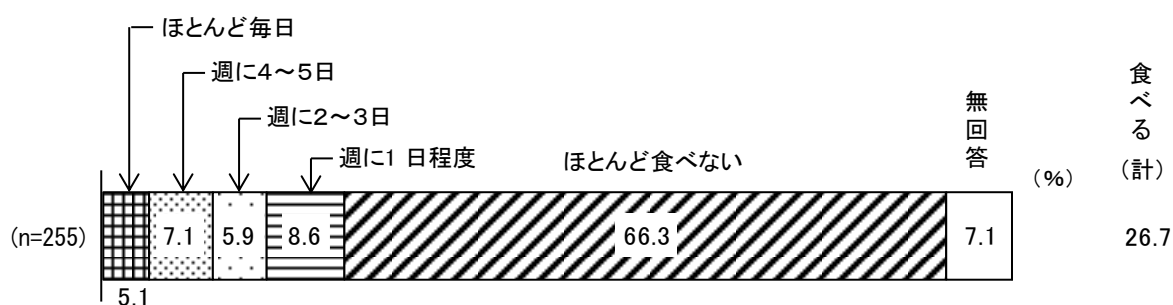


## 6 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度【問5-1】

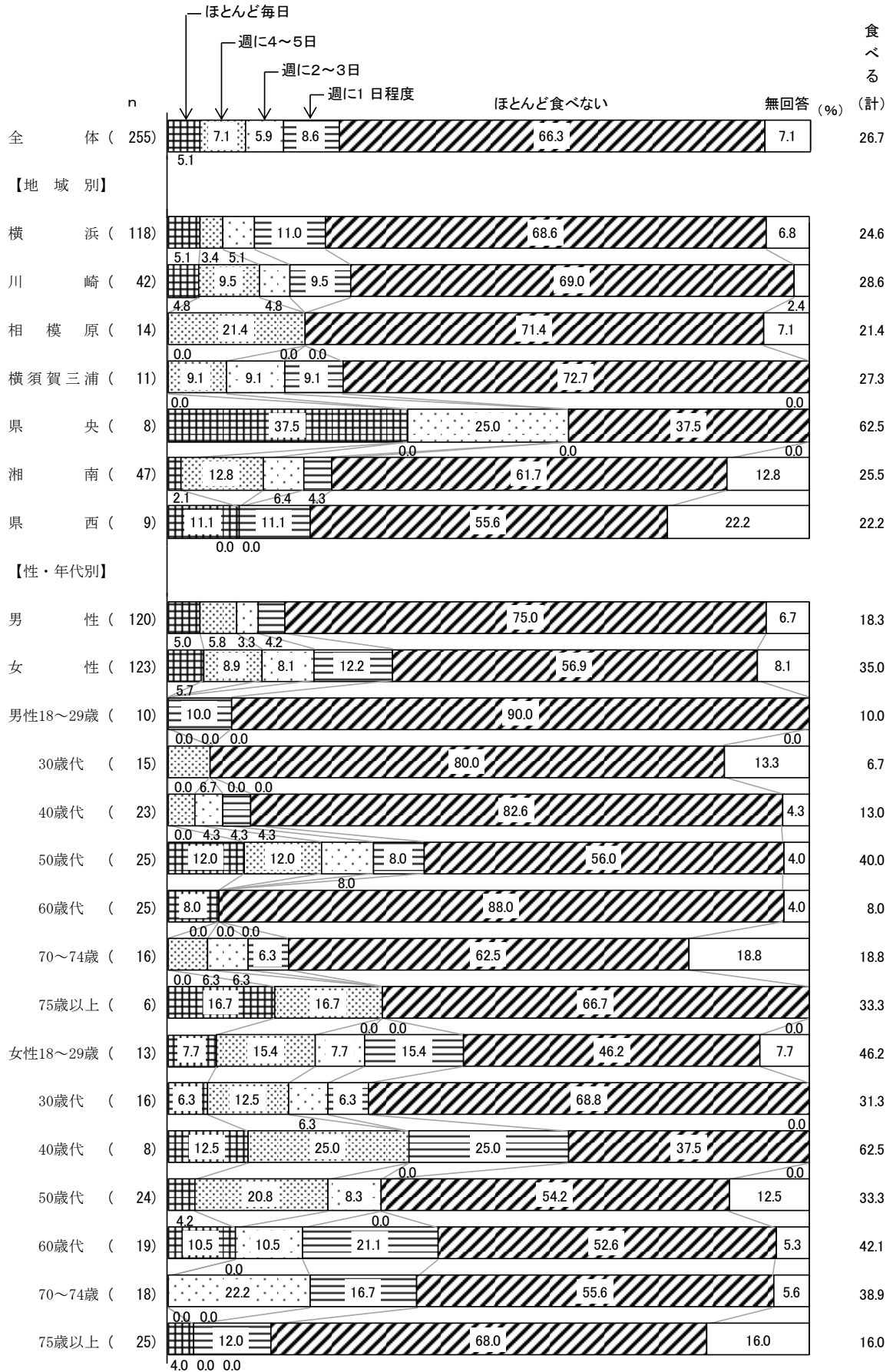
### 【全体の状況】

一人暮らしの255人に、昼食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が66.3%で最も多く、次いで「週に1日程度」が8.6%であった。(図表1-6-1)

図表1-6-1 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度



図表1-6-2 屋食を仲間や友人など複数人で食べる頻度—地域別、性・年代別  
(サンプル数が少ないため参考)



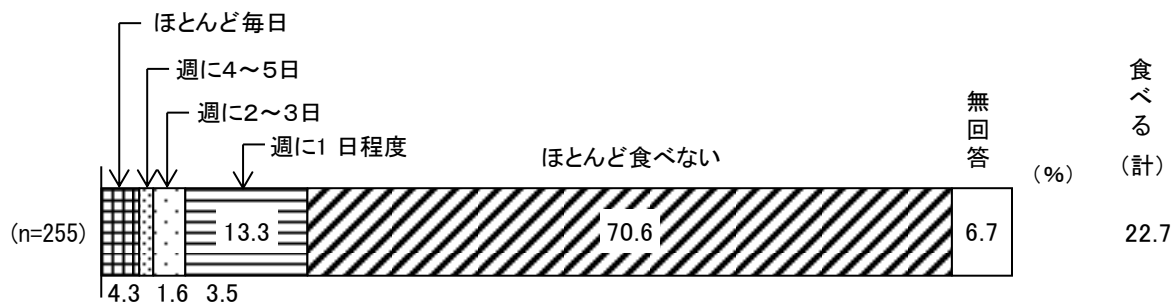


## 7 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度【問5-2】

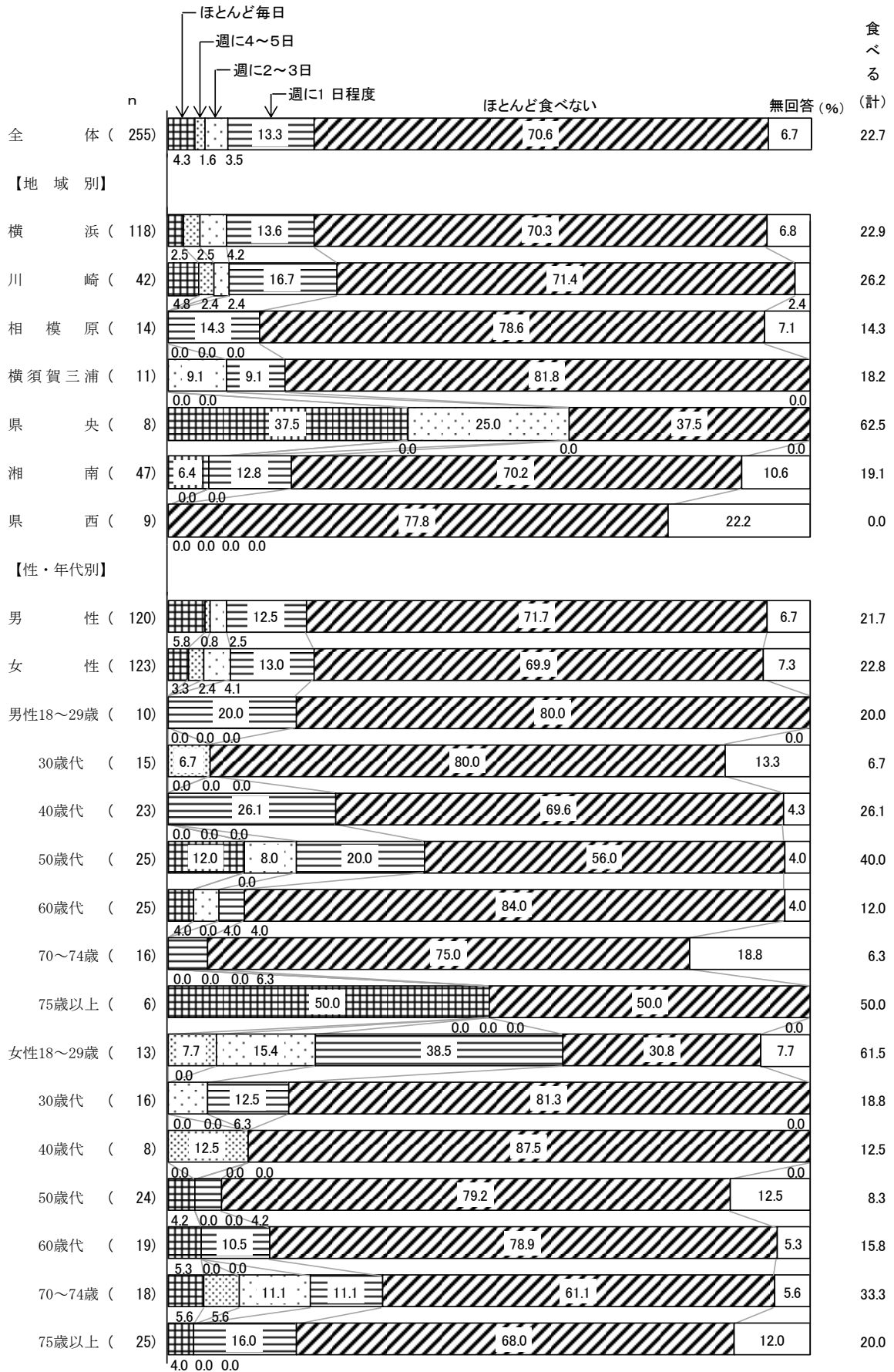
### 【全体の状況】

一人暮らしの255人に、夕食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が70.6%で最も多く、次いで「週に1日程度」が13.3%であった。(図表1-7-1)

図表1-7-1 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度



図表1-7-2 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度—地域別、性・年代別  
(サンプル数が少ないため参考)



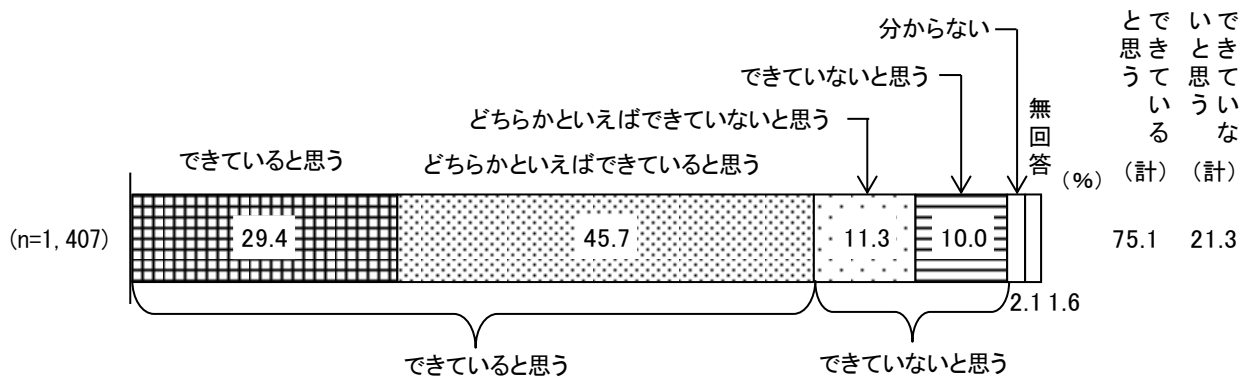
## 8 食事のマナーを正しくできていることへの意識【問6】

### 【全体の状況】

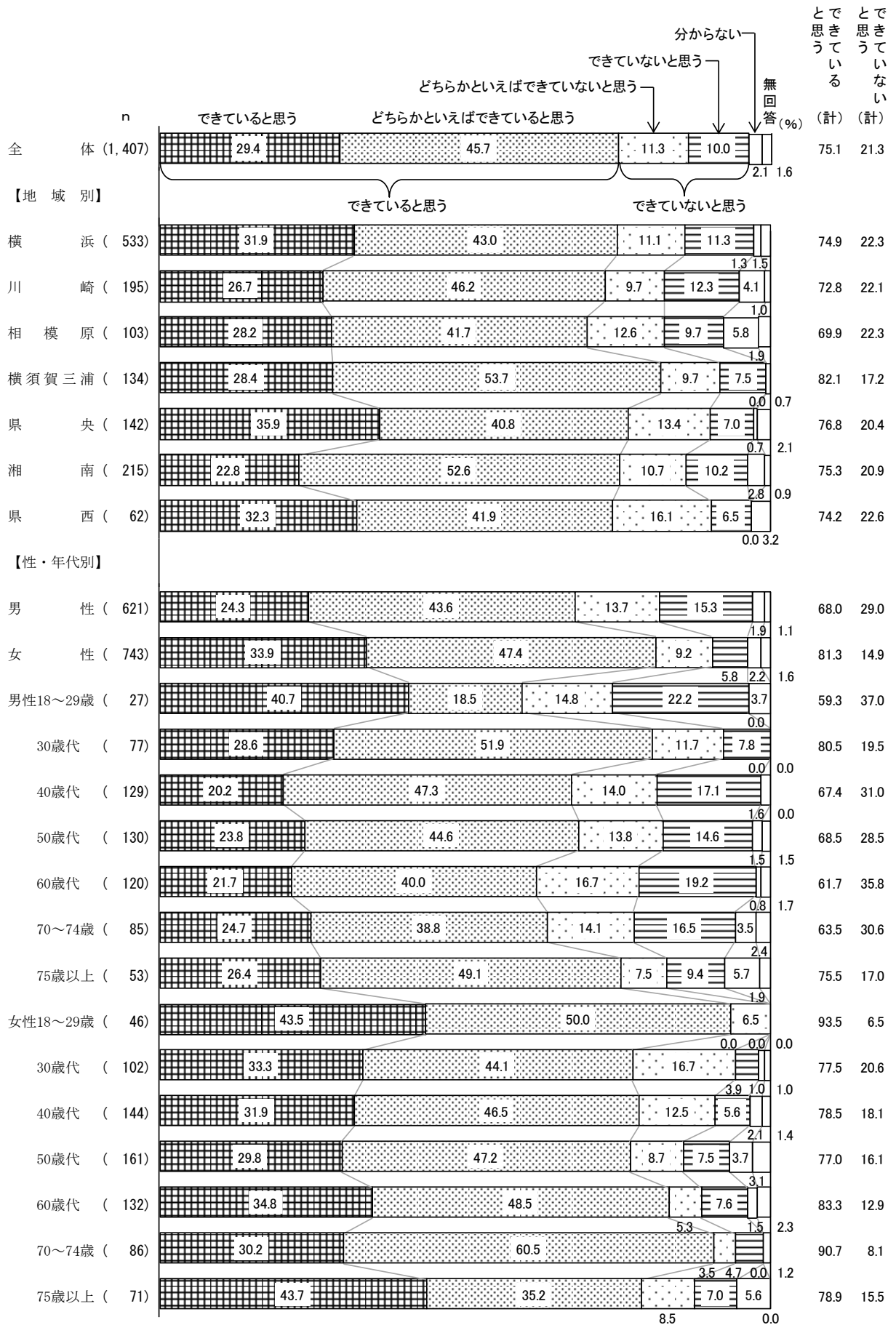
いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など食事のマナーを正しくできていると思うか尋ねたところ、「できていると思う」(29.4%)と「どちらかといえばできていると思う」(45.7%)を合わせた《できていると思う》は75.1%であった。

一方、「できていないと思う」(10.0%)と「どちらかといえばできていないと思う」(11.3%)を合わせた《できていないと思う》は21.3%であった。(図表1-8-1)

図表1-8-1 食事のマナーを正しくできていることへの意識



図表1-8-2 食事のマナーを正しくできていることへの意識—地域別、性・年代別



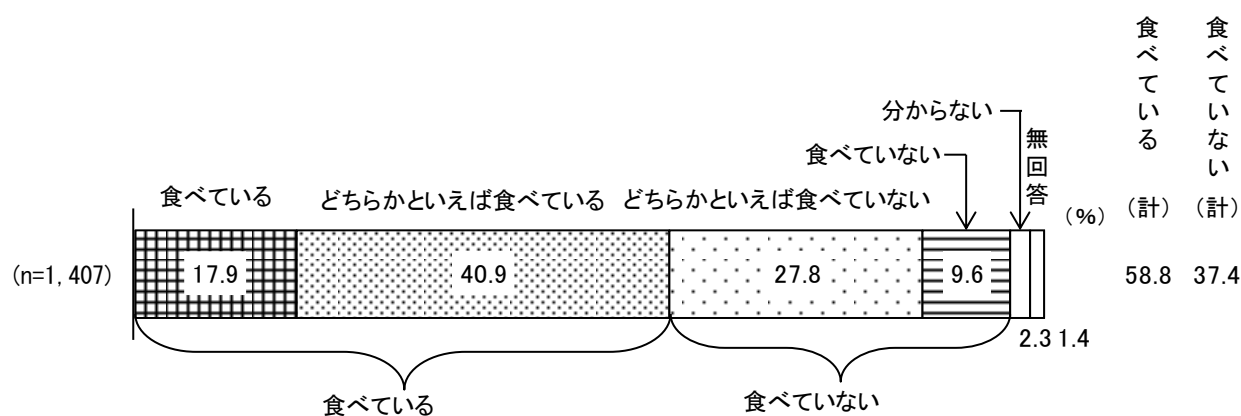
## 9 ゆっくりよく噛んで食べているか【問7】

### 【全体の状況】

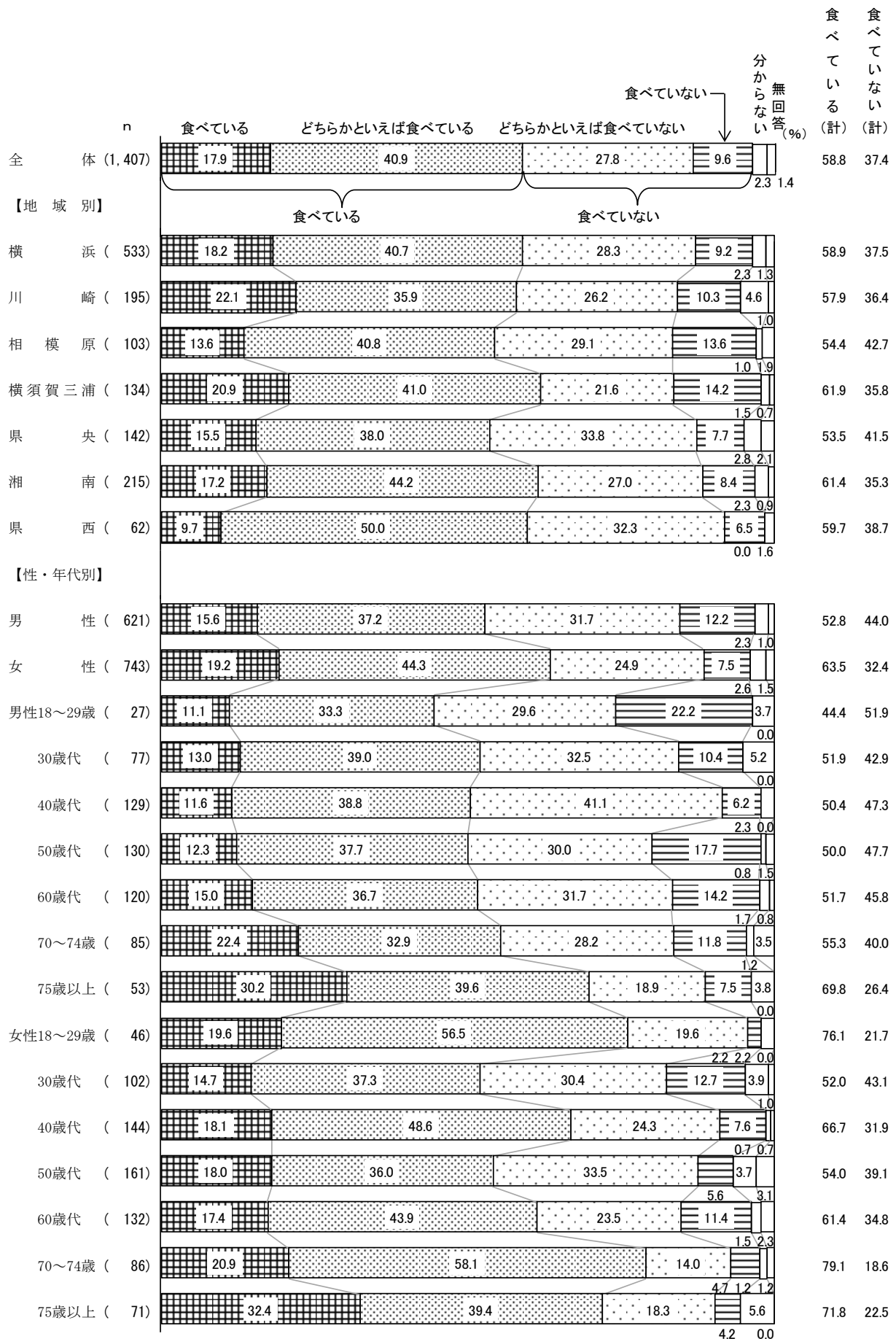
ゆっくりよく噛んで食べているか尋ねたところ、「食べている」(17.9%)と「どちらかといえば食べている」(40.9%)を合わせた《食べている》は58.8%であった。

一方、「食べていない」(9.6%)と「どちらかといえば食べていない」(27.8%)を合わせた《食べていない》は37.4%であった。(図表1-9-1)

図表1-9-1 ゆっくりよく噛んで食べているか



図表1-9-2 ゆっくりよく噛んで食べているかー地域別、性・年代別



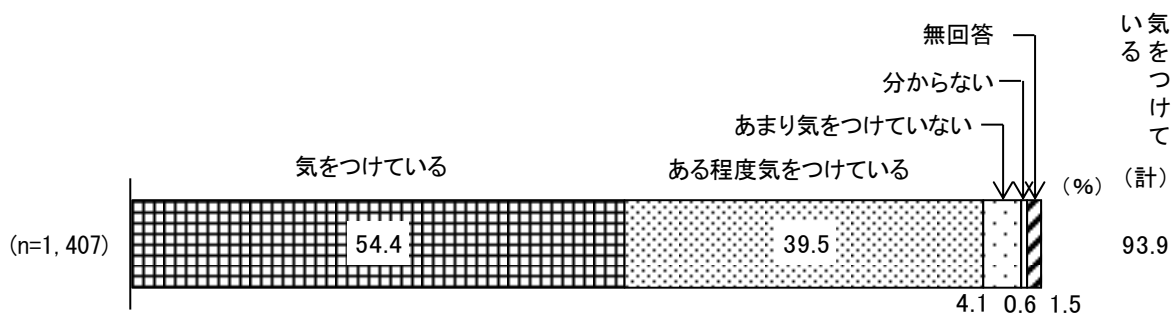
## 10 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか【問8】

### 【全体の状況】

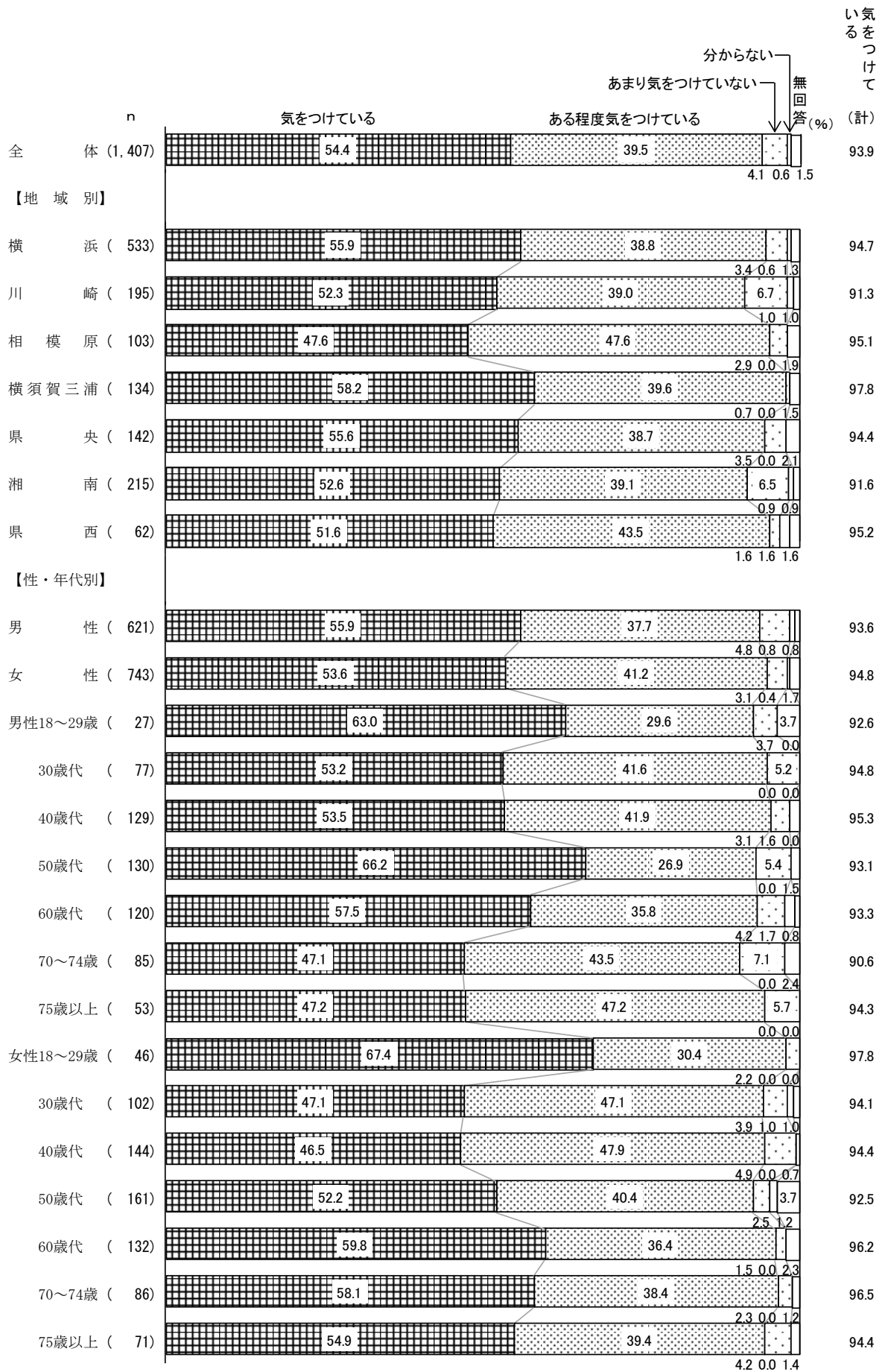
食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか尋ねたところ、「気をつけている」が54.4%であった。

一方、「あまり気をつけていない」は、4.1%であった。(図表1-10-1)

図表1-10-1 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか



図表1-10-2 食べ残しや買いすぎなどに気をつけているかー地域別、性・年代別





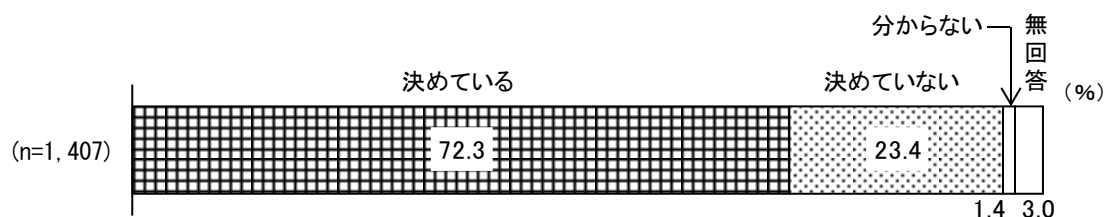
## 11 歯と口の健康を保つためにかかりつけ医を決めているか【問9】

### 【全体の状況】

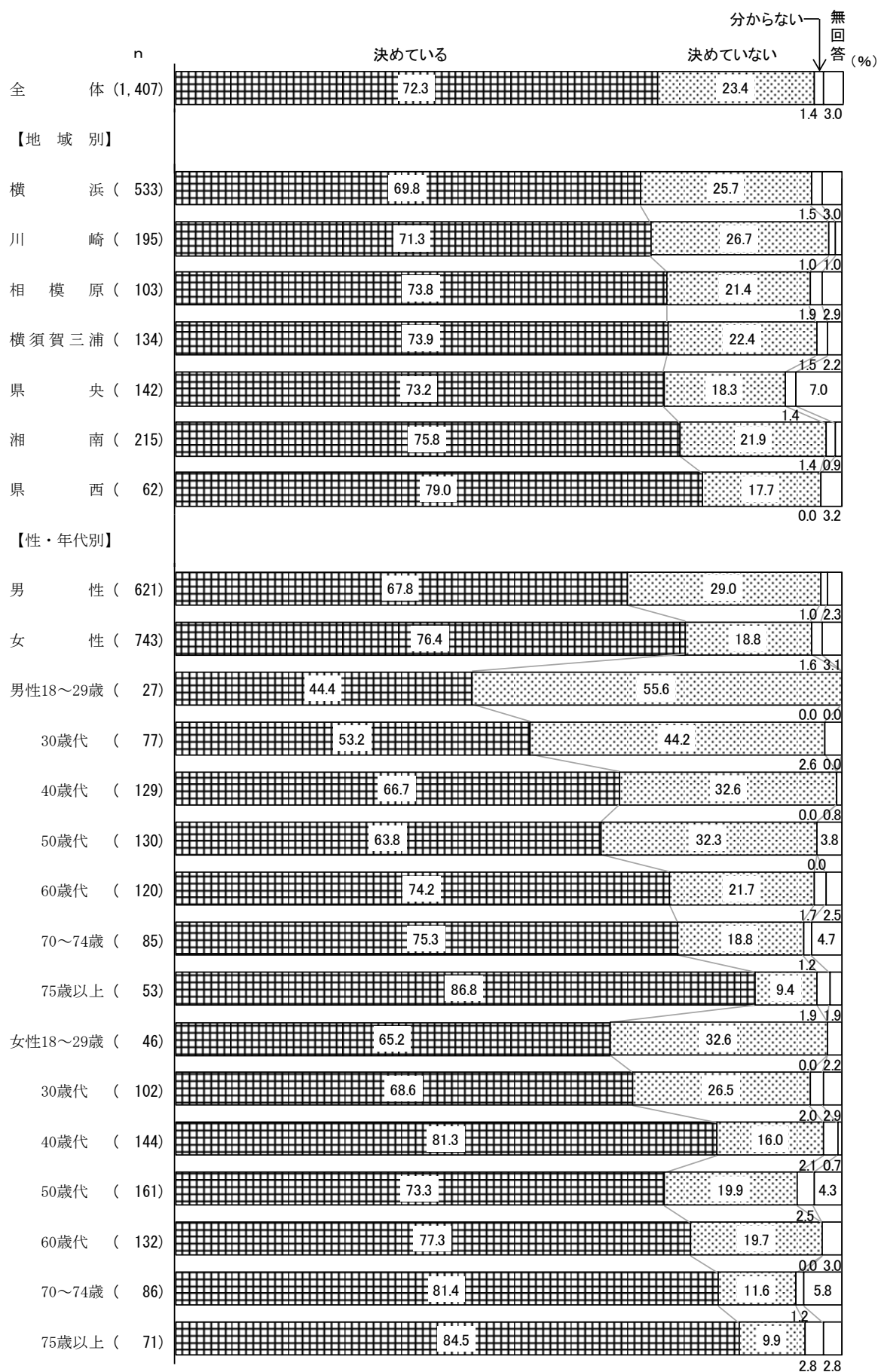
歯と口の健康を保つためにかかりつけ医を決めているか尋ねたところ、「決めている」が72.3%であった。

一方、「決めていない」は、23.4%であった。(図表1-11-1)

図表1-11-1 歯と口の健康を保つためにかかりつけ医を決めているか



図表1-11-2 歯と口の健康を保つためにかかりつけ医を決めているか—地域別、性・年代別



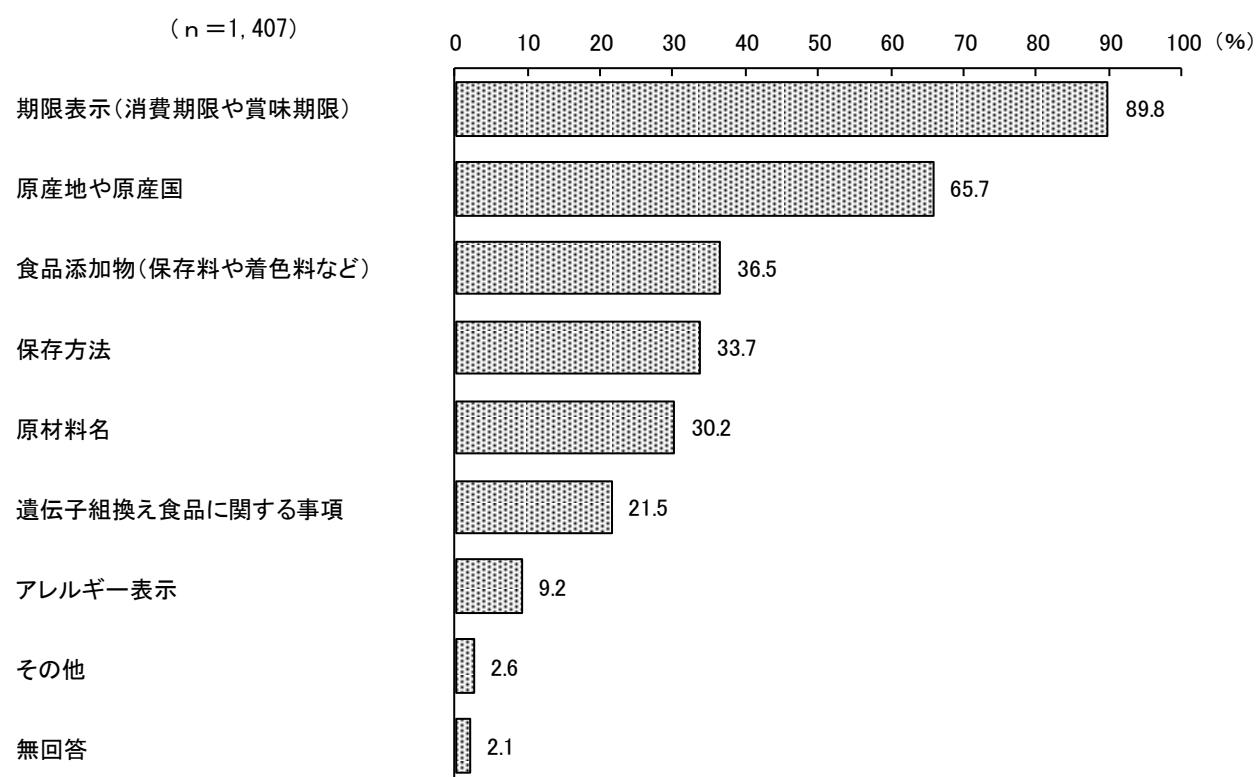
## 第2章 食の安心・安全【問10～問12】

### 1 食品を購入する際に確認している表示内容【問10】

#### 【全体の状況】

食品を購入する際に、確認している表示内容を複数回答で尋ねたところ、「期限表示（消費期限や賞味期限）」が89.8%で最も多く、次いで「原産地や原産国」が65.7%であった。（図表2-1-1）

図表2-1-1 食品を購入する際に確認している表示内容（複数回答）



図表2-1-2 食品を購入する際に確認している表示内容（複数回答）—地域別、性・年代別

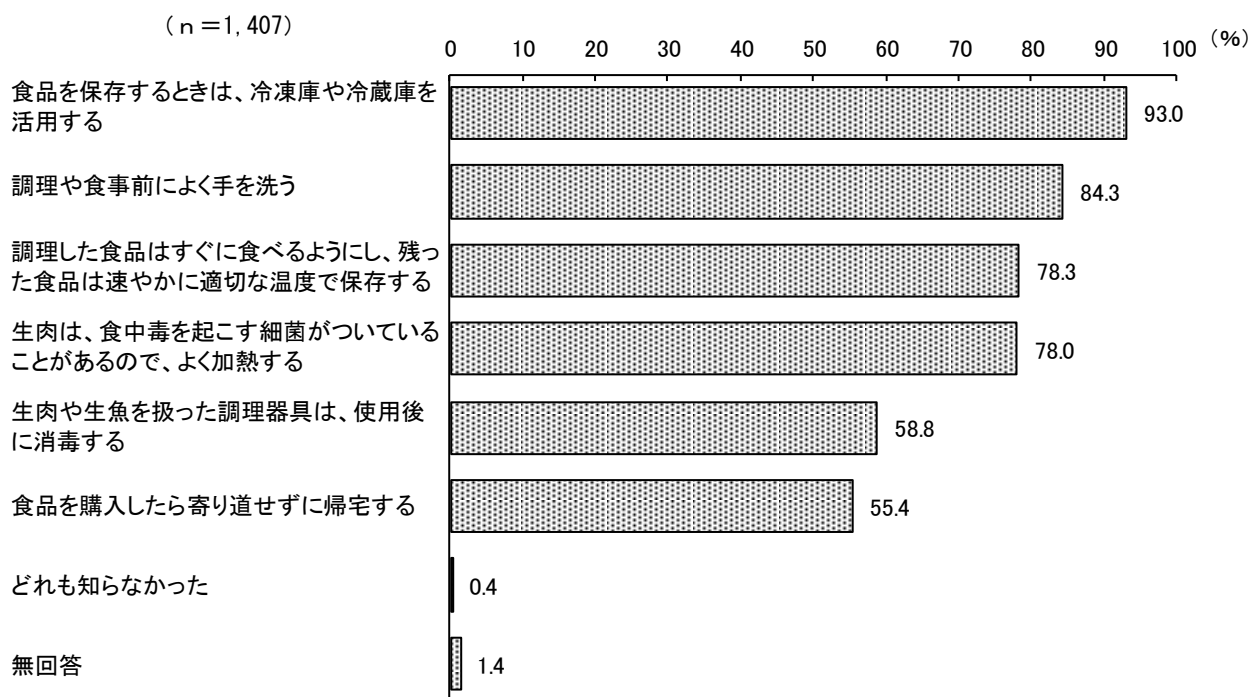
(%)										
	n	期限表示 (消費期限や賞味期限)	原産地や原産国	食品添加物 (保存料や着色料など)	保存方法	原材料名	遺伝子組換え食品に関する事項	アレルギー表示	その他	無回答
全体	1,407	89.8	65.7	36.5	33.7	30.2	21.5	9.2	2.6	2.1
【地域別】										
横浜	533	90.4	67.2	37.9	32.3	31.3	21.4	10.5	2.8	1.7
川崎	195	88.2	59.5	29.7	29.7	22.1	20.0	6.7	3.1	3.6
相模原	103	91.3	65.0	29.1	31.1	27.2	20.4	7.8	1.9	1.9
横須賀三浦	134	90.3	69.4	51.5	41.0	35.1	21.6	13.4	0.7	0.7
県央	142	87.3	63.4	43.7	31.7	30.3	21.8	9.2	2.1	3.5
湘南	215	91.2	68.4	31.2	38.6	32.6	21.9	6.5	3.3	0.9
県西	62	87.1	67.7	27.4	30.6	33.9	25.8	9.7	3.2	3.2
【性・年代別】										
男性	621	88.9	57.8	25.6	31.6	21.7	14.7	8.4	2.6	1.9
女性	743	90.6	73.6	45.9	34.6	37.8	27.3	9.6	2.6	2.0
男性18~29歳	27	85.2	25.9	11.1	25.9	14.8	3.7	18.5	7.4	0.0
30歳代	77	89.6	53.2	27.3	22.1	23.4	11.7	14.3	3.9	1.3
40歳代	129	85.3	57.4	27.9	31.0	19.4	17.8	4.7	0.8	1.6
50歳代	130	89.2	62.3	26.9	30.0	23.8	19.2	10.0	3.8	3.1
60歳代	120	91.7	57.5	21.7	35.8	24.2	9.2	5.8	1.7	2.5
70~74歳	85	90.6	61.2	22.4	40.0	20.0	17.6	8.2	2.4	2.4
75歳以上	53	88.7	66.0	35.8	30.2	20.8	13.2	5.7	1.9	0.0
女性18~29歳	46	93.5	50.0	32.6	19.6	26.1	8.7	13.0	0.0	0.0
30歳代	102	86.3	62.7	36.3	27.5	35.3	20.6	10.8	2.0	2.0
40歳代	144	91.0	78.5	42.4	22.9	41.0	32.6	8.3	2.8	0.7
50歳代	161	88.8	77.0	42.2	35.4	33.5	27.3	6.2	3.1	3.7
60歳代	132	90.9	76.5	50.0	40.2	37.9	30.3	12.1	3.8	3.0
70~74歳	86	93.0	82.6	61.6	46.5	43.0	32.6	11.6	2.3	1.2
75歳以上	71	94.4	70.4	57.7	52.1	46.5	25.4	8.5	1.4	1.4

## 2 食中毒を予防する上で重要なこと【問11】

### 【全体の状況】

食中毒を予防する上で重要なことがらについて、知っていることを複数回答で尋ねたところ、「食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する」が93.0%で最も多く、次いで「調理や食事前によく手を洗う」が84.3%であった。(図表2-2-1)

図表2-2-1 食中毒を予防する上で重要なこと（複数回答）



図表2-2-2 食中毒を予防する上で重要なこと（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	冷食 蔵庫を 保存す ると きは、 冷凍 庫や	調 理 や 食 事 前 に よ く 手 を 洗 う	に 調 理 し た 食 品 は す ぐ に 食 べ る よ う に 残 つ た 食 品 は 速 や か に 適 切 な 温 度 で 保 存 す る	熱 い 生 肉 は 、 食 中 毒 を 起 こ す 細 菌 が つ いて い る こ と が あ る の で 、 よ く 加 つ	使 用 後 に 生 肉 や 生 魚 を 扱 つ た 調 理 器 具 は 、 消 毒 す る	宅 食 品 を 購 入 し た ら 寄 り 道 せ ず に 帰 す る	ど れ も 知 ら な か つ た	無 回 答
全 体	1,407	93.0	84.3	78.3	78.0	58.8	55.4	0.4	1.4
【地 域 別】									
横 浜	533	94.2	84.1	80.1	79.5	61.0	59.7	0.4	1.1
川 崎	195	91.8	81.5	74.9	74.9	53.8	44.1	1.0	1.5
相 模 原	103	90.3	84.5	73.8	72.8	66.0	50.5	0.0	1.9
横 須 賀 三 浦	134	91.0	85.8	79.9	79.1	55.2	53.0	0.7	0.7
県 央	142	90.8	83.1	74.6	81.7	59.9	60.6	0.7	2.1
湘 南	215	94.4	87.0	81.4	78.6	58.6	55.8	0.0	0.5
県 西	62	95.2	88.7	74.2	75.8	53.2	58.1	0.0	1.6
【性・年代別】									
男 性	621	91.3	78.1	71.8	70.2	53.8	49.3	0.8	0.8
女 性	743	94.6	90.0	84.0	85.2	63.5	61.0	0.0	1.5
男性 18～29歳	27	74.1	70.4	59.3	63.0	55.6	22.2	3.7	0.0
30 歳 代	77	94.8	79.2	81.8	76.6	59.7	57.1	0.0	0.0
40 歳 代	129	92.2	79.1	71.3	72.9	58.9	49.6	0.8	0.0
50 歳 代	130	90.0	76.9	71.5	66.2	50.0	46.9	0.0	1.5
60 歳 代	120	90.8	76.7	70.8	76.7	58.3	54.2	0.8	0.8
70～74歳	85	91.8	77.6	69.4	64.7	41.2	48.2	1.2	2.4
75歳以上	53	96.2	84.9	71.7	62.3	50.9	47.2	1.9	0.0
女性 18～29歳	46	89.1	87.0	89.1	80.4	69.6	63.0	0.0	0.0
30 歳 代	102	95.1	89.2	82.4	89.2	62.7	64.7	0.0	1.0
40 歳 代	144	97.2	94.4	81.9	88.2	66.7	59.0	0.0	0.7
50 歳 代	161	90.7	89.4	80.7	85.7	61.5	54.7	0.0	3.1
60 歳 代	132	94.7	90.9	87.1	84.8	68.2	68.2	0.0	2.3
70～74歳	86	95.3	86.0	83.7	77.9	52.3	55.8	0.0	1.2
75歳以上	71	100.0	88.7	88.7	84.5	63.4	64.8	0.0	0.0

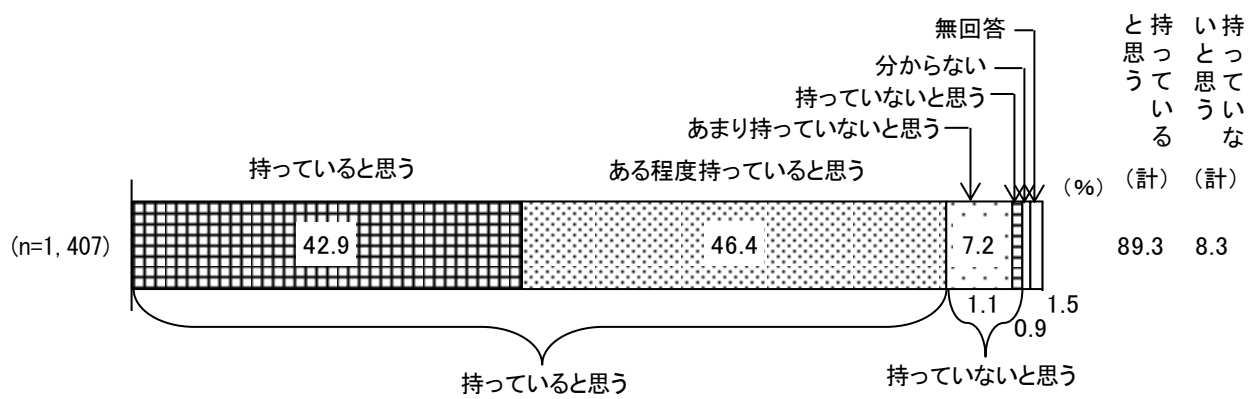
### 3 食品を安全に食べるために必要な知識【問12】

#### 【全体の状況】

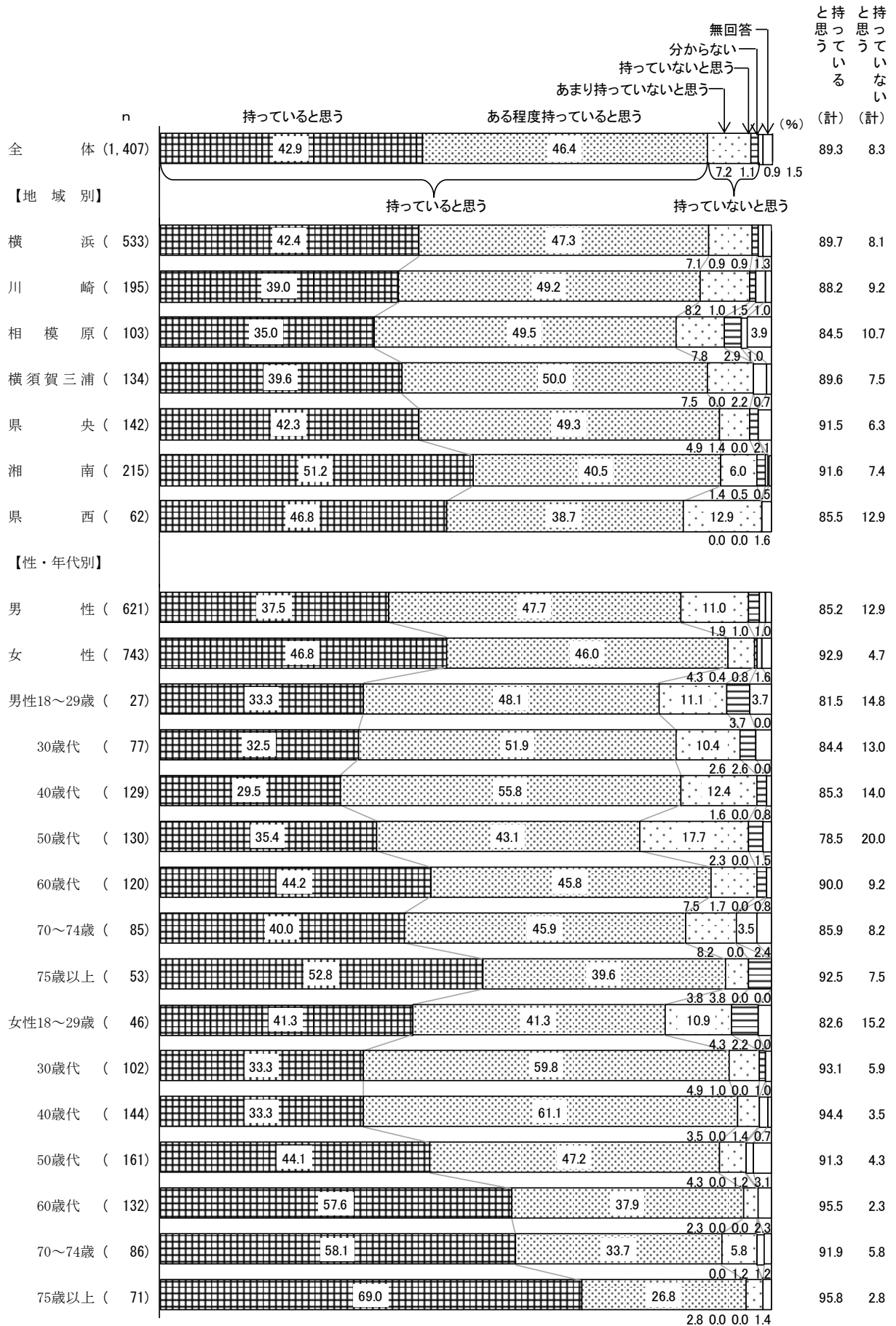
食品を安全に食べるために、必要な知識（例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど）を持っていると思うか尋ねたところ、「持っていると思う」（42.9%）と「ある程度持っていると思う」（46.4%）を合わせた《持っていると思う》は89.3%であった。

一方、「持っていないと思う」（1.1%）と「あまり持っていないと思う」（7.2%）を合わせた《持っていないと思う》は8.3%であった。（図表2-3-1）

図表2-3-1 食品を安全に食べるために必要な知識



図表2-3-2 食品を安全に食べるために必要な知識—地域別、性・年代別





### 第3章 神奈川の農林水産業【問13～問15】

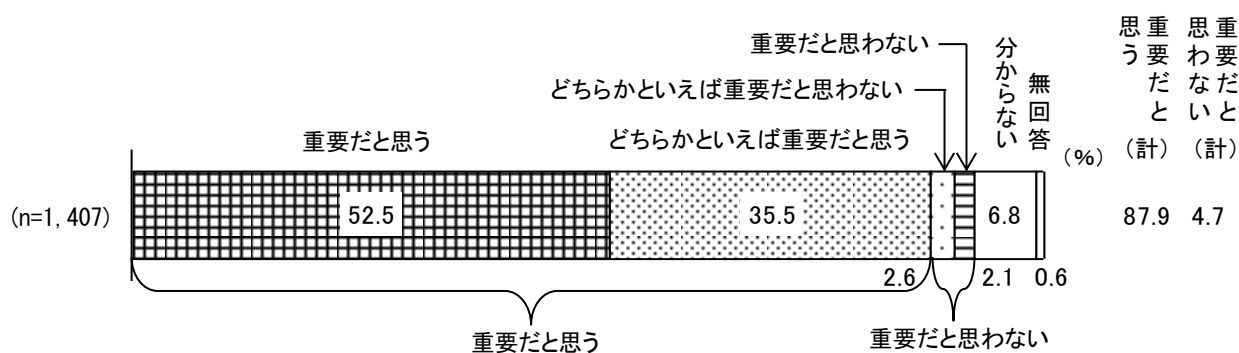
#### 1 「地産地消」の取組みの重要度【問13】

##### 【全体の状況】

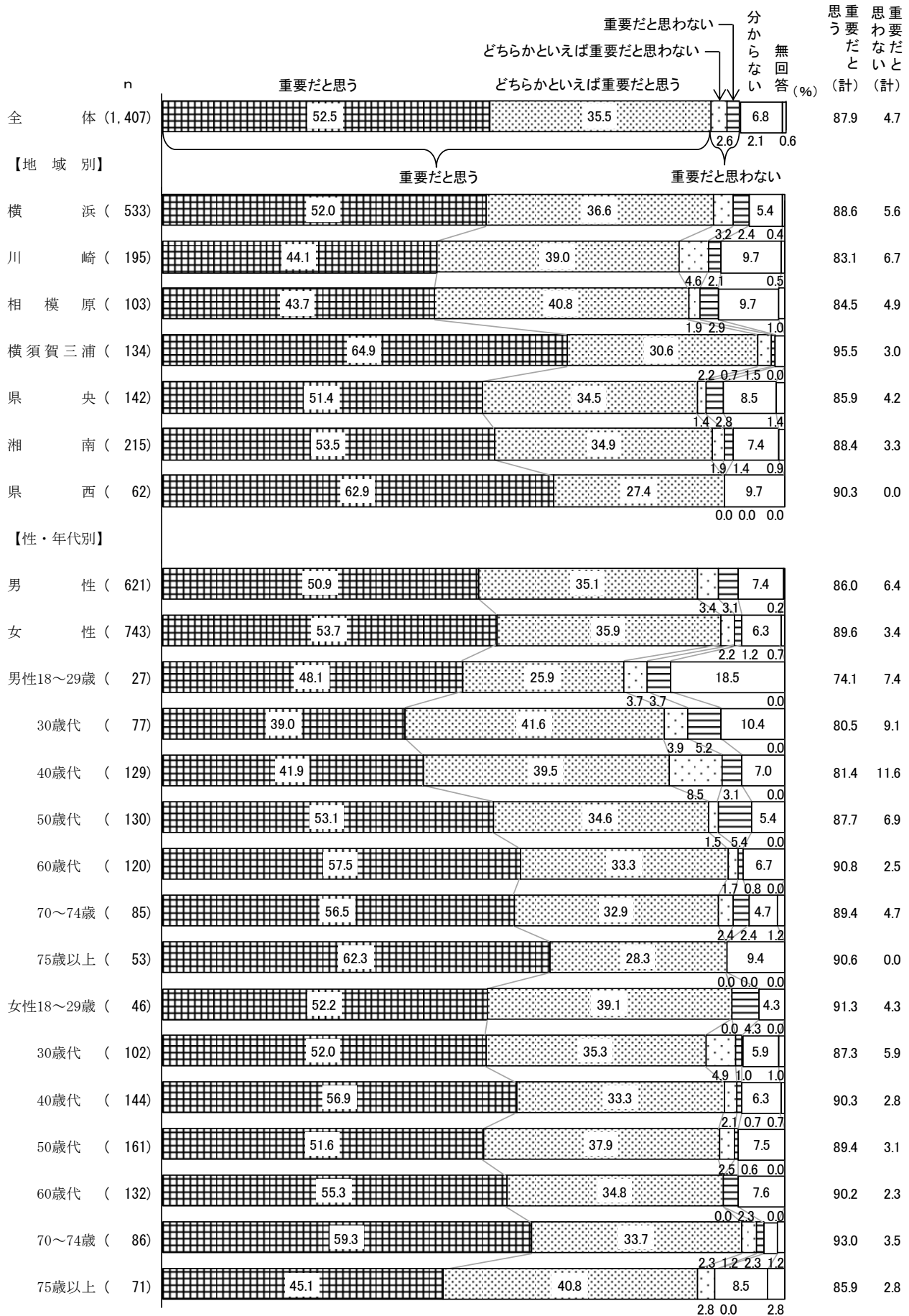
県内の農林水産業を活性化する上で、「地産地消」の取組みを重要だと思うか尋ねたところ、「重要だと思う」(52.5%)と「どちらかといえば重要だと思う」(35.5%)を合わせた《重要だと思う》は87.9%であった。

一方、「重要だと思わない」(2.1%)と「どちらかといえば重要だと思わない」(2.6%)を合わせた《重要だと思わない》は4.7%であった。(図表3-1-1)

図表3-1-1 「地産地消」の取組みの重要度



図表3-1-2 「地産地消」の取組みの重要度—地域別、性・年代別



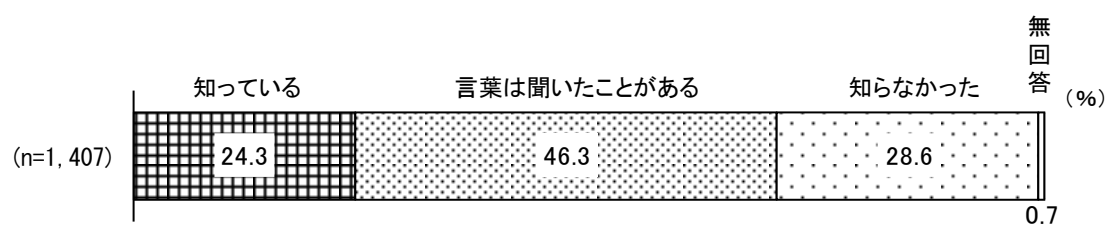
## 2 「かながわブランド」の認知度【問14】

### 【全体の状況】

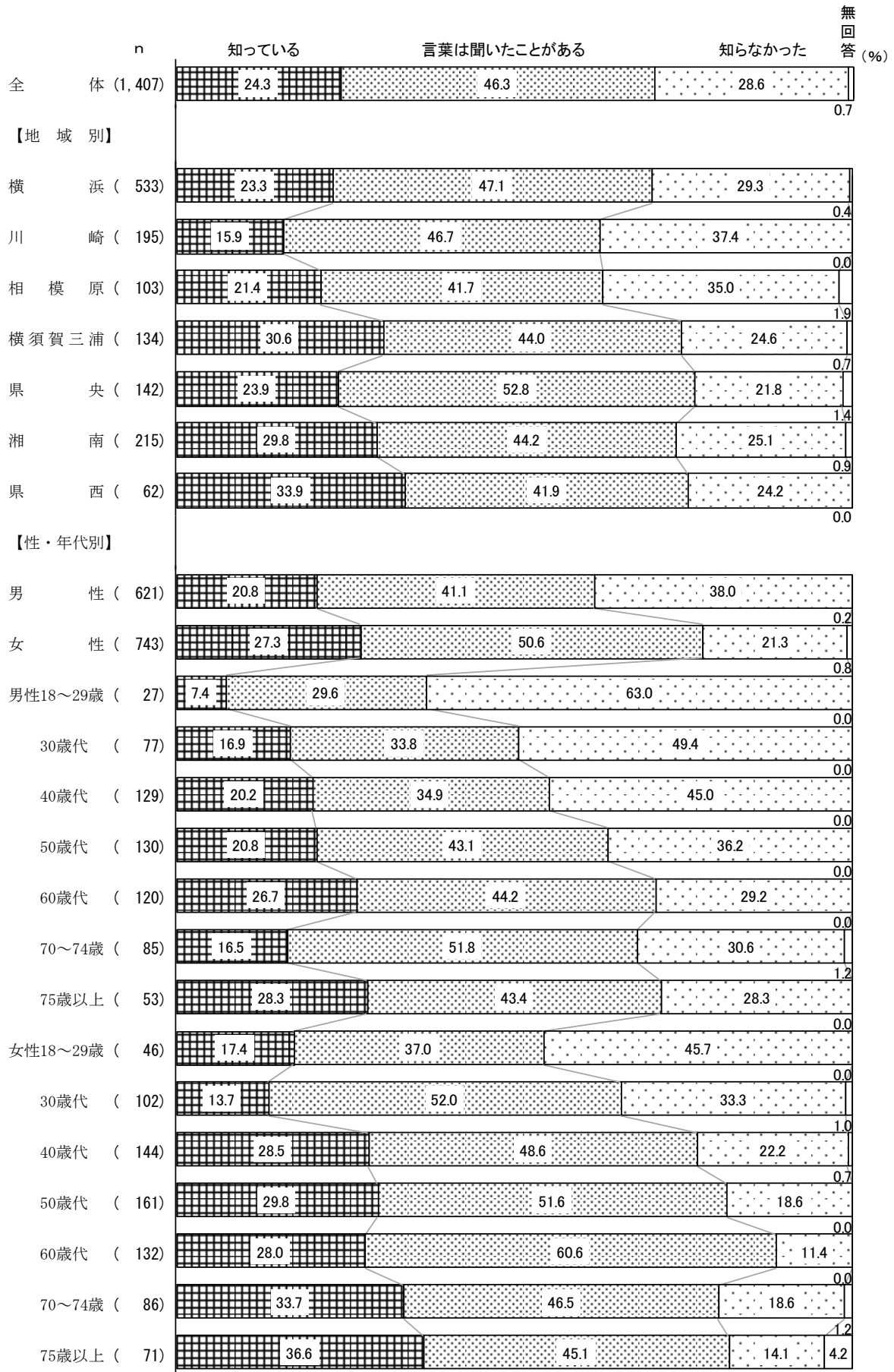
「かながわブランド」という言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が24.3%であった。

一方、「知らなかった」は、28.6%であった。(図表 3-2-1)

図表3-2-1 「かながわブランド」の認知度



図表3-2-2 「かながわブランド」の認知度—地域別、性・年代別

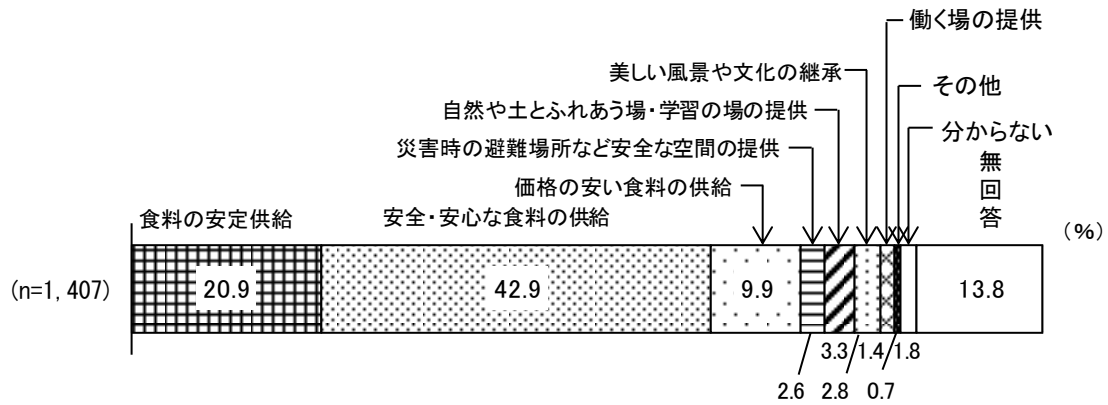


### 3 県の農業に期待する役割【問15】

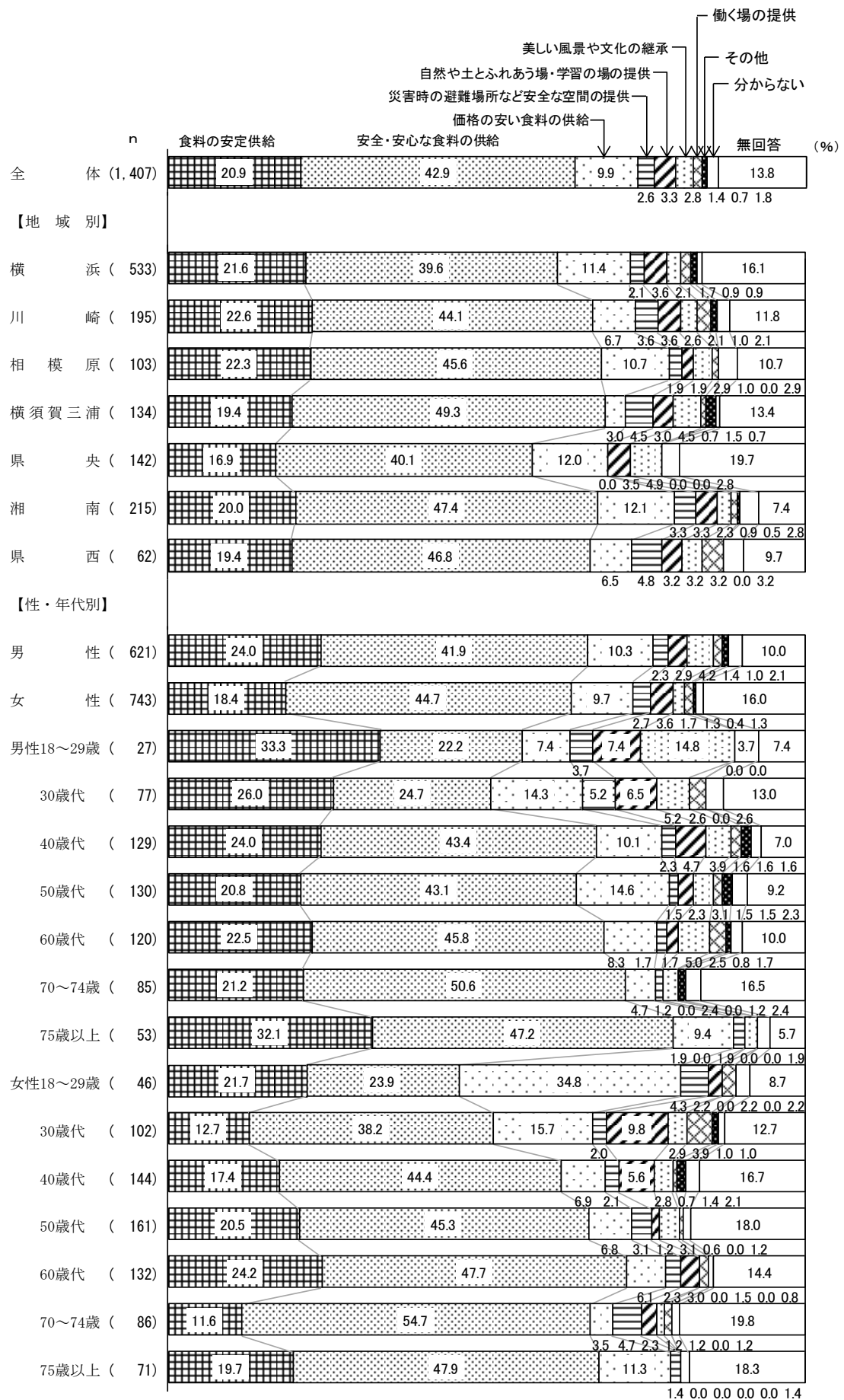
#### 【全体の状況】

県の農業に特にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」が42.9%で最も多く、次いで「食料の安定供給」が20.9%であった。(図表3-3-1)

図表3-3-1 県の農業に期待する役割



図表3-3-2 県の農業に期待する役割—地域別、性・年代別



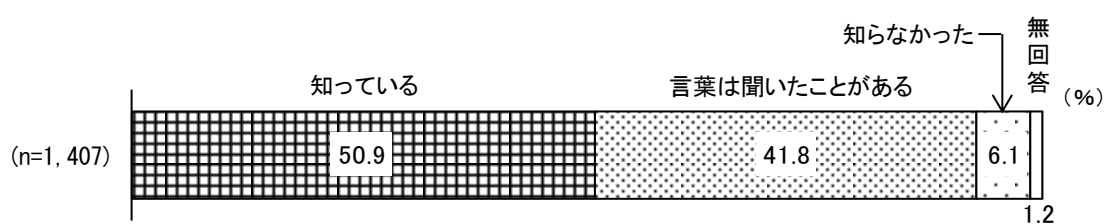
## 第4章 肝炎対策【問16～問17】

### 1 ウイルス性肝炎の認知度【問16】

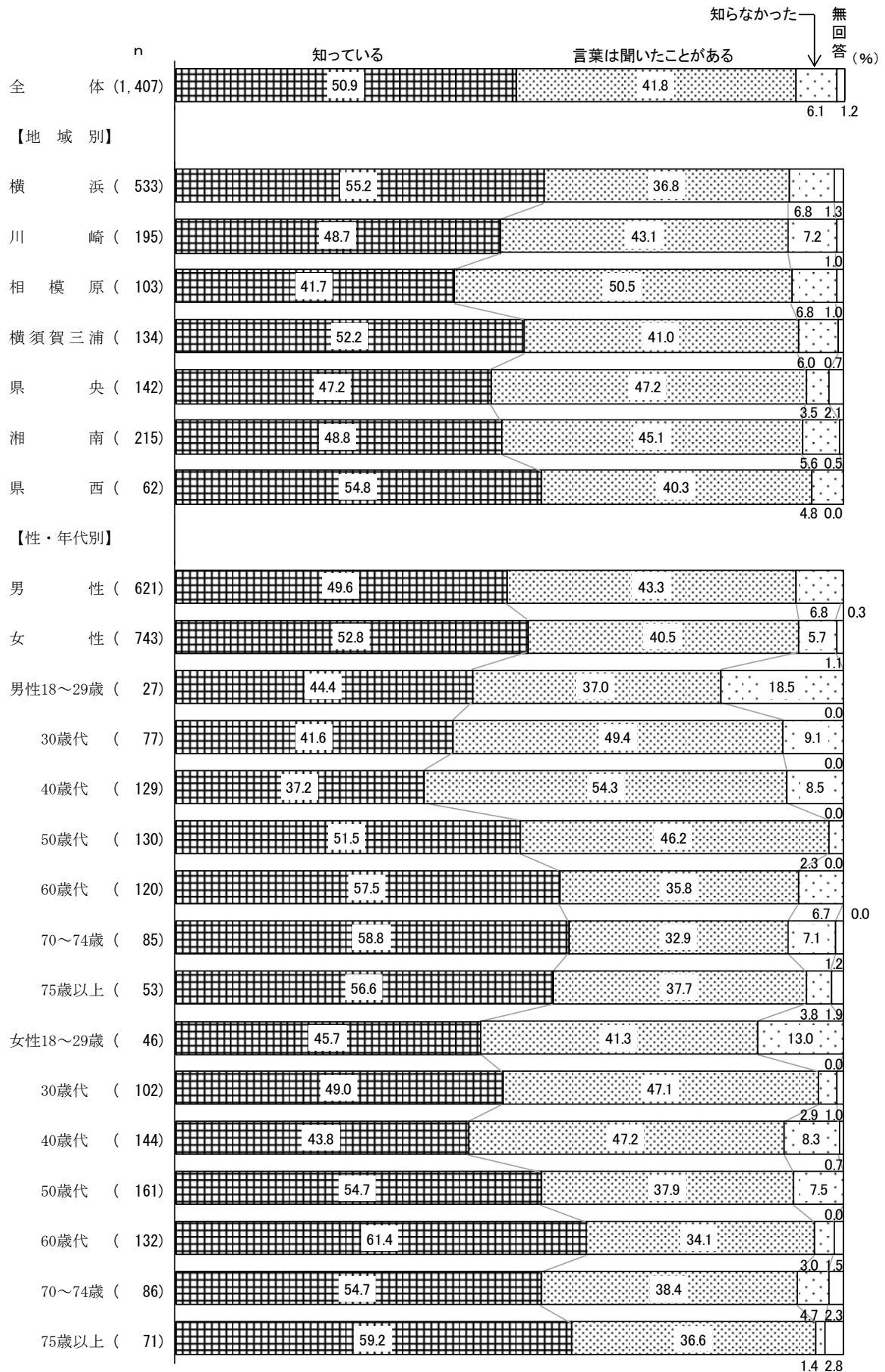
#### 【全体の状況】

ウイルス性肝炎という病気を知っているか尋ねたところ、「知っている」が50.9%であった。一方、「知らなかった」は、6.1%であった。(図表4-1-1)

図表4-1-1 ウイルス性肝炎の認知度



図表4-1-2 ウイルス性肝炎の認知度—地域別、性・年代別





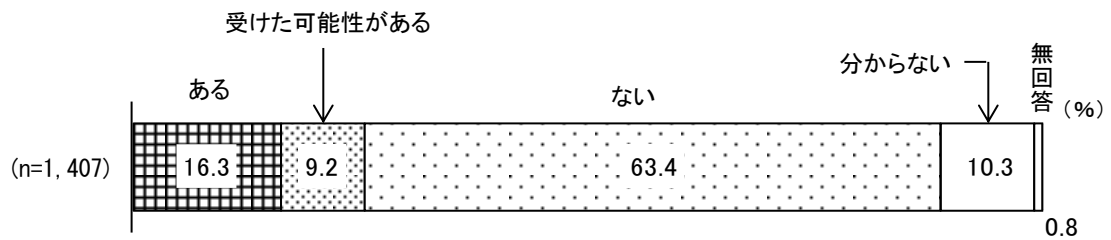
## 2 「肝炎ウイルス検査」の受検状況【問17】

### 【全体の状況】

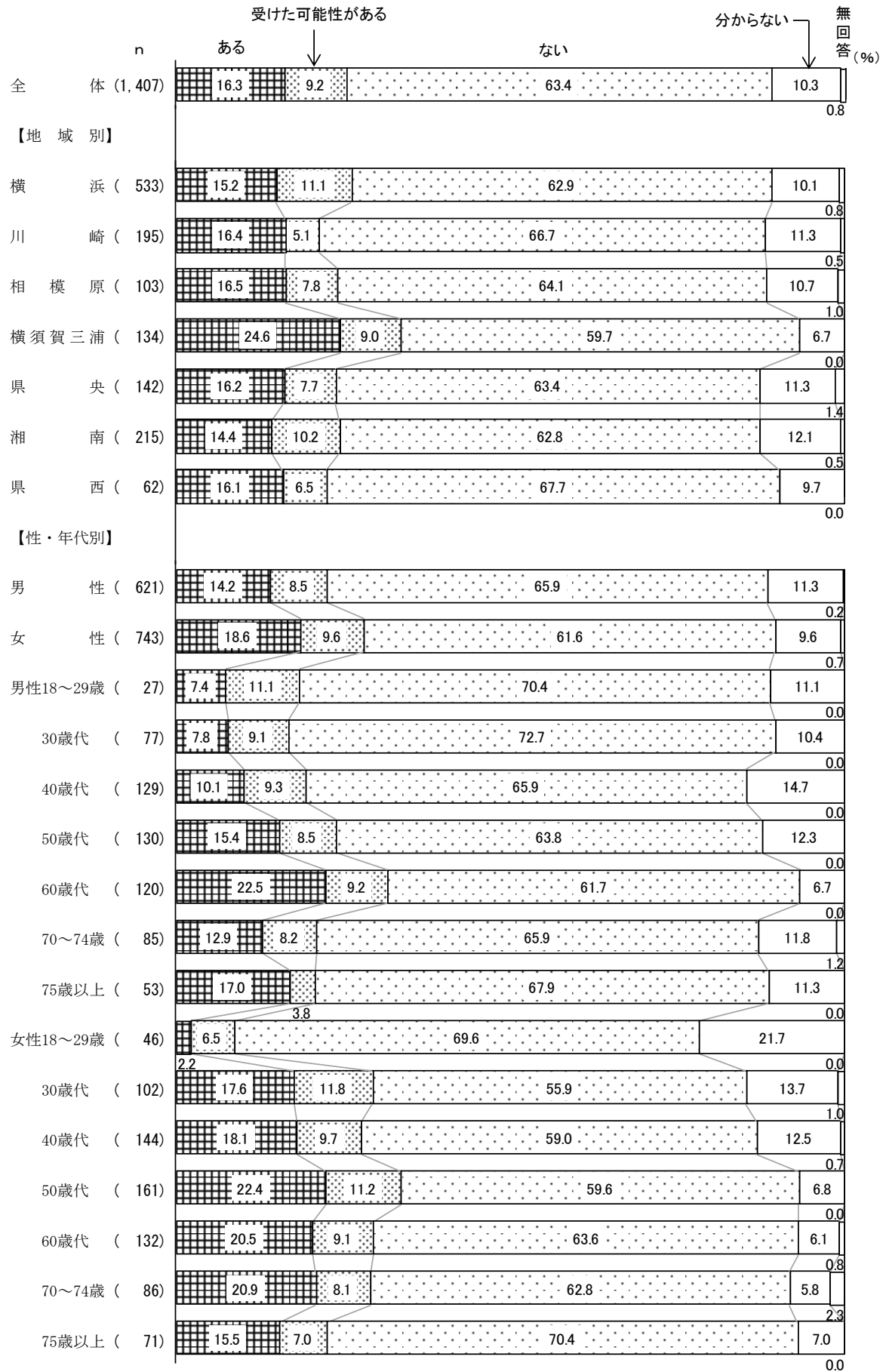
これまでに「肝炎ウイルス検査」を受けたことがあるかを尋ねたところ、「ある」が16.3%であった。

一方、「ない」が63.4%であった。(図表 4-2-1)

図表4-2-1 「肝炎ウイルス検査」の受検状況



図表4-2-2 「肝炎ウイルス検査」の受検状況—地域別、性・年代別



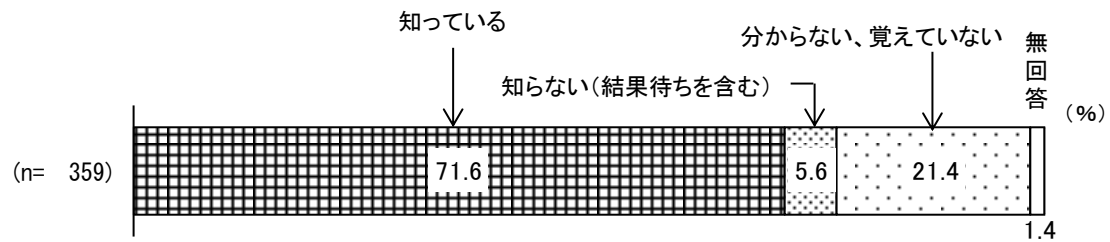
### 3 検査結果の把握状況【問17-1】

#### 【全体の状況】

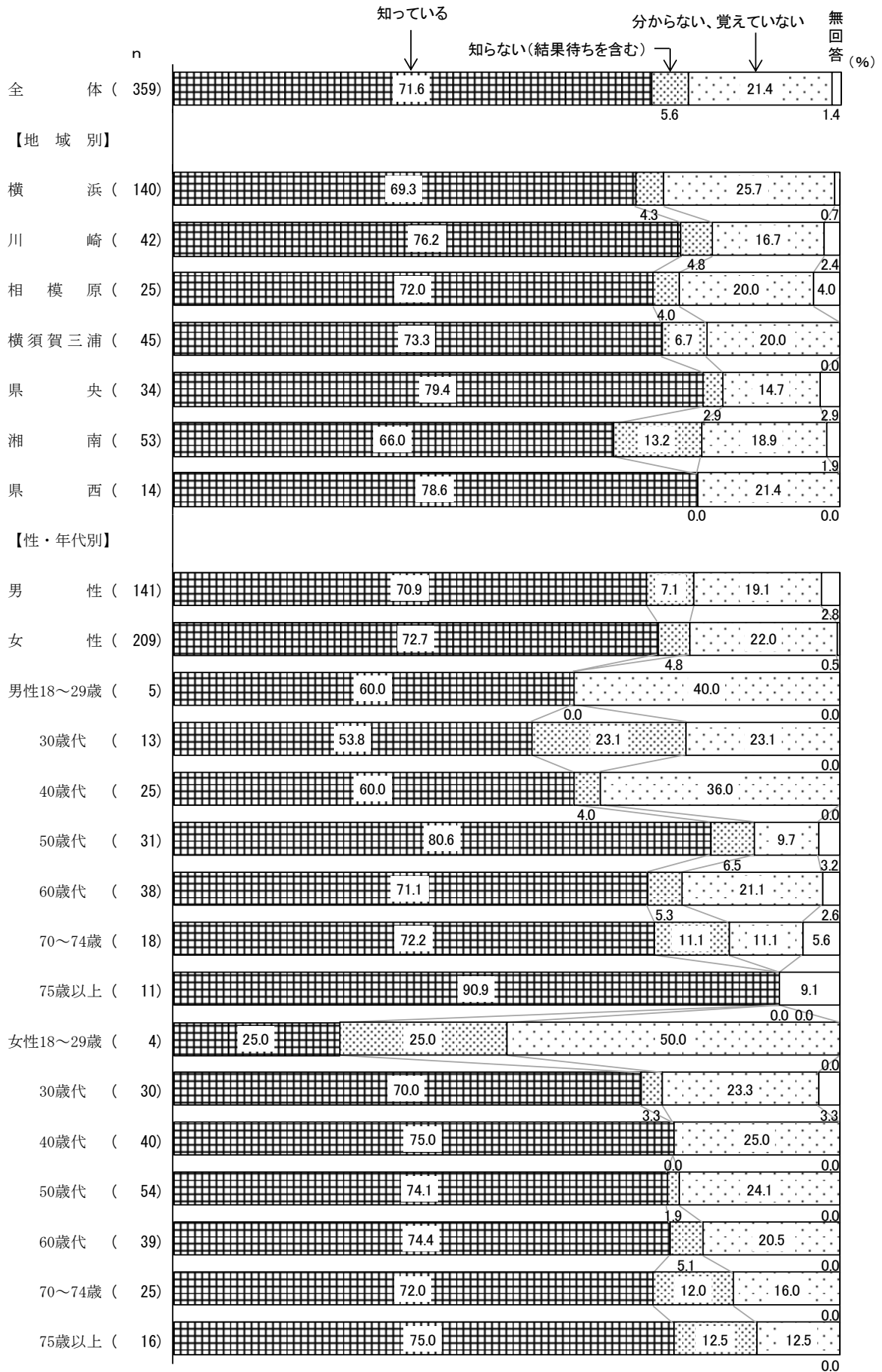
「肝炎ウイルス検査」の受検状況（問17）で、「ある」または「受けた可能性がある」と回答した359人に、検査の結果を知っているか尋ねたところ、「知っている」が71.6%であった。

一方、「知らない（結果待ちを含む）」は、5.6%であった。（図表4-3-1）

図表4-3-1 検査結果の把握状況



図表4-3-2 検査結果の把握状況—地域別、性・年代別



## 第5章 将来の住まい【問18～問19】

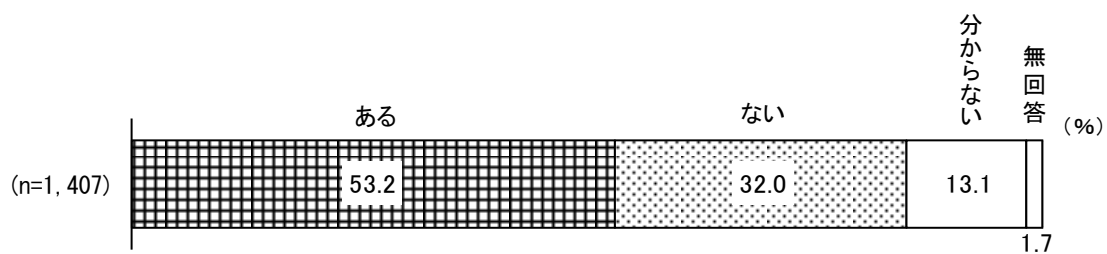
### 1 将来の住まいに対する不安【問18】

#### 【全体の状況】

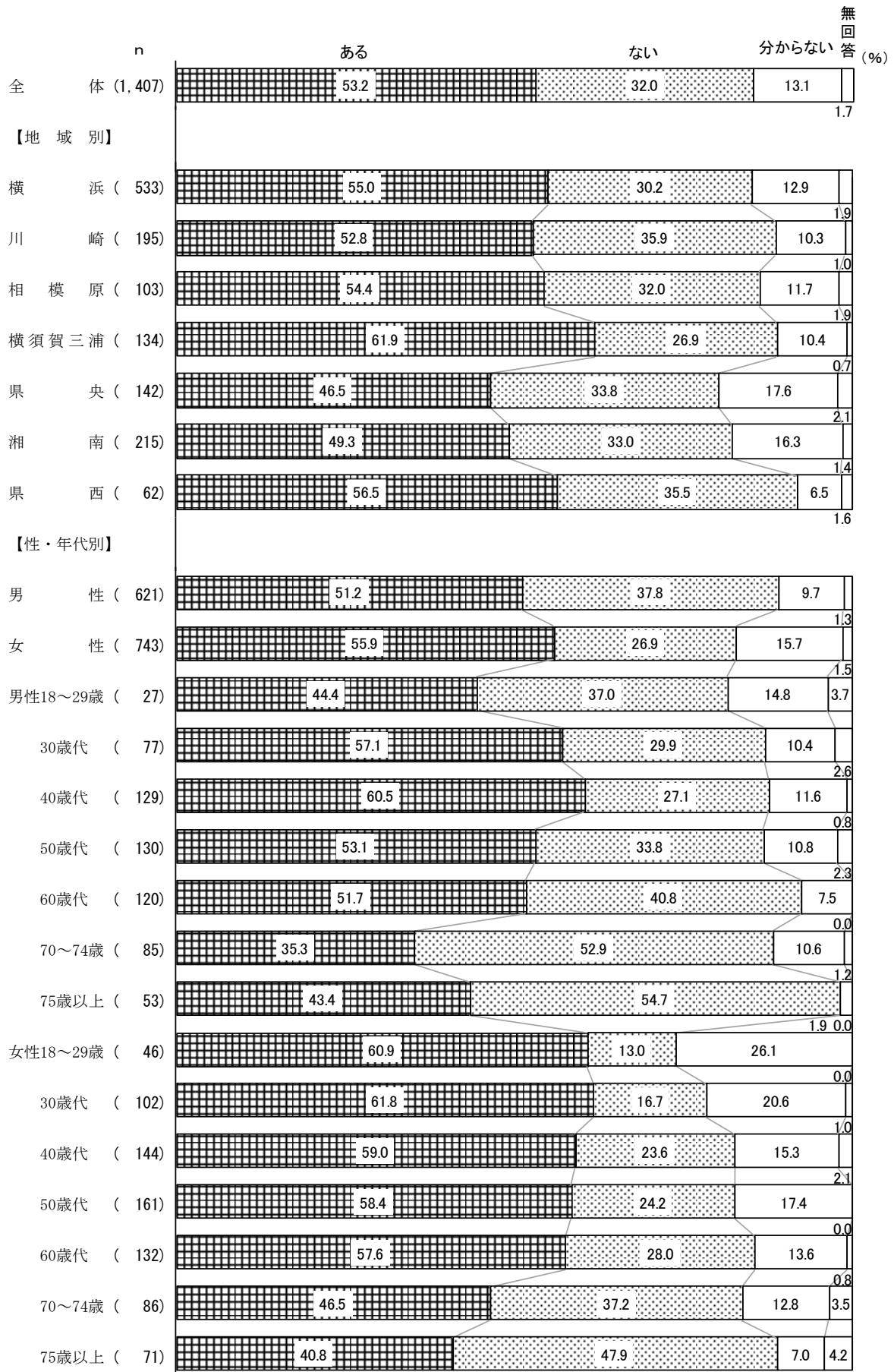
高齢者の方に対しては現在、それ以外の年代の方には将来高齢者になったとき、現在の住まいに不安があるかどうか尋ねたところ、「ある」が53.2%であった。

一方、「ない」は、32.0%であった。(図表5-1-1)

図表5-1-1 将来の住まいに対する不安



図表5-1-2 将来の住まいに対する不安—地域別、性・年代別

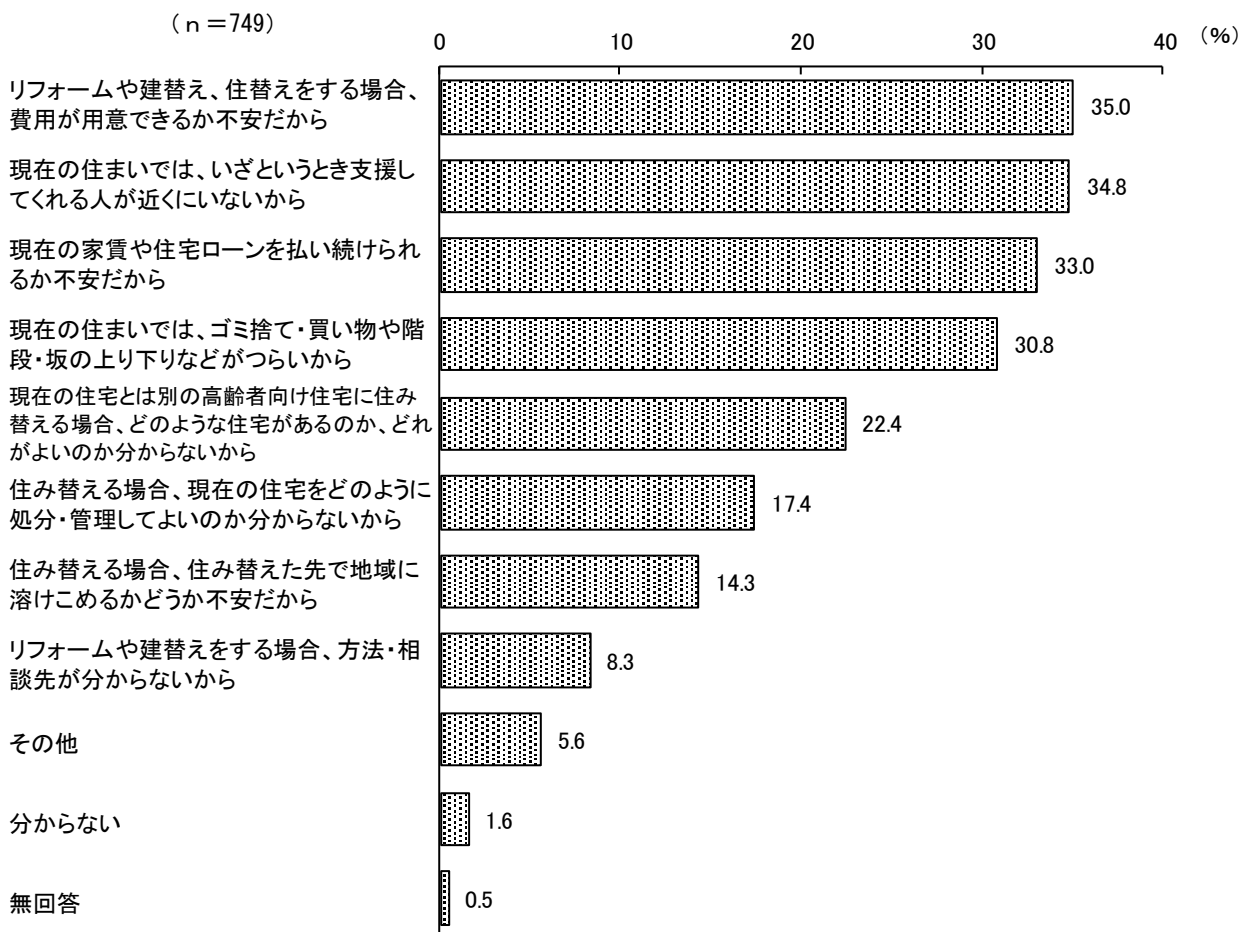


## 2 将来の住まいに不安を抱く理由【問18-1】

### 【全体の状況】

将来の住まいに対する不安（問18）で、「ある」と回答した749人に、不安だと思う理由を複数回答で尋ねたところ、「リフォームや建替え、住替えをする場合、費用が用意できるか不安だから」が35.0%で最も多く、次いで「現在の住まいでは、いざというとき支援してくれる人が近くにいないから」が34.8%であった。（図表5-2-1）

図表5-2-1 将来の住まいに不安を抱く理由（複数回答）





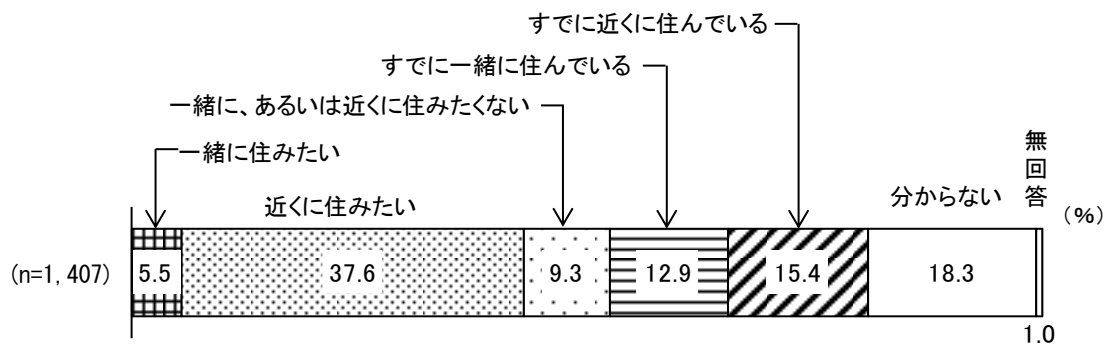


### 3 親族との同居意向【問19】

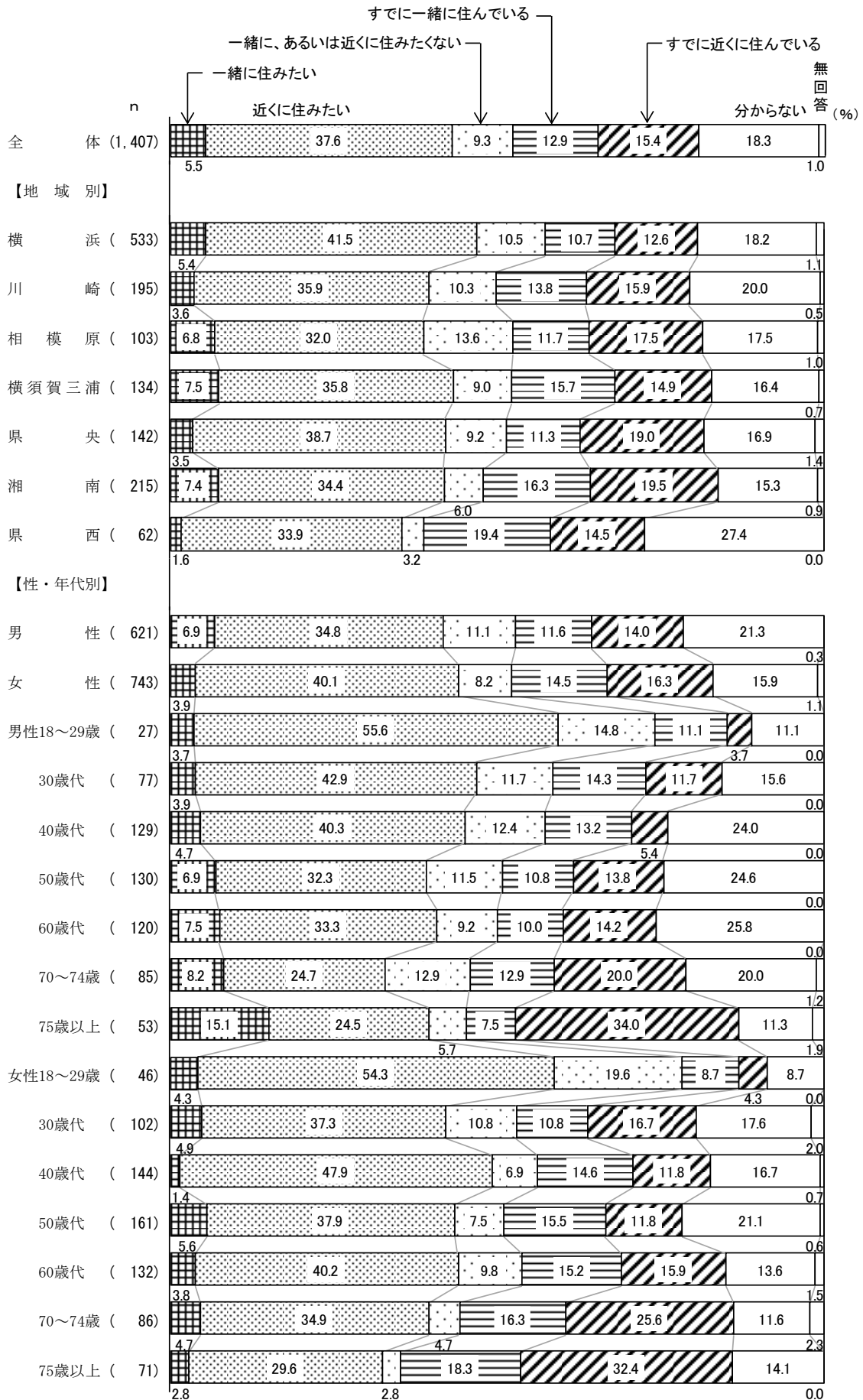
#### 【全体の状況】

将来、親や子、親族の近くに住みたいという考えがあるかどうか尋ねたところ、「近くに住みたい」が37.6%で最も多く、次いで「すでに近くに住んでいる」が15.4%であった。（図表5-3-1）

図表5-3-1 親族との同居意向



図表5-3-2 親族との同居意向—地域別、性・年代別



## 第6章 SDGs（持続可能な開発目標）【問20～問21】

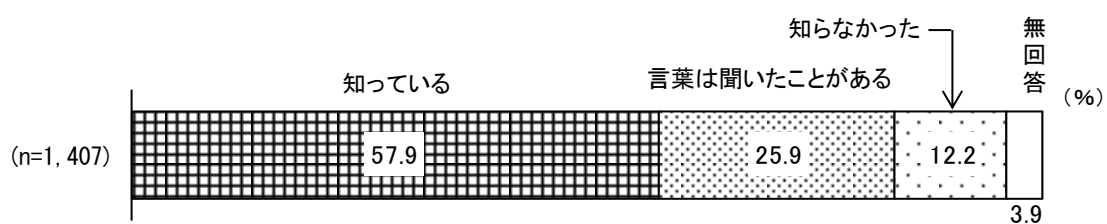
### 1 「SDGs」の認知度【問20】

#### 【全体の状況】

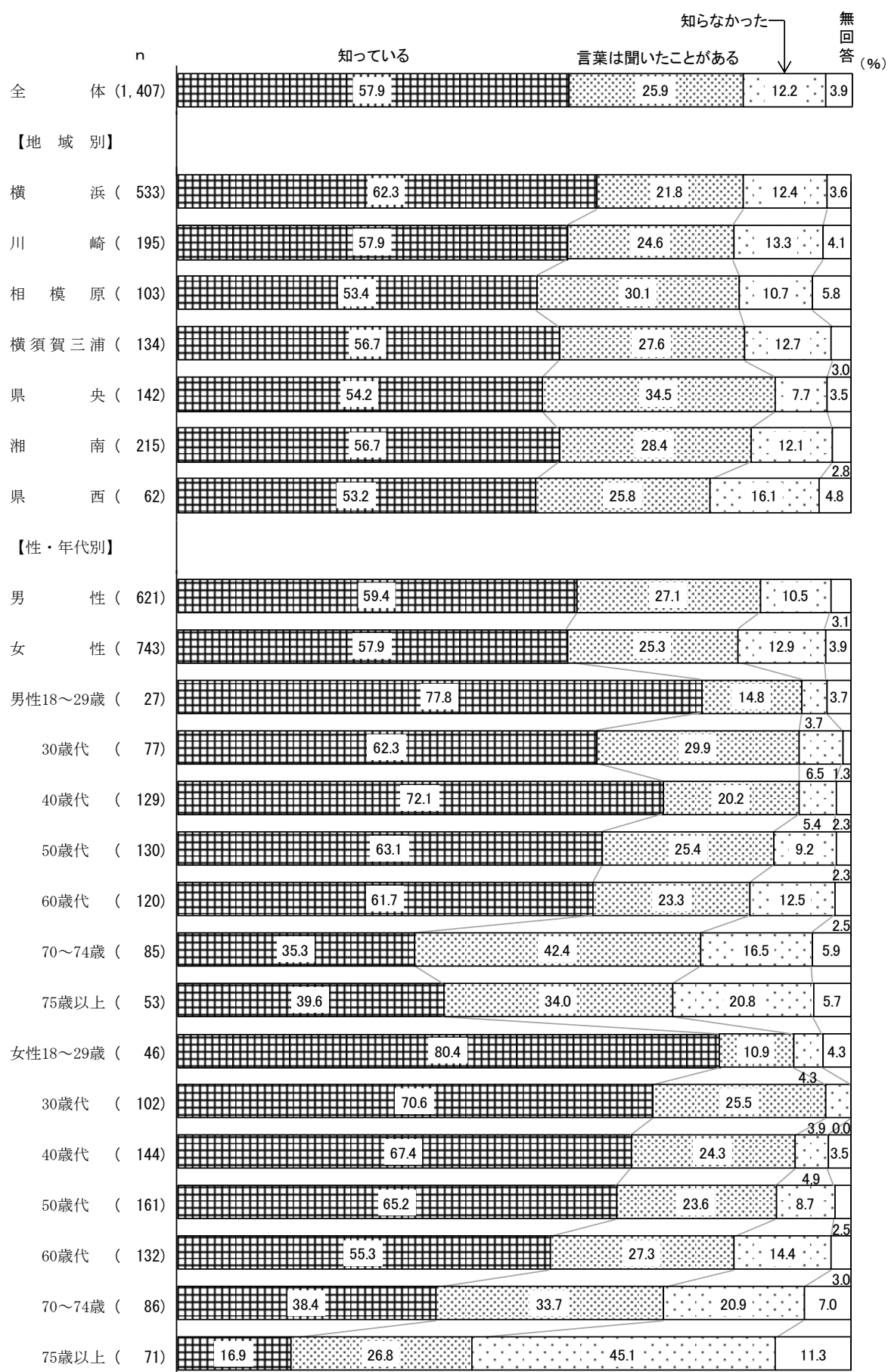
「SDGs（エス・ディー・ジーズ）」について知っているか尋ねたところ、「知っている」が57.9%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が25.9%であった。

一方、「知らなかった」が12.2%であった。（図表6-1-1）

図表6-1-1 「SDGs」の認知度



図表6-1-2 「SDGs」の認知度—地域別、性・年代別



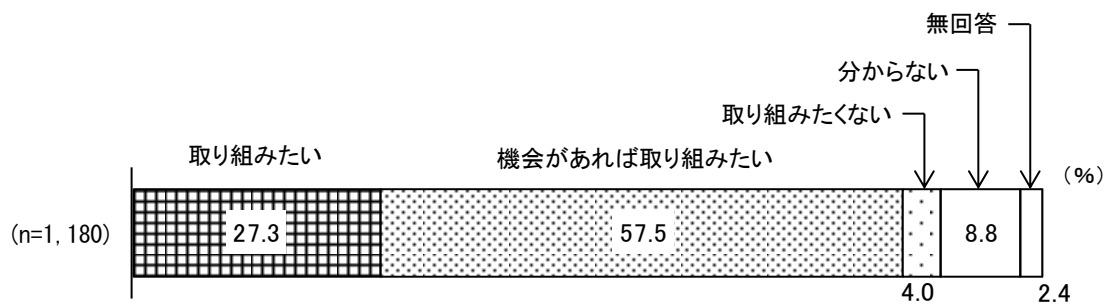
## 2 SDGsの取組み意向【問20-1】

### 【全体の状況】

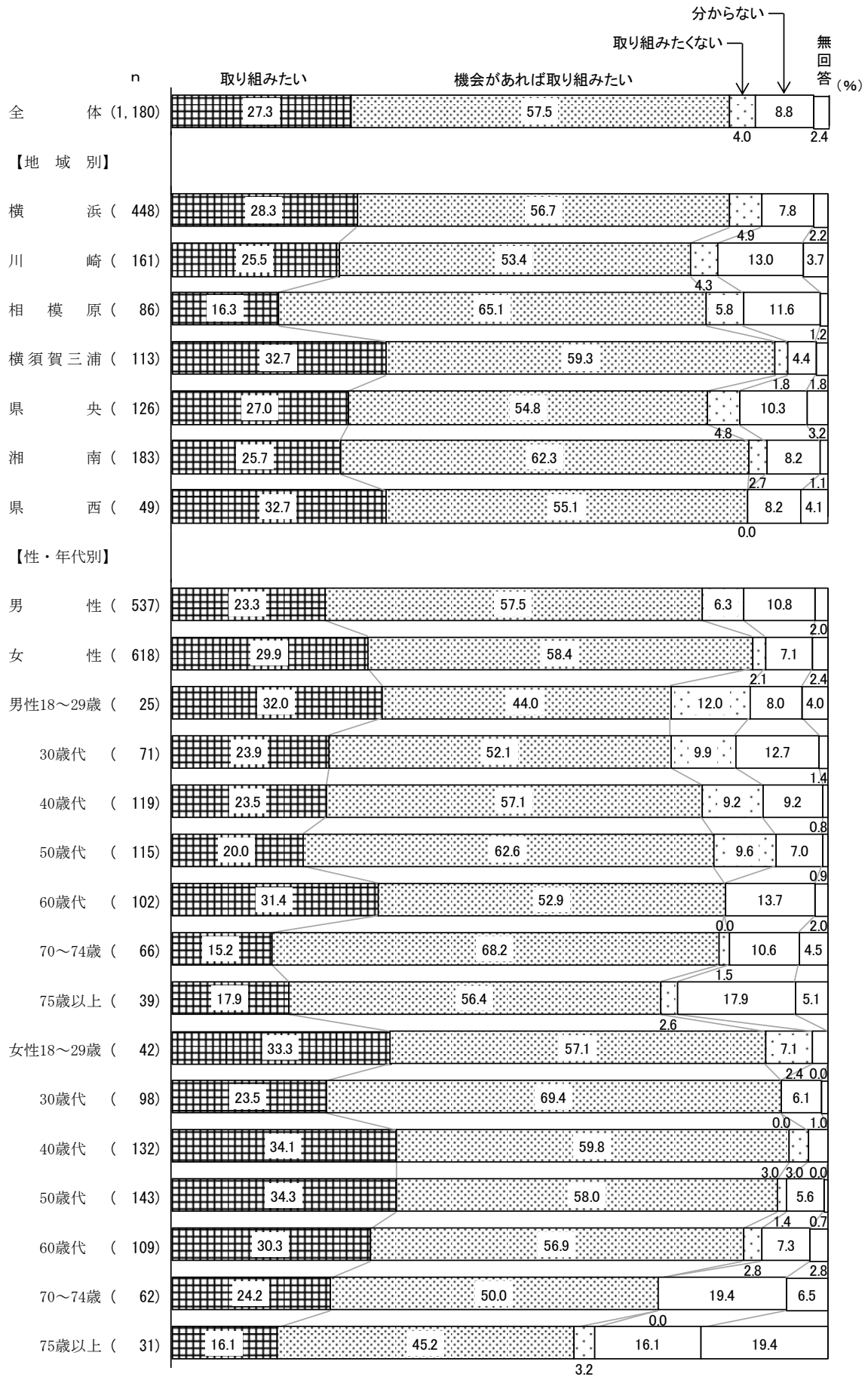
SDGsの認知度（問20）で「知っている」または、「言葉は聞いたことがある」と回答した1,180人に、SDGsの取組み意向を尋ねたところ、「取り組みたい」が27.3%であった。また、「機会があれば取り組みたい」が57.5%であった。

一方、「取り組みたくない」が4.0%であった。（図表6-2-1）

図表6-2-1 SDGsの取組み意向



図表6-2-2 SDGsの取組み意向—地域別、性・年代別



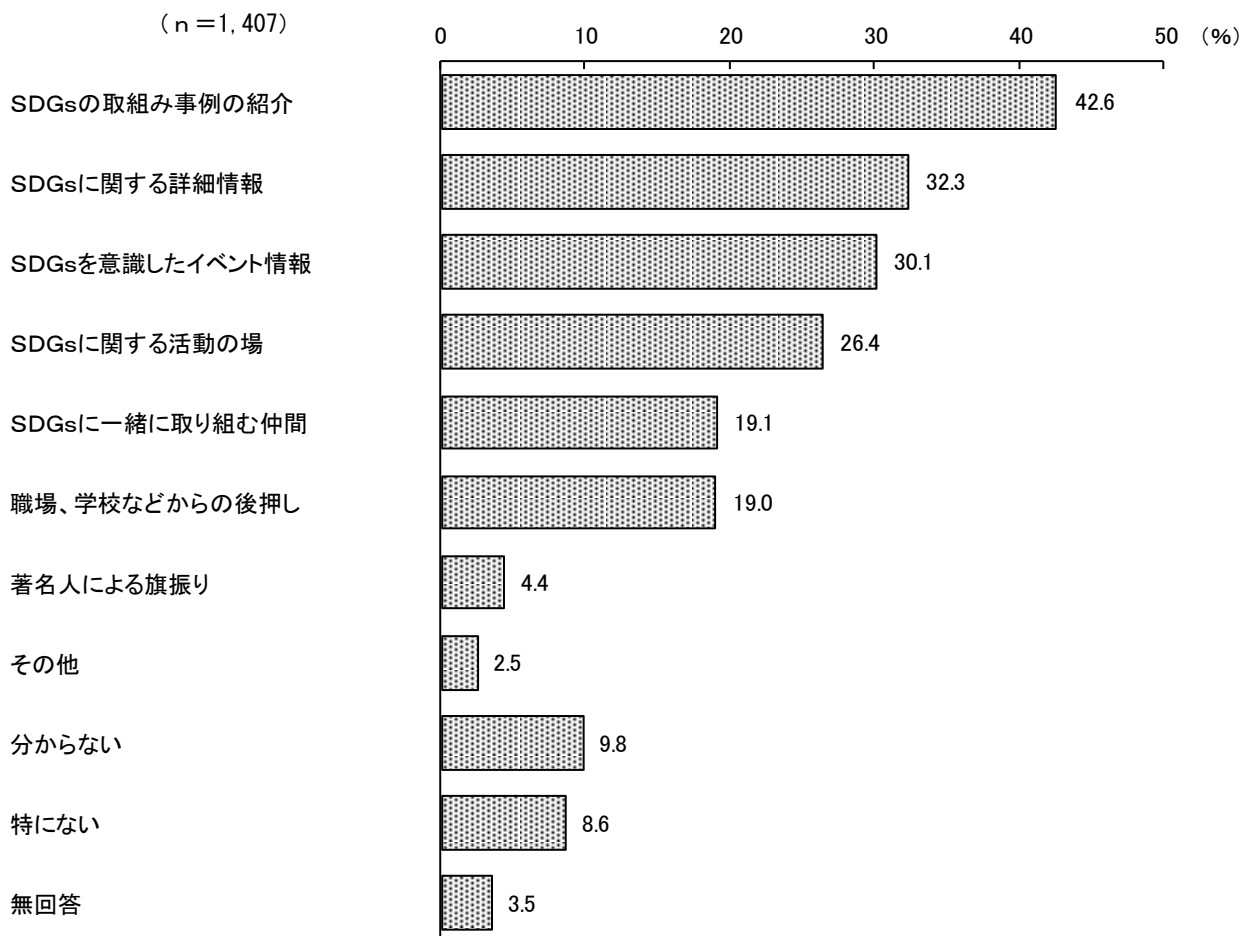
### 3 SDGs達成に向け効果的な後押し【問21】

#### 【全体の状況】

SDGs達成に向けて、取り組む際に効果的な後押しを複数回答で尋ねたところ、「SDGsの取り組み事例の紹介」が42.6%で最も多く、次いで「SDGsに関する詳細情報」が32.3%であった。

(図表6-3-1)

図表6-3-1 SDGs達成に向け効果的な後押し（複数回答）



図表6-3-2 SDGs達成に向け効果的な後押し（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	SDGsの取組み事例の紹介	SDGsに関する詳細情報	SDGsを意識したイベント情報	SDGsに関する活動の場	SDGsと一緒に取り組む仲間	職場、学校などからの後押し	著名人による旗振り	その他	分からない	特になし	無回答
全体	1,407	42.6	32.3	30.1	26.4	19.1	19.0	4.4	2.5	9.8	8.6	3.5
【地域別】												
横浜	533	41.1	31.3	31.1	28.7	19.7	19.1	5.1	3.6	9.4	8.3	3.0
川崎	195	37.4	28.7	29.2	23.1	12.3	17.4	3.1	3.1	11.3	13.8	3.1
相模原	103	47.6	33.0	29.1	30.1	19.4	15.5	3.9	0.0	8.7	10.7	4.9
横須賀三浦	134	50.0	35.1	26.9	28.4	23.1	17.2	3.7	2.2	9.7	3.0	2.2
県央	142	40.8	31.0	31.0	21.8	25.4	23.2	2.8	0.7	9.2	9.2	4.9
湘南	215	45.1	33.0	29.8	25.6	18.1	20.5	6.0	2.3	9.8	6.5	2.8
県西	62	46.8	48.4	35.5	22.6	17.7	21.0	4.8	1.6	9.7	8.1	3.2
【性・年代別】												
男性	621	37.8	28.3	25.4	24.6	19.2	17.9	5.0	3.1	9.2	13.0	2.7
女性	743	47.2	36.3	34.7	28.4	19.8	20.1	4.0	2.0	9.6	5.0	3.5
男性18～29歳	27	22.2	11.1	22.2	25.9	18.5	18.5	3.7	0.0	11.1	18.5	3.7
30歳代	77	24.7	18.2	26.0	24.7	22.1	27.3	9.1	10.4	7.8	16.9	1.3
40歳代	129	28.7	24.8	24.8	24.0	20.2	27.1	4.7	4.7	8.5	14.0	2.3
50歳代	130	39.2	27.7	20.0	20.8	20.0	20.0	6.9	1.5	6.2	17.7	1.5
60歳代	120	42.5	31.7	30.8	33.3	24.2	10.8	2.5	1.7	11.7	9.2	3.3
70～74歳	85	48.2	38.8	25.9	20.0	14.1	10.6	2.4	0.0	15.3	5.9	3.5
75歳以上	53	56.6	37.7	28.3	22.6	7.5	3.8	5.7	1.9	3.8	11.3	5.7
女性18～29歳	46	45.7	39.1	43.5	26.1	17.4	34.8	8.7	6.5	6.5	8.7	4.3
30歳代	102	38.2	27.5	38.2	37.3	21.6	33.3	2.9	4.9	3.9	2.0	0.0
40歳代	144	47.9	38.2	42.4	31.9	22.9	29.9	4.9	1.4	4.2	4.9	2.1
50歳代	161	57.1	34.8	34.2	27.3	21.1	23.6	2.5	1.2	7.5	6.8	1.9
60歳代	132	51.5	41.7	35.6	32.6	18.2	9.1	6.1	0.8	8.3	3.0	4.5
70～74歳	86	51.2	41.9	26.7	25.6	19.8	4.7	1.2	1.2	11.6	7.0	8.1
75歳以上	71	23.9	31.0	16.9	8.5	12.7	1.4	4.2	1.4	35.2	4.2	7.0



## 第7章 ともに生きる社会かながわ【問22～問26】

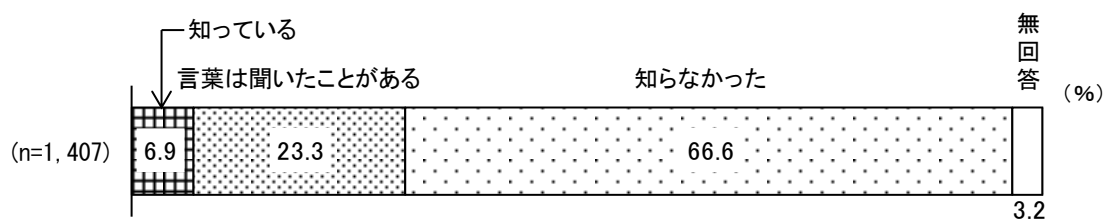
### 1 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度【問22】

#### 【全体の状況】

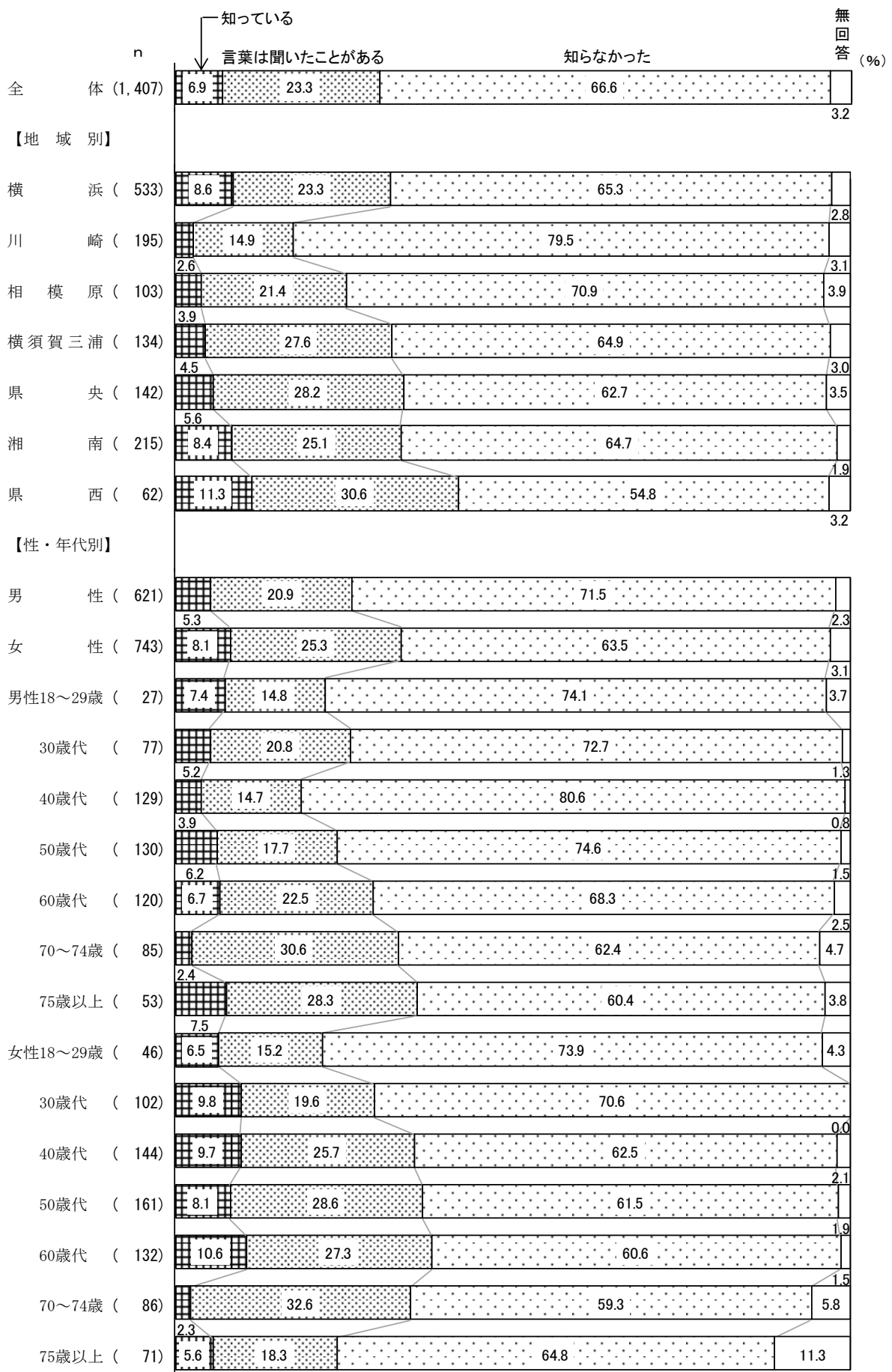
ともに生きる社会かながわ憲章を知っているか尋ねたところ、「知っている」が6.9%であった。また、「言葉は聞いたことがある」が23.3%であった。

一方、「知らなかった」が66.6%であった。(図表7-1-1)

図表7-1-1 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度



図表7-1-2 「ともに生きる社会かながわ憲章」の認知度—地域別、性・年代別

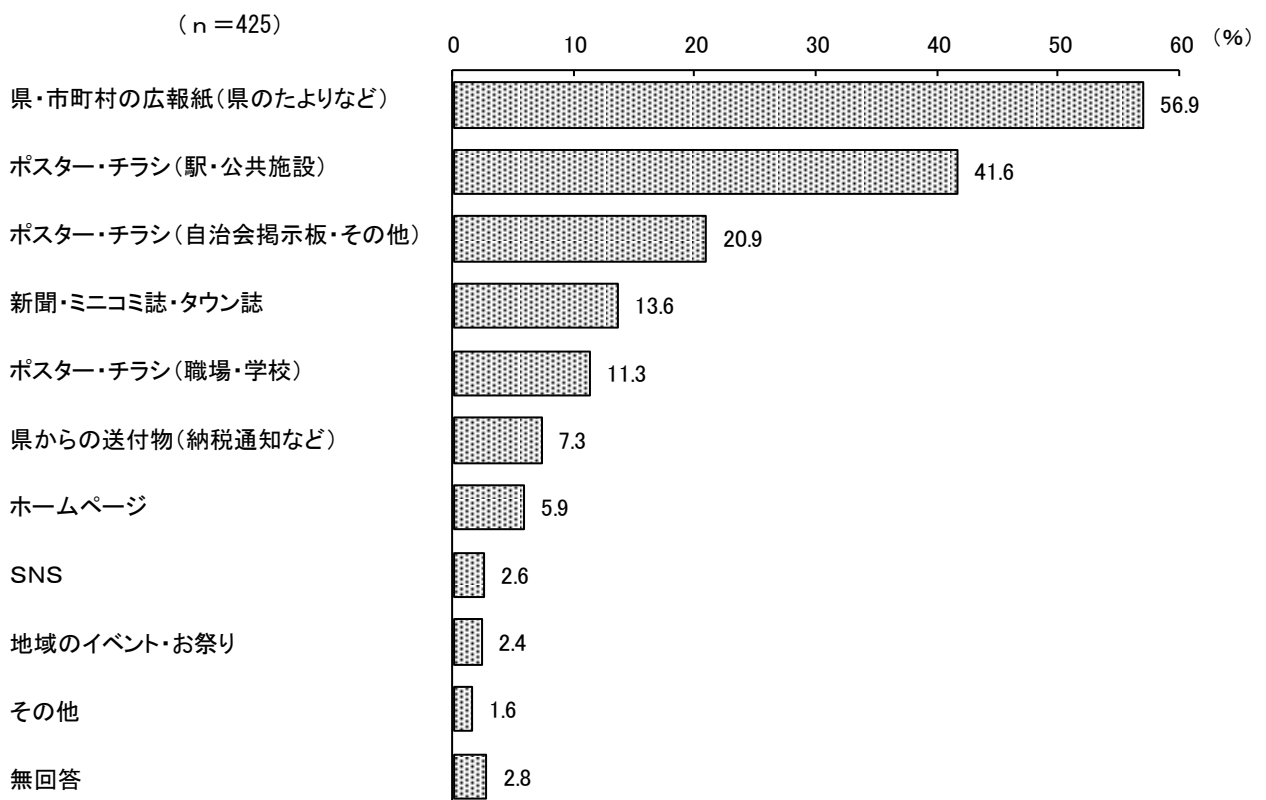


## 2 とともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法【問22-1】

### 【全体の状況】

とともに生きる社会かながわ憲章の認知度（問22）で、とともに生きる社会かながわ憲章を「知っている」または、「言葉は聞いたことがある」と回答した425人に何で知ったかを複数回答で尋ねたところ、「県・市町村の広報誌（県のたよりなど）」が56.9%で最も多く、次いで「ポスター・チラシ（駅・公共施設）」が41.6%であった。（図表7-2-1）

図表7-2-1 とともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法（複数回答）



図表7-2-2 とともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

	n	県・市町村の広報紙（県のたよりなど）	ポスター・チラシ（駅・公共施設）	ポスター・チラシ（自治会掲示板・その他）	新聞・ミニコミ誌・タウン誌	ポスター・チラシ（職場・学校）	県からの送付物（納税通知など）	ホームページ	SNS	地域のイベント・お祭り	その他	無回答
全体	425	56.9	41.6	20.9	13.6	11.3	7.3	5.9	2.6	2.4	1.6	2.8
【地域別】												
横浜	170	55.9	44.7	21.2	12.4	7.1	7.1	7.6	2.4	2.4	1.2	1.2
川崎	34	55.9	44.1	8.8	5.9	11.8	5.9	8.8	0.0	2.9	0.0	2.9
相模原	26	61.5	46.2	34.6	19.2	11.5	7.7	0.0	3.8	0.0	3.8	3.8
横須賀三浦	43	55.8	34.9	16.3	16.3	14.0	9.3	4.7	0.0	0.0	0.0	7.0
県央	48	52.1	37.5	29.2	8.3	16.7	8.3	6.3	0.0	4.2	2.1	4.2
湘南	72	54.2	41.7	22.2	18.1	12.5	6.9	2.8	6.9	2.8	2.8	2.8
県西	26	76.9	38.5	11.5	19.2	23.1	3.8	7.7	3.8	3.8	3.8	0.0
【性・年代別】												
男性	163	54.6	38.0	25.8	17.8	8.0	8.0	8.0	1.8	2.5	0.0	3.7
女性	248	58.5	45.2	18.5	10.1	14.1	6.9	4.8	3.2	2.4	2.8	1.2
男性18～29歳	6	33.3	66.7	16.7	16.7	16.7	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0
30歳代	20	45.0	60.0	20.0	10.0	10.0	5.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40歳代	24	41.7	41.7	8.3	4.2	4.2	4.2	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
50歳代	31	45.2	41.9	29.0	9.7	16.1	9.7	6.5	3.2	0.0	0.0	6.5
60歳代	35	74.3	28.6	28.6	11.4	2.9	11.4	5.7	2.9	0.0	0.0	2.9
70～74歳	28	60.7	25.0	46.4	39.3	3.6	10.7	0.0	3.6	10.7	0.0	3.6
75歳以上	19	57.9	31.6	15.8	36.8	10.5	5.3	10.5	0.0	0.0	0.0	10.5
女性18～29歳	10	0.0	90.0	10.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	30	56.7	53.3	23.3	6.7	23.3	16.7	6.7	3.3	0.0	3.3	0.0
40歳代	51	45.1	45.1	21.6	5.9	19.6	5.9	2.0	2.0	2.0	5.9	0.0
50歳代	59	59.3	47.5	16.9	6.8	13.6	5.1	8.5	8.5	1.7	5.1	0.0
60歳代	50	70.0	34.0	14.0	16.0	14.0	4.0	6.0	2.0	4.0	0.0	2.0
70～74歳	30	76.7	40.0	20.0	23.3	6.7	13.3	0.0	0.0	6.7	0.0	3.3
75歳以上	17	70.6	35.3	23.5	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9

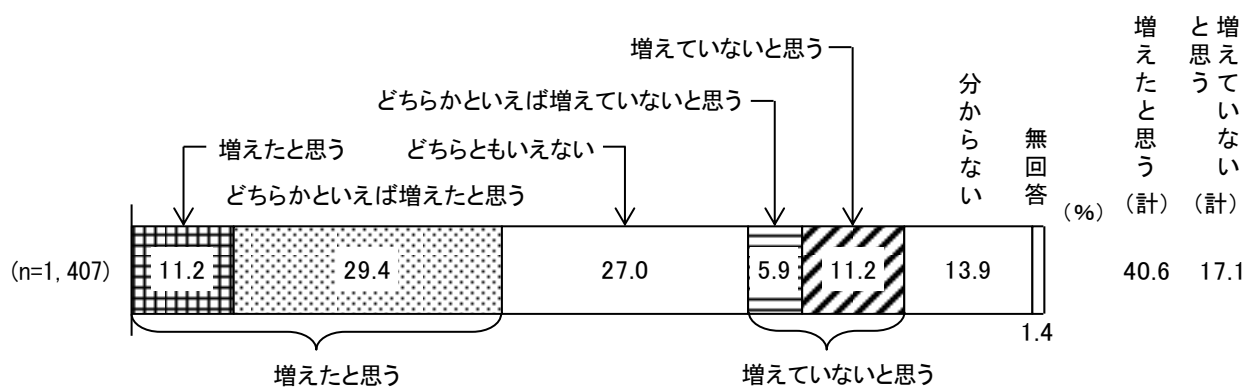
### 3 障がい者に配慮した行動をとる人【問23】

#### 【全体の状況】

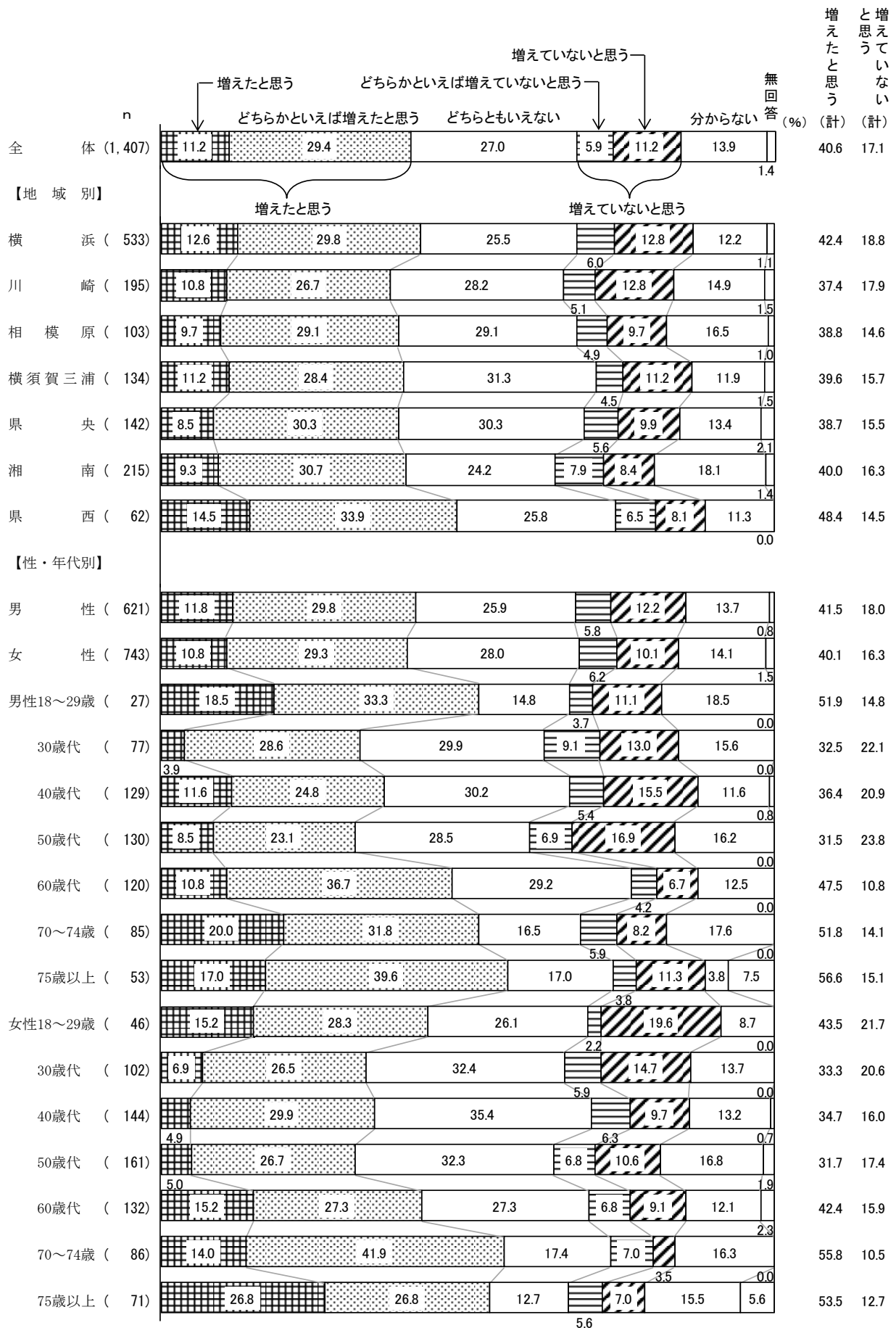
5年前と比べて障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思うか尋ねたところ、「増えたと思う」(11.2%)と「どちらかといえば増えたと思う」(29.4%)を合わせた《増えたと思う》は40.6%であった。

一方、「増えていないと思う」(11.2%)と「どちらかといえば増えていないと思う」(5.9%)を合わせた《増えていないと思う》は17.1%であった。(図表7-3-1)

図表7-3-1 障がい者に配慮した行動をとる人



図表7-3-2 障がい者に配慮した行動をとる人—地域別、性・年代別



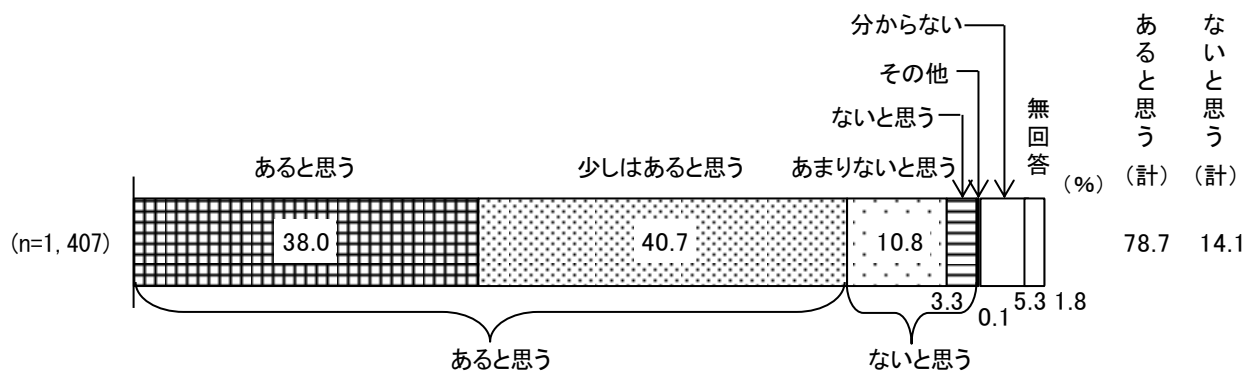
#### 4 障がい者への差別・偏見の有無【問24】

##### 【全体の状況】

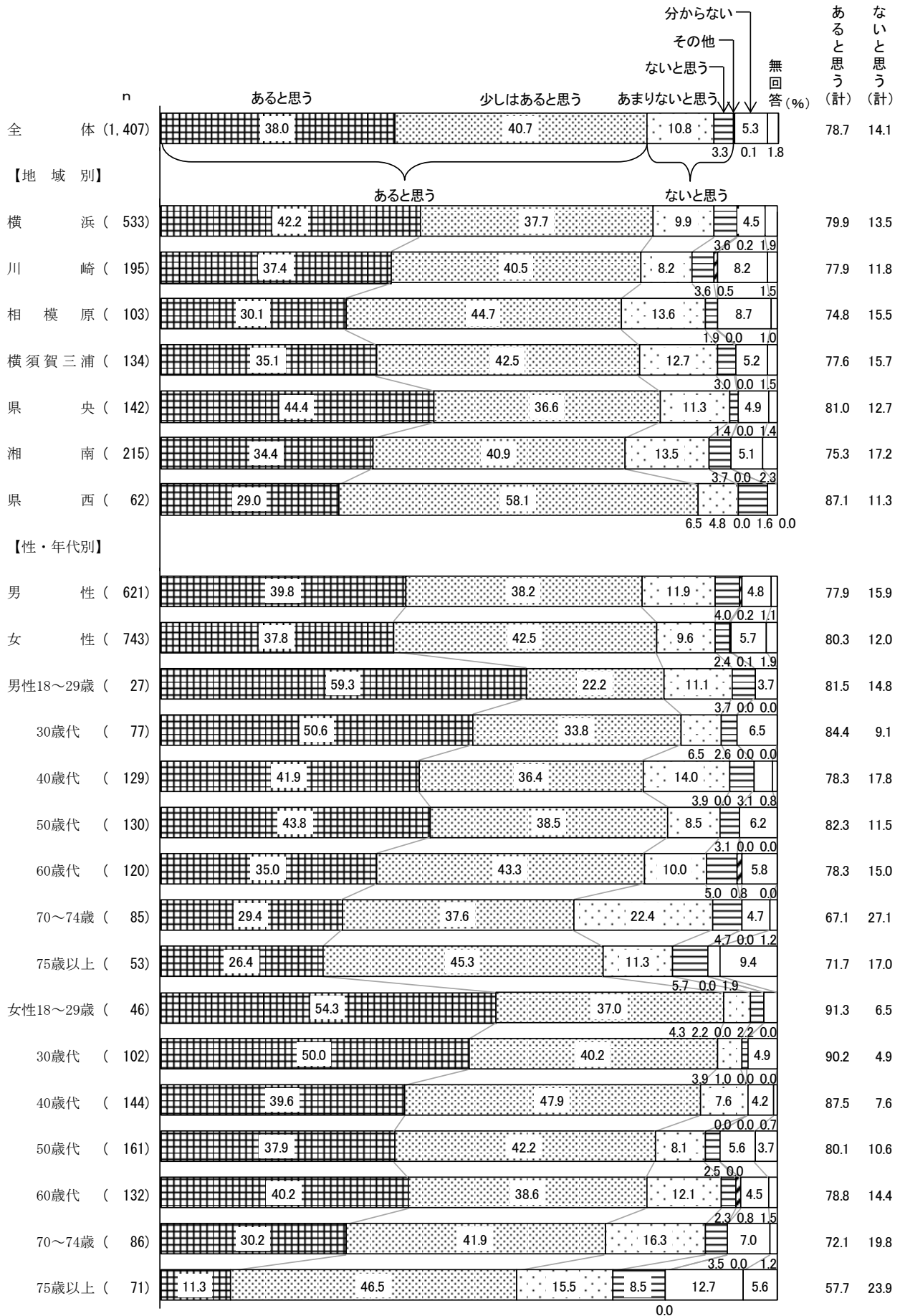
障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思うか尋ねたところ、「あると思う」(38.0%)と「少しはあると思う」(40.7%)を合わせた《あると思う》は78.7%であった。

一方、「ないと思う」(3.3%)と「あまりないと思う」(10.8%)を合わせた《ないと思う》は14.1%であった。(図表7-4-1)

図表7-4-1 障がい者への差別・偏見の有無



図表7-4-2 障がい者への差別・偏見の有無—地域別、性・年代別



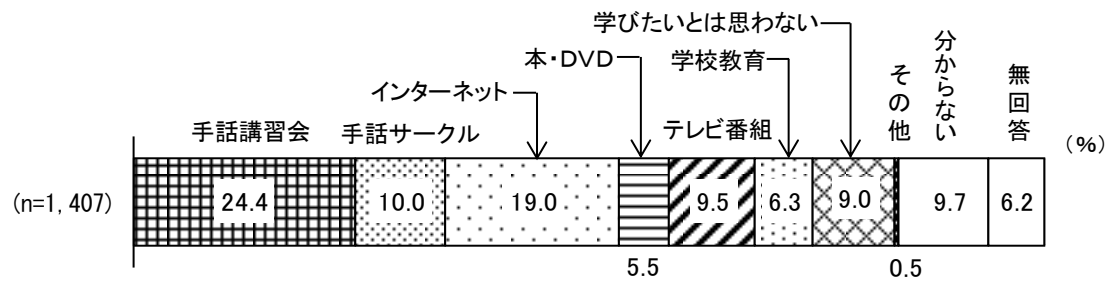


## 5 希望する手話の学習方法【問25】

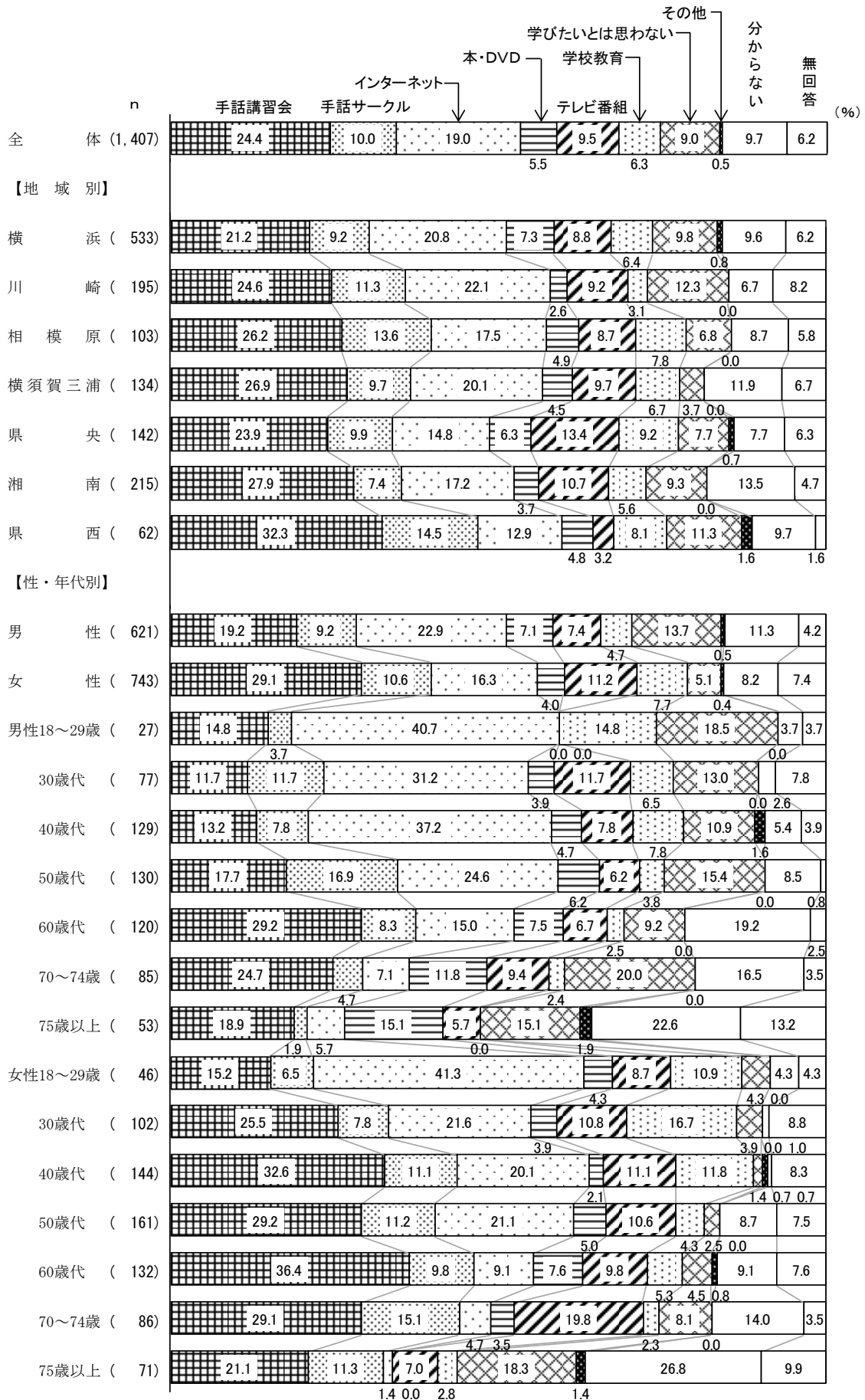
### 【全体の状況】

手話を学ぶ場合、どのような方法で学びたいか尋ねたところ、「手話講習会」が24.4%で最も多く、次いで「インターネット」が19.0%であった。(図表7-5-1)

図表7-5-1 希望する手話の学習方法



図表7-5-2 希望する手話の学習方法—地域別、性・年代別

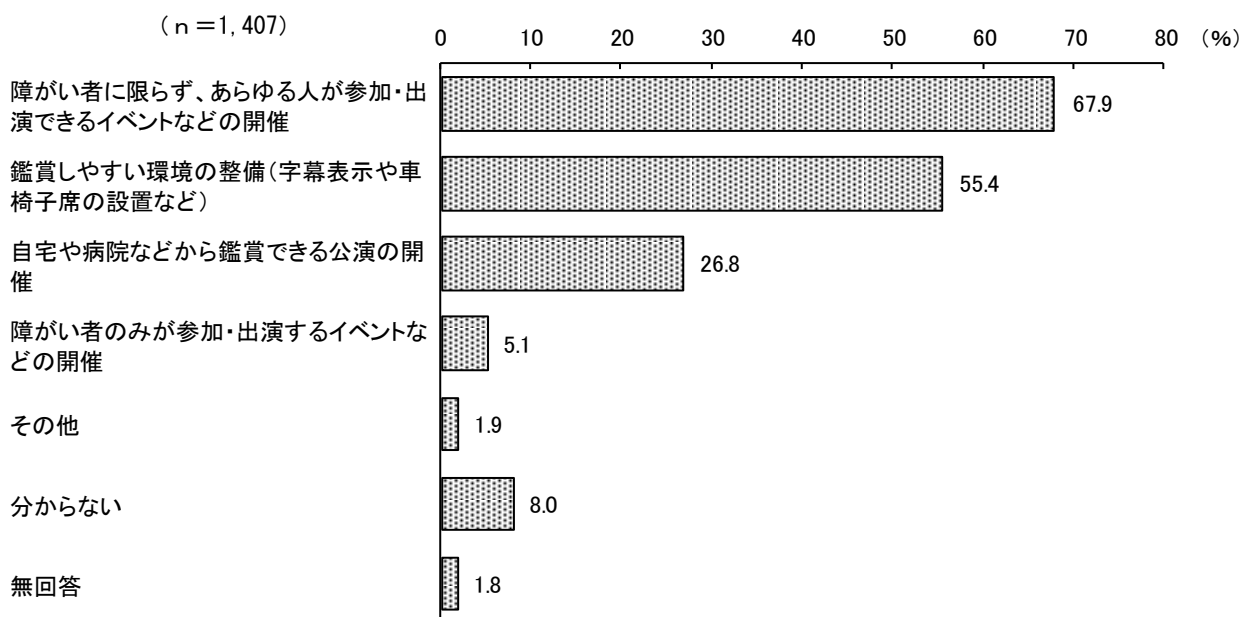


## 6 文化芸術活動を楽しむために有効だと思う取組み【問26】

### 【全体の状況】

障がいの程度にかかわらず、あらゆる人が文化芸術活動を楽しむために有効だと思う取組みについて複数回答で尋ねたところ、「障がい者に限らず、あらゆる人が参加・出演できるイベントなどの開催」が67.9%で最も多く、次いで「鑑賞しやすい環境の整備（字幕表示や車椅子席の設置など）」が55.4%であった。（図表7-6-1）

図表7-6-1 文化芸術活動を楽しむために有効だと思う取組み（複数回答）



図表7-6-2 文化芸術活動を楽しむために有効だと思う取組み（複数回答）－地域別、性・年代別

		(%)						
	n	障がい者・出演者に限らず、あらゆる人が参加できるイベントなどの開催	鑑賞しやすい環境の整備（字幕表示や車椅子席の設置など）	自宅や病院などから鑑賞できる公演の開催	障がい者のみ参加・出演するイベントなどの開催	その他	分からない	無回答
全体	1,407	67.9	55.4	26.8	5.1	1.9	8.0	1.8
【地域別】								
横浜	533	66.4	55.3	28.1	5.3	3.6	7.5	1.3
川崎	195	65.1	51.3	25.6	3.6	0.5	10.8	1.5
相模原	103	72.8	59.2	37.9	4.9	1.9	5.8	2.9
横須賀三浦	134	67.9	58.2	21.6	6.0	0.0	6.7	3.0
県央	142	70.4	57.7	26.8	6.3	2.8	4.2	1.4
湘南	215	67.4	55.8	21.9	4.7	0.5	12.6	1.9
県西	62	75.8	50.0	24.2	8.1	0.0	6.5	1.6
【性・年代別】								
男性	621	63.4	49.0	23.5	6.1	1.8	10.6	1.1
女性	743	72.3	60.8	29.3	4.6	2.2	5.8	2.2
男性18～29歳	27	59.3	37.0	25.9	3.7	3.7	14.8	0.0
30歳代	77	57.1	48.1	35.1	10.4	6.5	10.4	0.0
40歳代	129	59.7	49.6	24.0	5.4	3.1	9.3	0.8
50歳代	130	68.5	43.1	24.6	4.6	0.8	9.2	0.0
60歳代	120	63.3	51.7	25.8	9.2	0.0	13.3	0.8
70～74歳	85	67.1	51.8	15.3	4.7	0.0	10.6	0.0
75歳以上	53	66.0	58.5	9.4	1.9	0.0	9.4	9.4
女性18～29歳	46	69.6	54.3	30.4	2.2	6.5	10.9	0.0
30歳代	102	67.6	65.7	36.3	1.0	3.9	3.9	0.0
40歳代	144	79.2	66.7	33.3	5.6	2.1	2.8	0.7
50歳代	161	69.6	60.2	32.3	3.1	2.5	5.6	1.9
60歳代	132	77.3	65.9	24.2	9.1	1.5	3.0	2.3
70～74歳	86	77.9	66.3	20.9	4.7	0.0	4.7	1.2
75歳以上	71	56.3	32.4	23.9	4.2	0.0	18.3	11.3

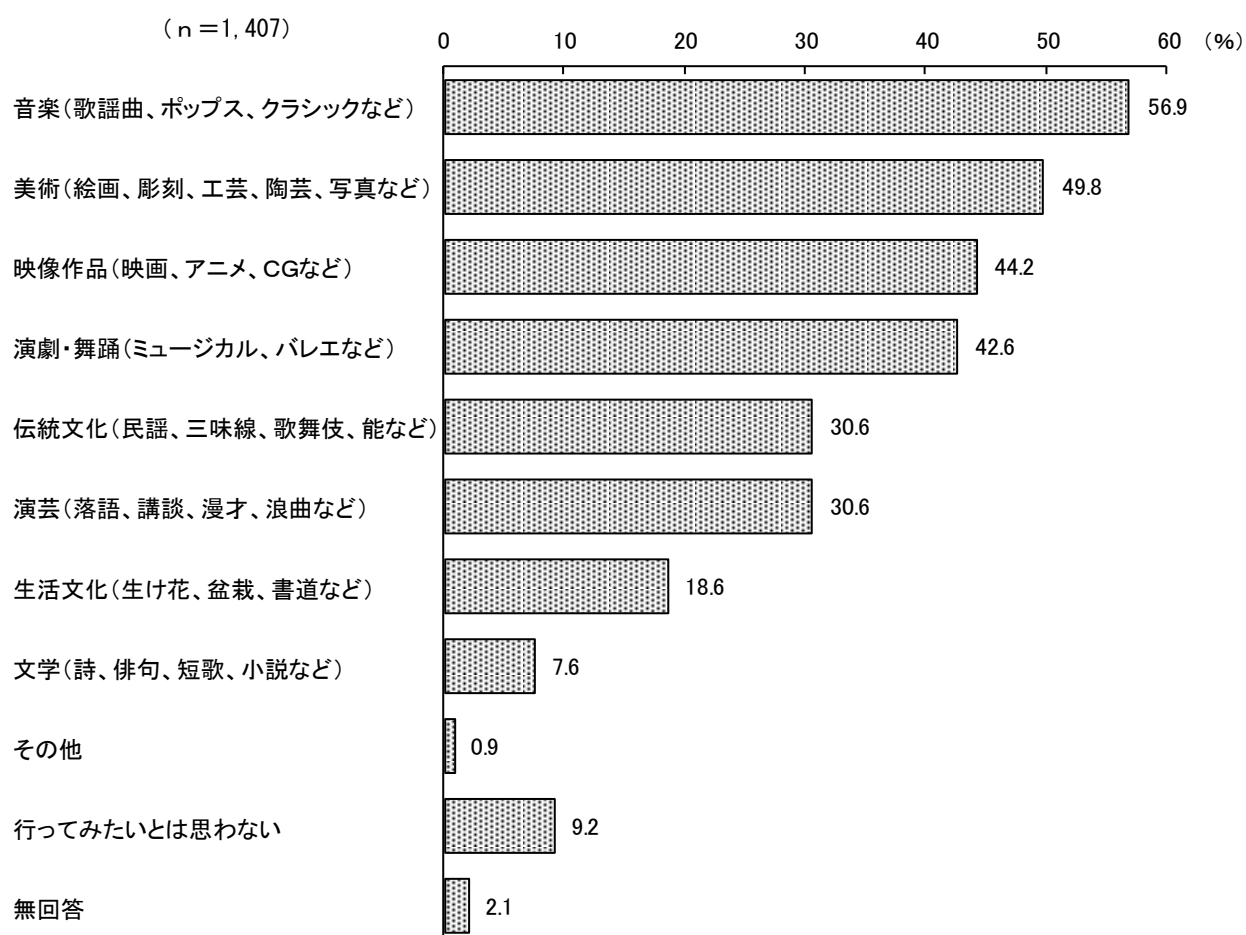
## 第8章 神奈川の文化芸術【問27～問30】

### 1 文化芸術の鑑賞意向【問27】

#### 【全体の状況】

文化芸術のうち、ホールなどの文化施設での公演や展覧会へ行ってみたいと思うものを複数回答で尋ねたところ、「音楽（歌謡曲、ポップス、クラシックなど）」が56.9%で最も多く、次いで「美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など）」が49.8%であった。（図表8-1-1）

図表8-1-1 文化芸術の鑑賞意向（複数回答）



図表8-1-2 文化芸術の鑑賞意向（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	音楽（歌謡曲、ポップス、クラシックなど）	美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など）	映像作品（映画、アニメ、CGなど）	演劇・舞踊（ミュージカル、バレエなど）	伝統文化（民謡、三味線、歌舞伎、能など）	演芸（落語、講談、漫才、浪曲など）	生活文化（生け花、盆栽、書道など）	文学（詩、俳句、短歌、小説など）	その他	行ってみたいとは思わない	無回答
全体	1,407	56.9	49.8	44.2	42.6	30.6	30.6	18.6	7.6	0.9	9.2	2.1
【地域別】												
横浜	533	59.1	49.2	48.0	46.7	30.6	31.1	19.5	8.6	0.8	7.5	1.5
川崎	195	51.8	55.4	42.1	40.5	28.7	29.2	20.5	7.2	0.5	13.8	1.0
相模原	103	53.4	52.4	45.6	37.9	28.2	25.2	18.4	4.9	1.0	9.7	1.9
横須賀三浦	134	59.7	50.0	32.1	41.8	34.3	32.1	20.9	8.2	2.2	6.7	3.0
県央	142	53.5	47.2	50.0	40.1	29.6	32.4	14.8	7.0	2.1	11.3	2.1
湘南	215	61.4	46.5	42.3	41.4	30.7	29.8	14.9	6.0	0.5	8.8	1.9
県西	62	50.0	59.7	37.1	35.5	33.9	41.9	27.4	12.9	0.0	11.3	1.6
【性・年代別】												
男性	621	53.5	44.6	46.4	27.9	25.1	33.8	10.8	5.5	1.1	13.5	1.1
女性	743	60.4	55.3	43.1	55.5	35.1	28.7	25.0	9.7	0.8	5.7	2.2
男性18～29歳	27	44.4	29.6	74.1	14.8	14.8	22.2	7.4	11.1	0.0	18.5	0.0
30歳代	77	53.2	45.5	59.7	36.4	29.9	35.1	15.6	11.7	2.6	13.0	0.0
40歳代	129	58.9	35.7	52.7	34.9	21.7	32.6	10.1	3.1	1.6	14.0	0.8
50歳代	130	52.3	44.6	50.0	27.7	28.5	26.9	6.2	4.6	2.3	11.5	0.0
60歳代	120	56.7	48.3	41.7	30.8	24.2	38.3	10.0	5.0	0.0	15.0	0.8
70～74歳	85	49.4	56.5	28.2	14.1	24.7	35.3	12.9	2.4	0.0	15.3	0.0
75歳以上	53	47.2	45.3	28.3	20.8	26.4	45.3	17.0	7.5	0.0	9.4	9.4
女性18～29歳	46	58.7	60.9	56.5	56.5	26.1	23.9	19.6	17.4	0.0	8.7	0.0
30歳代	102	52.9	44.1	55.9	60.8	35.3	33.3	20.6	8.8	2.0	10.8	1.0
40歳代	144	66.0	54.2	52.1	67.4	40.3	29.9	22.9	6.9	0.0	3.5	0.7
50歳代	161	64.0	59.0	44.7	59.6	34.8	27.3	19.3	8.1	1.2	4.3	1.2
60歳代	132	65.2	64.4	41.7	54.5	29.5	33.3	29.5	9.8	0.8	6.8	2.3
70～74歳	86	59.3	60.5	27.9	43.0	37.2	27.9	31.4	12.8	0.0	1.2	3.5
75歳以上	71	45.1	39.4	15.5	29.6	39.4	18.3	36.6	11.3	1.4	7.0	8.5

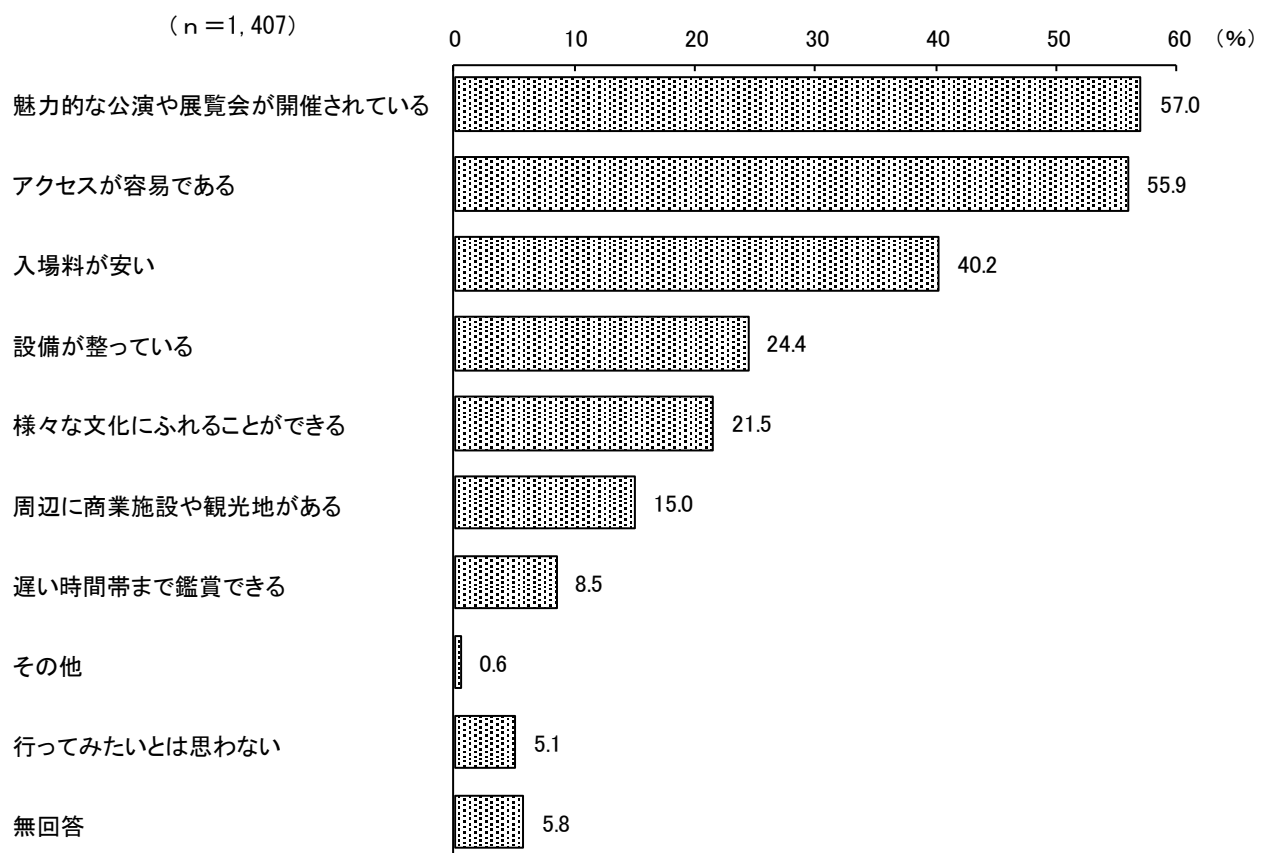
## 2 行ってみたいと思う文化施設【問28】

### 【全体の状況】

どのような文化施設に行ってみたいか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「魅力的な公演や展覧会が開催されている」が57.0%で最も多く、次いで「アクセスが容易である」が55.9%であった。

(図表8-2-1)

図表8-2-1 行ってみたいと思う文化施設（複数回答）



図表8-2-2 行ってみたいと思う文化施設（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

	n	魅力的な公演や展覧会が開催されている	アクセスが容易である	入場料が安い	設備が整っている	様々な文化にふれることができる	周辺に商業施設や観光地がある	遅い時間帯まで鑑賞できる	その他	行ってみたいとは思わない	無回答
全体	1,407	57.0	55.9	40.2	24.4	21.5	15.0	8.5	0.6	5.1	5.8
【地域別】											
横浜	533	57.2	53.8	44.1	26.3	21.2	16.7	8.4	0.8	4.1	5.8
川崎	195	55.9	60.0	35.4	16.4	17.9	12.8	8.7	0.0	7.2	6.7
相模原	103	56.3	55.3	39.8	25.2	20.4	15.5	6.8	1.0	5.8	6.8
横須賀三浦	134	60.4	56.0	33.6	20.9	21.6	13.4	9.0	0.7	5.2	7.5
県央	142	56.3	54.2	43.0	31.0	21.1	15.5	16.2	0.0	4.2	3.5
湘南	215	55.3	60.0	40.5	29.3	21.9	14.4	6.5	0.5	5.6	5.1
県西	62	59.7	56.5	32.3	12.9	32.3	9.7	1.6	1.6	8.1	3.2
【性・年代別】											
男性	621	52.7	51.9	38.0	23.2	21.6	16.3	11.6	0.5	8.7	3.9
女性	743	61.4	60.0	42.0	26.4	20.9	13.9	6.2	0.7	2.2	7.1
男性18～29歳	27	44.4	44.4	37.0	25.9	22.2	33.3	22.2	0.0	11.1	0.0
30歳代	77	48.1	46.8	32.5	28.6	27.3	13.0	13.0	2.6	6.5	7.8
40歳代	129	52.7	45.7	38.8	27.1	23.3	19.4	22.5	0.0	6.2	2.3
50歳代	130	59.2	57.7	40.0	18.5	16.2	13.8	12.3	0.8	10.0	0.8
60歳代	120	56.7	54.2	35.8	23.3	27.5	14.2	5.8	0.0	10.8	2.5
70～74歳	85	50.6	57.6	36.5	21.2	14.1	16.5	4.7	0.0	10.6	3.5
75歳以上	53	41.5	49.1	47.2	18.9	20.8	15.1	0.0	0.0	5.7	15.1
女性18～29歳	46	60.9	54.3	43.5	32.6	26.1	21.7	13.0	2.2	0.0	4.3
30歳代	102	66.7	52.9	51.0	26.5	22.5	24.5	9.8	2.0	1.0	3.9
40歳代	144	68.8	61.1	44.4	21.5	19.4	11.8	8.3	0.0	2.1	7.6
50歳代	161	62.1	68.3	36.0	30.4	22.4	8.7	6.2	0.6	2.5	6.8
60歳代	132	62.1	59.8	45.5	27.3	21.2	14.4	4.5	0.0	3.8	6.1
70～74歳	86	58.1	61.6	41.9	26.7	18.6	15.1	2.3	0.0	1.2	8.1
75歳以上	71	39.4	50.7	31.0	21.1	15.5	7.0	0.0	1.4	2.8	14.1

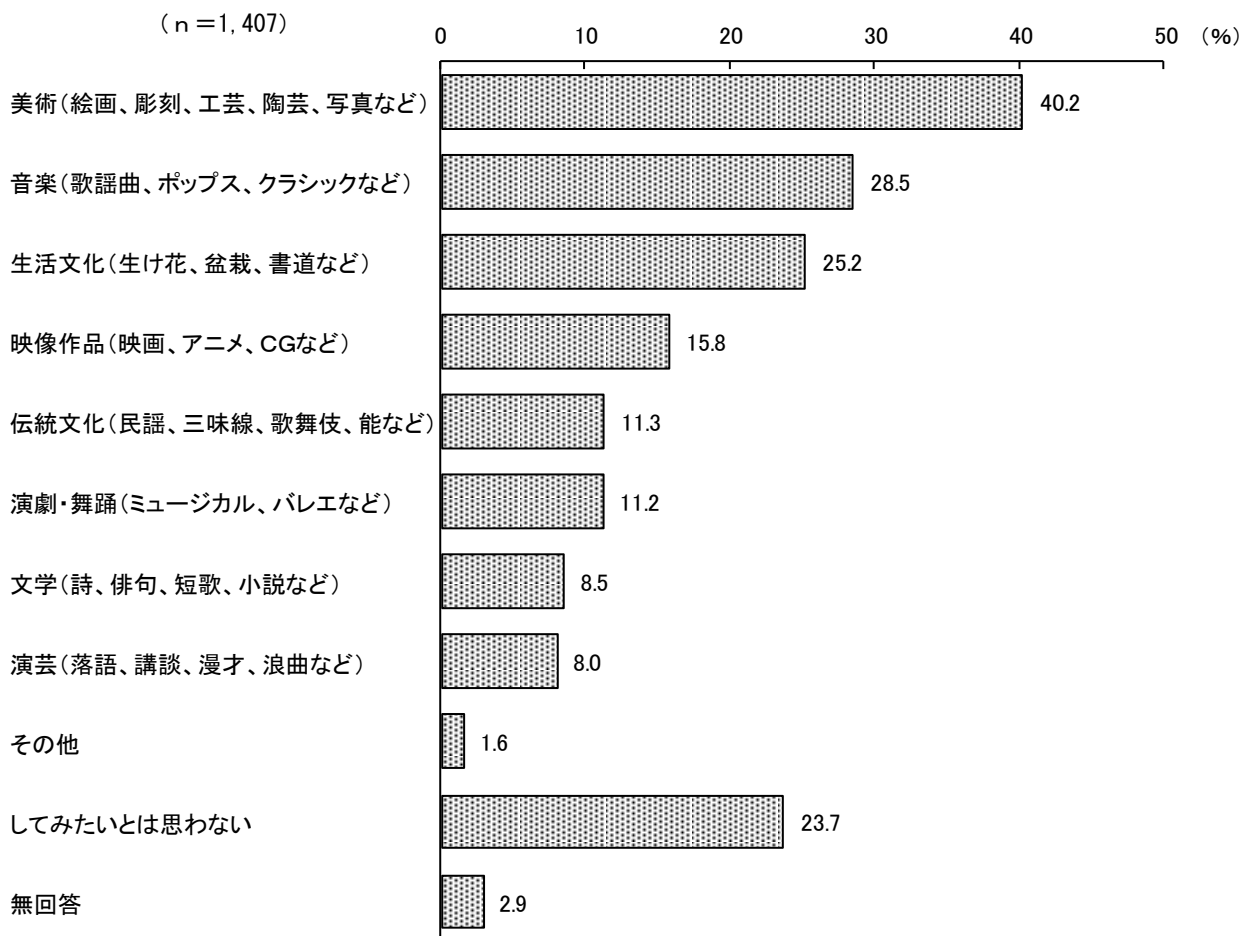


### 3 実践してみたいと思う文化芸術活動【問29】

#### 【全体の状況】

どのような文化芸術活動を実践（鑑賞を除く）してみたいと思うか複数回答で尋ねたところ、「美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など）」が40.2%で最も多く、次いで「音楽（歌謡曲、ポップス、クラシックなど）」が28.5%であった。（図表 8-3-1）

図表8-3-1 実践してみたいと思う文化芸術活動（複数回答）



図表8-3-2 実践してみたいと思う文化芸術活動（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など）	音楽（歌謡曲、ポップス、クラシックなど）	生活文化（生け花、盆栽、書道など）	映像作品（映画、アニメ、CGなど）	伝統文化（民謡、三味線、歌舞伎、能など）	演劇・舞踊（ミュージカル、バレエなど）	文学（詩、俳句、短歌、小説など）	演芸（落語、講談、漫才、浪曲など）	その他	してみたいとは思わない	無回答
全体	1,407	40.2	28.5	25.2	15.8	11.3	11.2	8.5	8.0	1.6	23.7	2.9
【地域別】												
横浜	533	40.2	29.3	25.5	17.8	11.1	12.4	9.2	7.3	1.7	22.1	2.3
川崎	195	36.4	31.3	25.6	14.4	9.2	9.7	7.2	7.2	0.5	27.7	2.1
相模原	103	43.7	28.2	27.2	17.5	12.6	15.5	7.8	9.7	1.0	21.4	5.8
横須賀三浦	134	41.0	29.9	29.9	12.7	14.2	11.9	12.7	10.4	3.0	22.4	2.2
県央	142	37.3	26.8	25.4	13.4	11.3	9.9	6.3	6.3	2.1	28.2	2.8
湘南	215	40.0	27.0	17.7	15.3	11.2	7.9	6.5	7.4	1.4	25.1	3.3
県西	62	54.8	24.2	37.1	17.7	11.3	12.9	11.3	14.5	0.0	17.7	3.2
【性・年代別】												
男性	621	36.1	28.8	12.9	22.4	10.3	7.9	7.1	10.3	2.3	29.6	1.6
女性	743	44.1	29.1	35.3	11.0	12.1	14.0	9.8	6.2	0.9	18.8	3.5
男性18～29歳	27	25.9	29.6	11.1	33.3	14.8	14.8	7.4	11.1	0.0	33.3	0.0
30歳代	77	40.3	37.7	14.3	33.8	16.9	10.4	14.3	10.4	2.6	22.1	1.3
40歳代	129	30.2	34.9	11.6	27.9	7.8	14.0	4.7	13.2	3.1	28.7	0.8
50歳代	130	36.9	27.7	11.5	24.6	10.8	6.9	3.1	7.7	3.1	29.2	0.0
60歳代	120	40.8	23.3	11.7	16.7	10.0	5.8	5.8	9.2	2.5	32.5	1.7
70～74歳	85	42.4	22.4	16.5	11.8	9.4	1.2	10.6	12.9	1.2	34.1	0.0
75歳以上	53	26.4	26.4	15.1	11.3	5.7	3.8	9.4	7.5	0.0	28.3	11.3
女性18～29歳	46	50.0	37.0	37.0	30.4	15.2	21.7	26.1	10.9	0.0	10.9	0.0
30歳代	102	47.1	27.5	32.4	16.7	15.7	12.7	7.8	5.9	1.0	23.5	1.0
40歳代	144	45.1	34.7	35.4	11.1	11.1	14.6	6.3	4.9	1.4	18.1	1.4
50歳代	161	45.3	29.8	30.4	10.6	14.9	19.3	8.7	8.1	0.0	18.6	2.5
60歳代	132	50.0	25.8	37.9	7.6	6.1	8.3	10.6	4.5	0.8	19.7	3.8
70～74歳	86	39.5	32.6	39.5	5.8	16.3	15.1	14.0	7.0	1.2	17.4	4.7
75歳以上	71	25.4	14.1	38.0	4.2	7.0	7.0	5.6	4.2	2.8	19.7	14.1

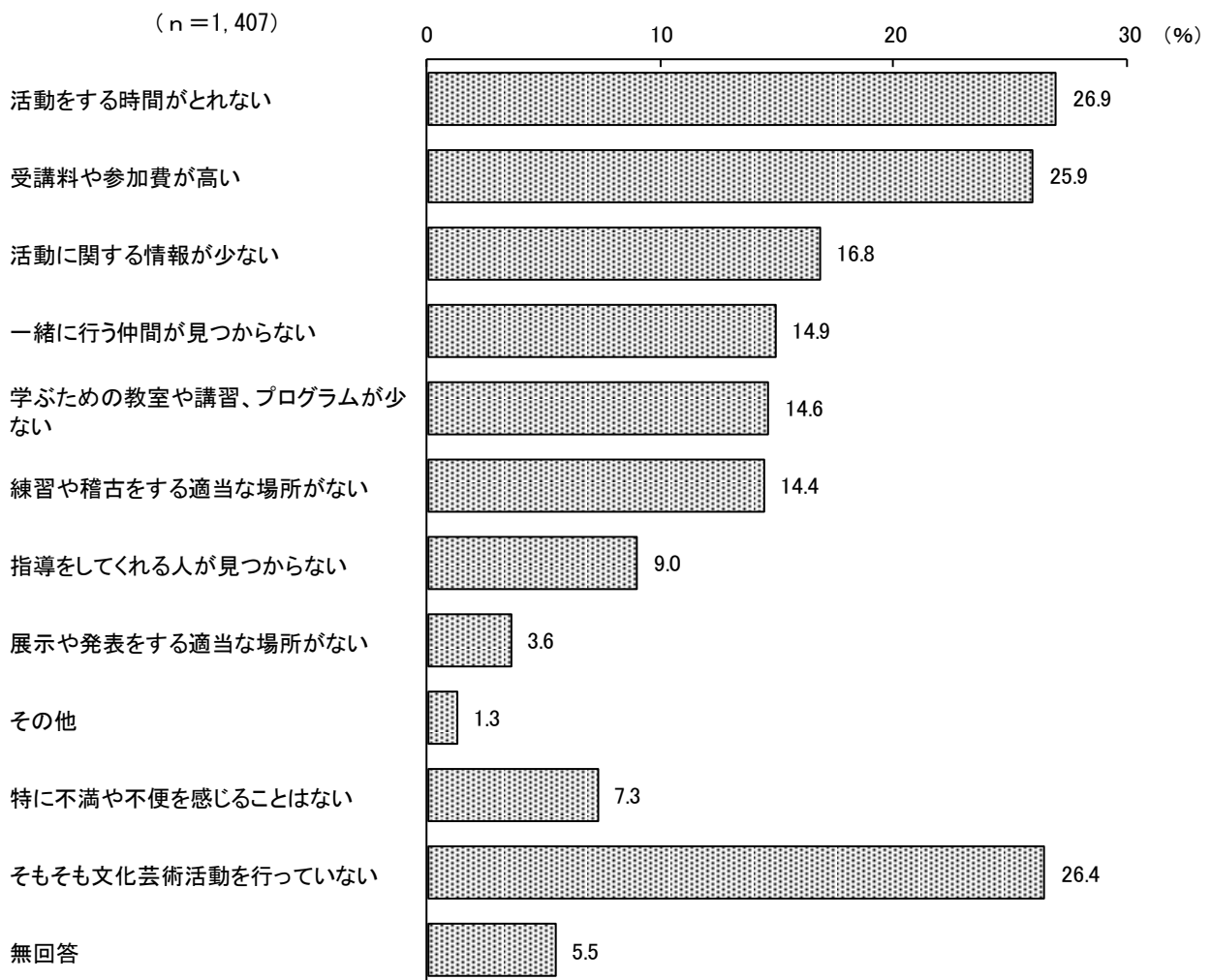
#### 4 文化芸術活動をする際に感じる不満や不便【問30】

##### 【全体の状況】

文化芸術活動をする際に、どのような不満や不便を感じるか複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「活動をする時間がとれない」が26.9%で最も多く、次いで「受講料や参加費が高い」が25.9%であった。

(図表 8-4-1)

図表8-4-1 文化芸術活動をする際に感じる不満や不便（複数回答）



図表8-4-2 文化芸術活動をする際に感じる不満や不便（複数回答）－地域別、性・年代別

(%)

	n	活動をする時間がとれない	受講料や参加費が高い	活動に関する情報が少ない	一緒に行く仲間が見つからない	学ぶための教室や講習、プログラムが少ない	練習や稽古をする適当な場所がない	指導をしてくれる人が見つからない	展示や発表をする適当な場所がない	その他	特に不満や不便を感じることはない	そもそも文化芸術活動を行っていない	無回答
全体	1,407	26.9	25.9	16.8	14.9	14.6	14.4	9.0	3.6	1.3	7.3	26.4	5.5
【地域別】													
横浜	533	27.8	26.3	18.4	13.5	15.0	14.3	8.1	3.4	1.9	8.1	25.5	5.1
川崎	195	29.2	21.0	12.3	14.4	10.8	16.4	8.7	3.1	1.0	5.6	29.2	3.6
相模原	103	29.1	32.0	14.6	19.4	15.5	16.5	12.6	1.9	0.0	6.8	26.2	7.8
横須賀三浦	134	16.4	32.1	20.1	14.9	17.2	13.4	10.4	5.2	0.7	8.2	25.4	5.2
県央	142	27.5	26.1	14.1	18.3	15.5	14.1	9.2	2.8	1.4	6.3	28.9	3.5
湘南	215	25.6	22.8	15.3	16.7	12.6	11.6	8.8	3.7	0.5	7.0	29.8	6.5
県西	62	32.3	24.2	29.0	11.3	22.6	19.4	9.7	6.5	1.6	8.1	12.9	6.5
【性・年代別】													
男性	621	25.1	21.1	13.0	18.0	10.6	14.2	12.4	4.2	0.8	8.1	32.0	3.2
女性	743	28.3	30.0	20.3	12.8	18.3	14.9	6.5	3.0	1.6	6.3	22.2	6.3
男性18～29歳	27	29.6	14.8	3.7	25.9	7.4	11.1	11.1	3.7	3.7	11.1	37.0	3.7
30歳代	77	28.6	20.8	13.0	19.5	13.0	11.7	6.5	3.9	1.3	13.0	26.0	6.5
40歳代	129	34.9	25.6	14.0	14.7	10.1	14.7	10.1	3.1	0.0	6.2	31.8	2.3
50歳代	130	31.5	23.1	7.7	22.3	10.8	16.9	13.8	4.6	0.8	3.1	28.5	0.8
60歳代	120	15.8	18.3	15.8	17.5	9.2	14.2	13.3	3.3	0.0	8.3	40.0	3.3
70～74歳	85	17.6	20.0	16.5	14.1	8.2	14.1	17.6	7.1	0.0	9.4	32.9	0.0
75歳以上	53	11.3	17.0	17.0	17.0	17.0	11.3	13.2	3.8	3.8	13.2	28.3	11.3
女性18～29歳	46	41.3	39.1	15.2	39.1	10.9	23.9	8.7	10.9	2.2	2.2	10.9	2.2
30歳代	102	32.4	37.3	19.6	15.7	17.6	21.6	10.8	2.0	1.0	1.0	29.4	4.9
40歳代	144	41.7	27.8	22.9	11.1	20.1	15.3	6.3	3.5	2.8	4.9	22.2	2.1
50歳代	161	36.6	34.8	19.3	7.5	17.4	13.7	5.0	3.7	1.2	3.7	23.0	3.7
60歳代	132	18.2	28.0	17.4	11.4	19.7	12.9	8.3	3.0	1.5	8.3	24.2	6.1
70～74歳	86	8.1	27.9	26.7	12.8	31.4	11.6	2.3	0.0	1.2	11.6	16.3	7.0
75歳以上	71	9.9	12.7	19.7	9.9	4.2	8.5	4.2	0.0	1.4	15.5	21.1	25.4

## 第9章 子どもの貧困対策【問31～問33】

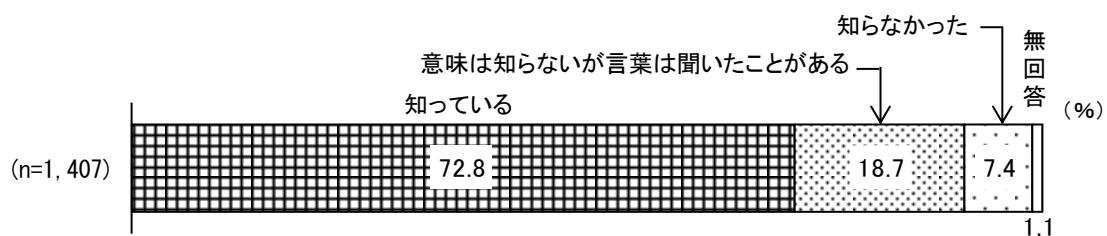
### 1 「子どもの貧困」の認知度【問31】

#### 【全体の状況】

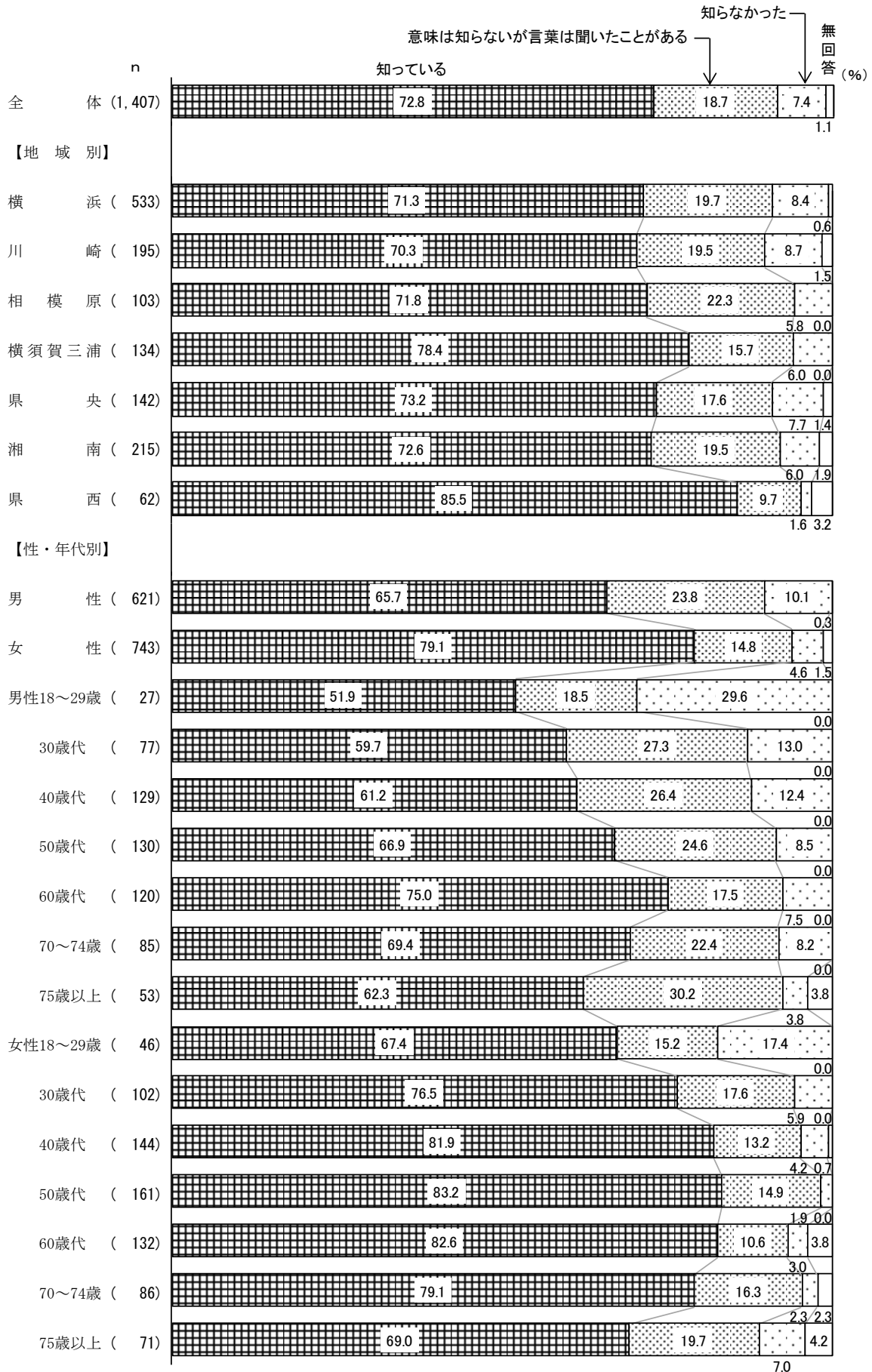
「子どもの貧困」という言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「知っている」が72.8%であった。

一方、「知らなかった」は、7.4%であった。（図表9-1-1）

図表9-1-1 「子どもの貧困」の認知度



図表9-1-2 「子どもの貧困」の認知度—地域別、性・年代別



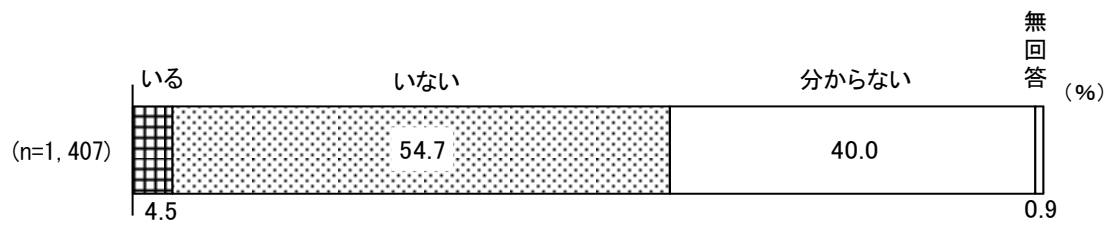
## 2 身近で支援を必要とする子どもの有無【問32】

### 【全体の状況】

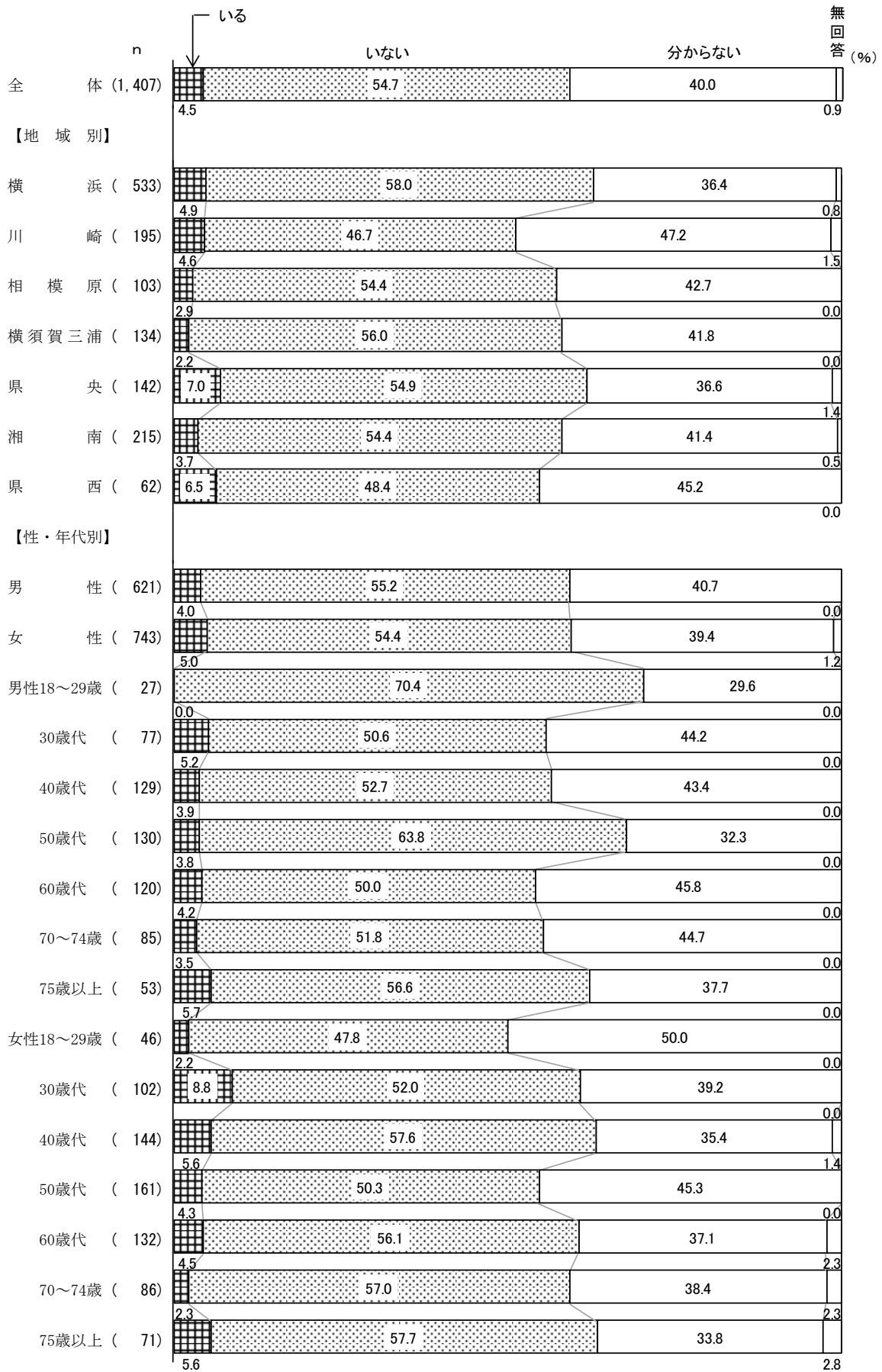
近所や職場、親戚などの身近に、経済的に苦しく行政などによる支援が必要だと思われる17歳以下の子どもがいるか尋ねたところ、「いる」が4.5%であった。

一方、「いない」が54.7%であった。(図表9-2-1)

図表9-2-1 身近で支援を必要とする子どもの有無



図表9-2-2 身近で支援を必要とする子どもの有無—地域別、性・年代別





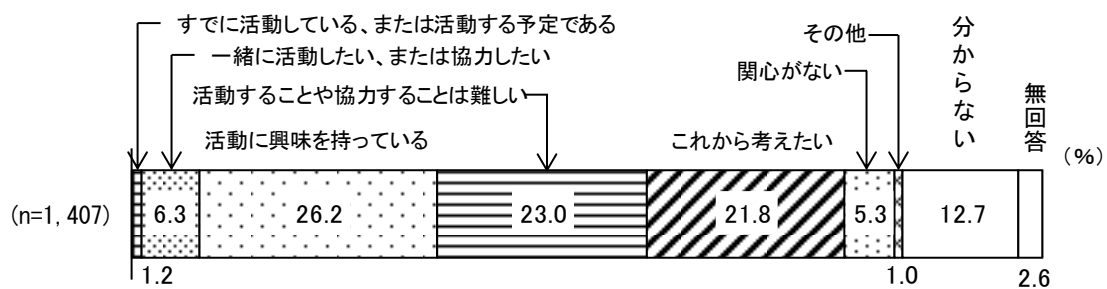
### 3 地域の支援活動に対する考え方【問33】

#### 【全体の状況】

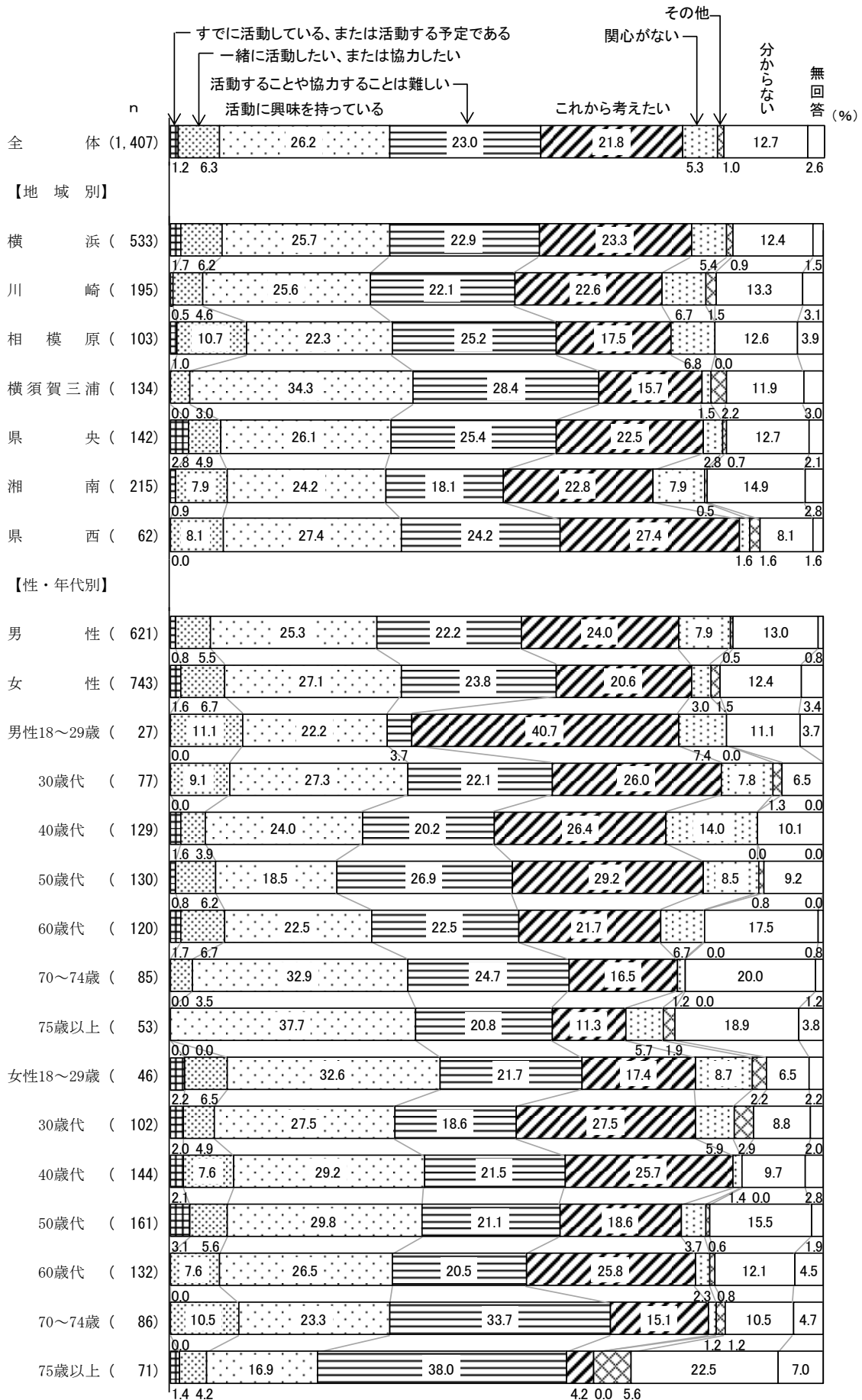
貧困などの困難な環境にある子どもを身近な地域で支援する活動、いわゆる子ども食堂や居場所の提供などについてどのように考えているか尋ねたところ、「活動に興味を持っている」が26.2%で最も多く、次いで「活動することや協力することは難しい」が23.0%であった。

(図表 9-3-1)

図表9-3-1 地域の支援活動に対する考え方



図表9-3-2 地域の支援活動に対する考え方—地域別、性・年代別



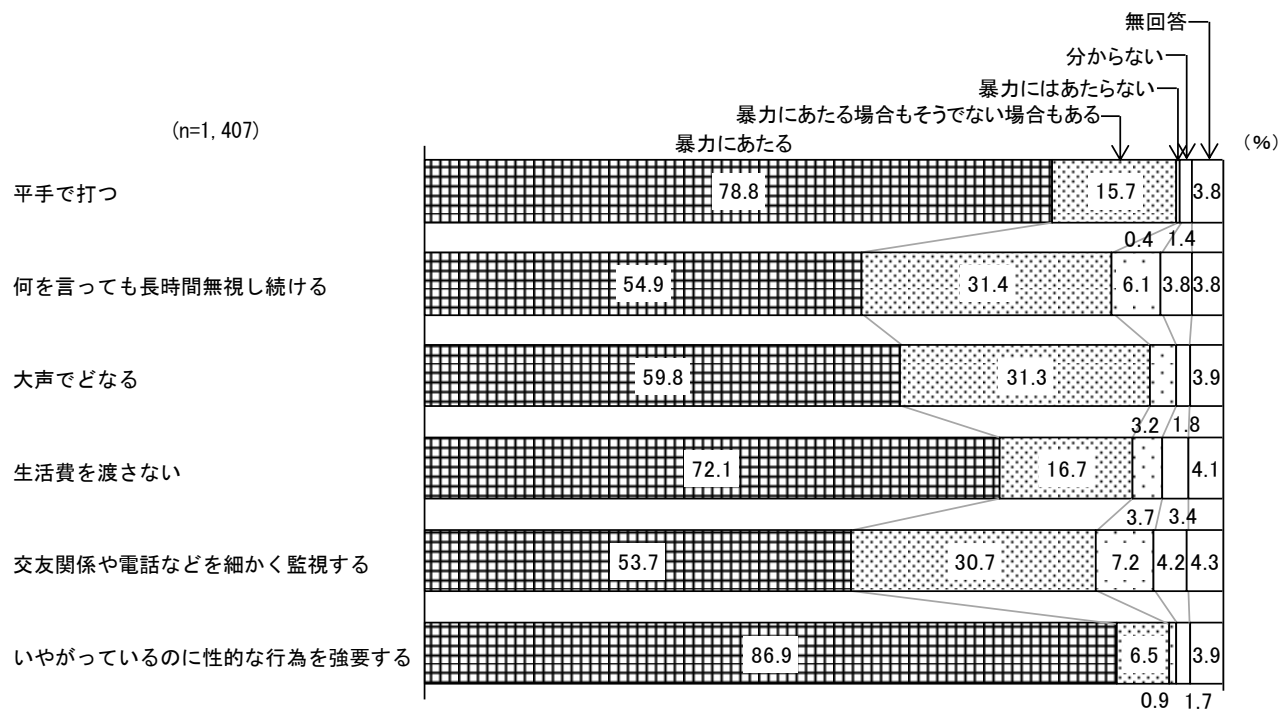
## 第10章 配偶者等からの暴力【問34～問35】

### 1 夫婦間での暴力行為における暴力（DV）としての認識【問34】

#### 【全体の状況】

夫婦（事実婚や別居中を含む）の間で行われた暴力について6項目の行為を提示し、それぞれ暴力（DV）だと思いか尋ねたところ、「暴力にあたる」では、「いやがっているのに性的な行為を強要する」が86.9%で最も多く、次いで「平手で打つ」が78.8%であった。（図表10-1-1）

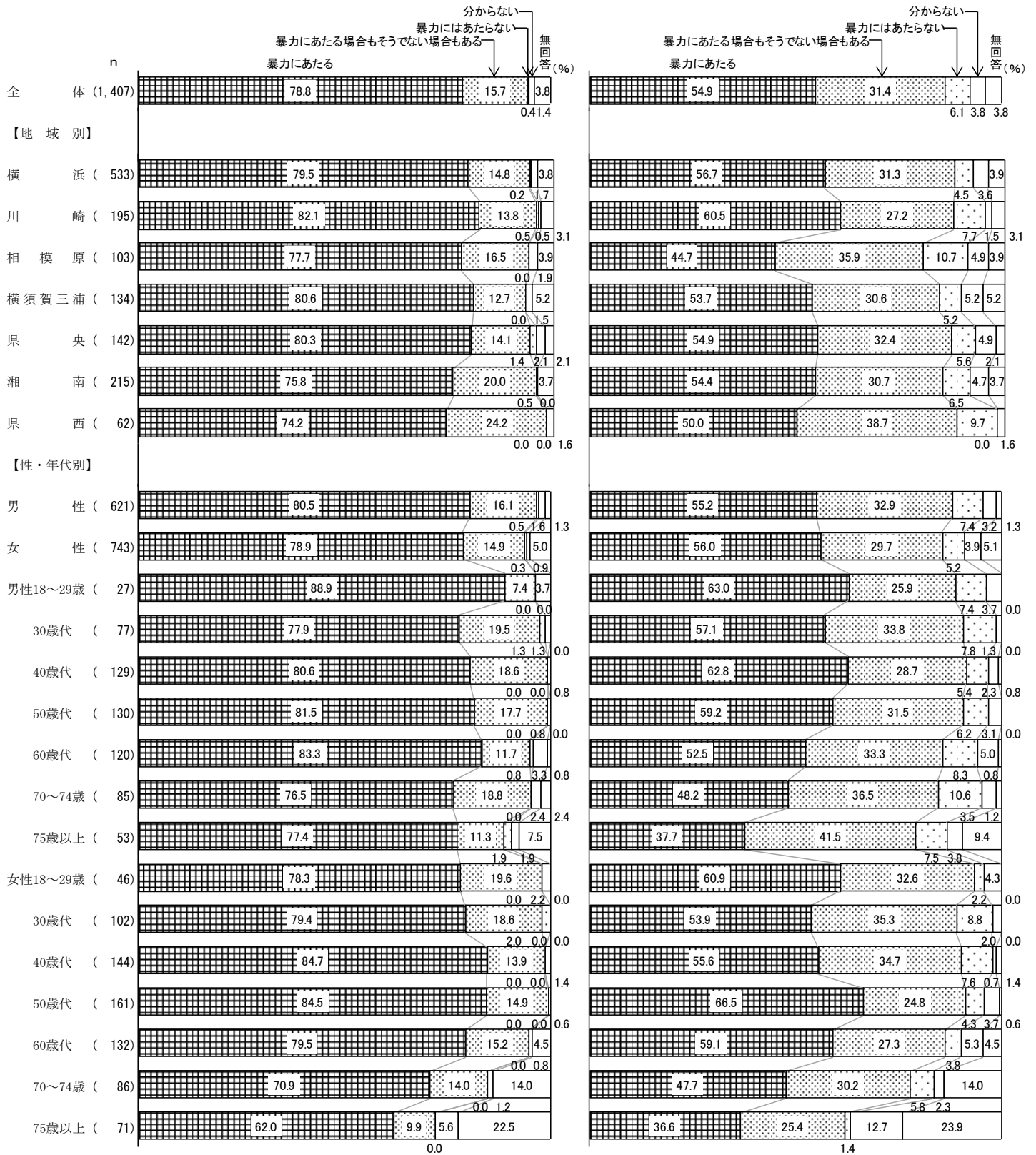
図表10-1-1 夫婦間での暴力行為における暴力（DV）としての認識



図表10-1-2 夫婦間での暴力行為における暴力（DV）としての認識—地域別、性・年代別

(1) 平手で打つ

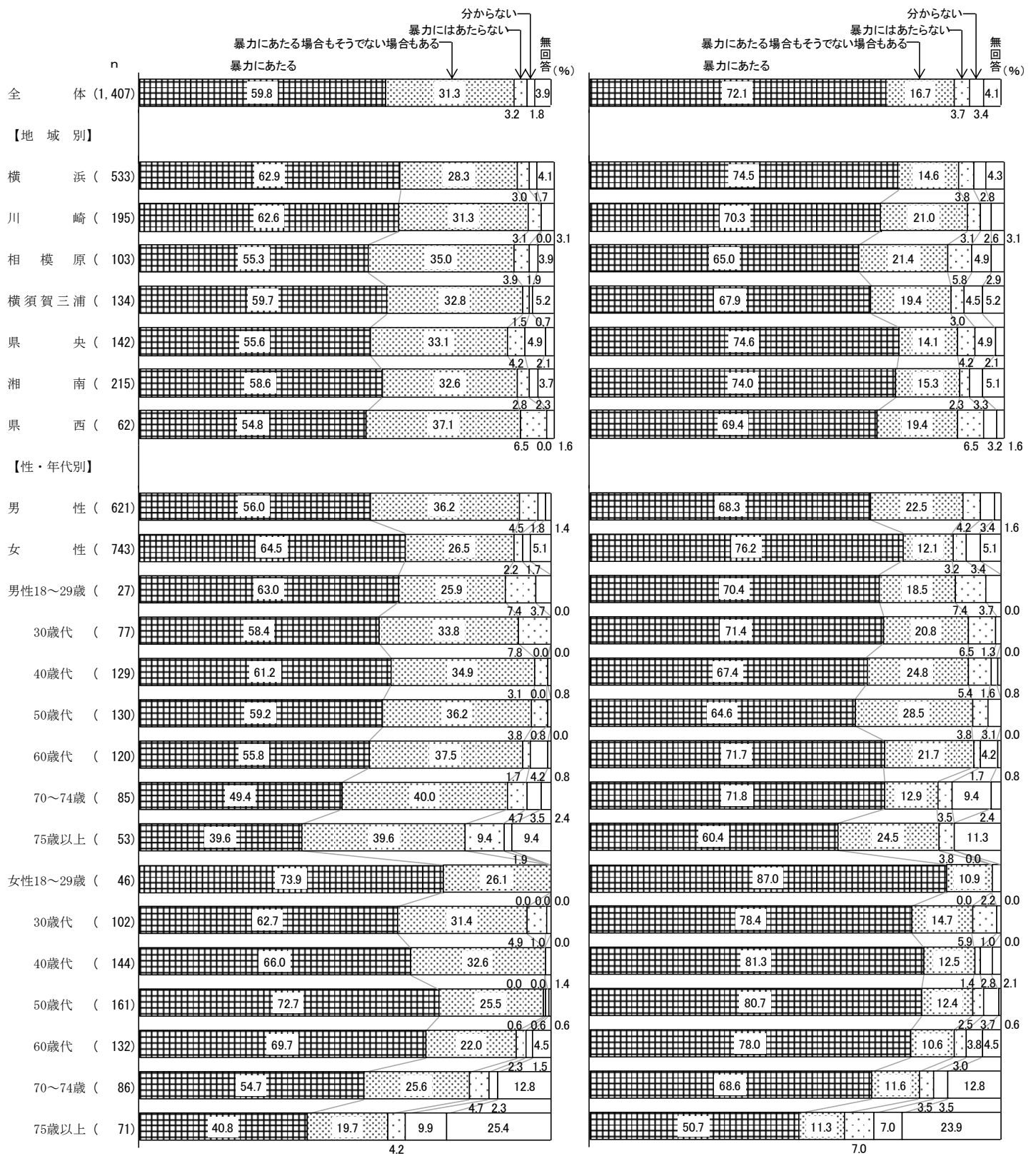
(2) 何を言っても長時間無視し続ける



図表10-1-2 夫婦間での暴力行為における暴力（DV）としての認識—地域別、性・年代別（つづき）

(3) 大声でどなる

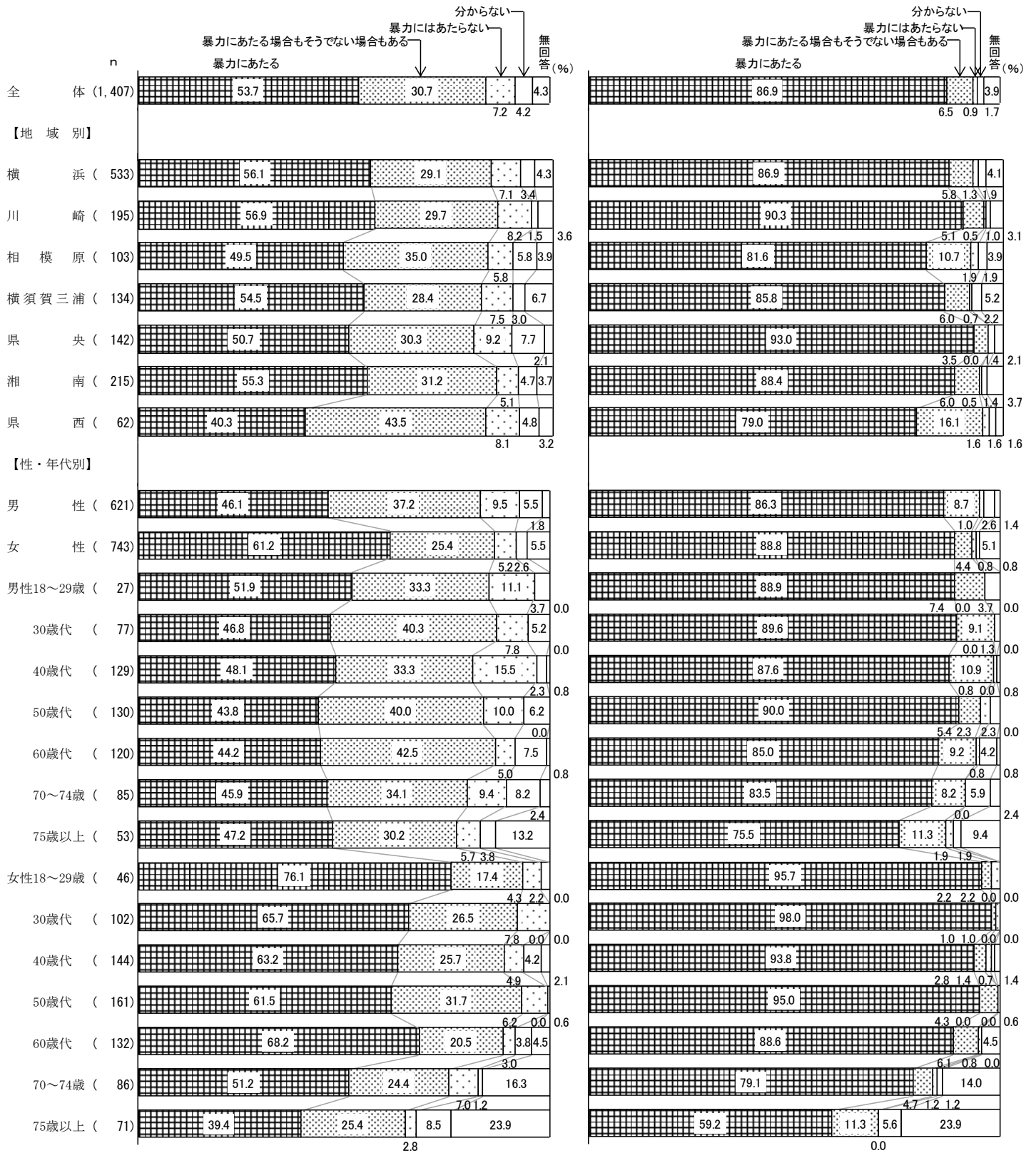
(4) 生活費を渡さない



図表10-1-2 夫婦間での暴力行為における暴力（DV）としての認識—地域別、性・年代別（つづき）

(5) 交友関係や電話などを細かく監視する

(6) いやがっているのに性的な行為を強要する

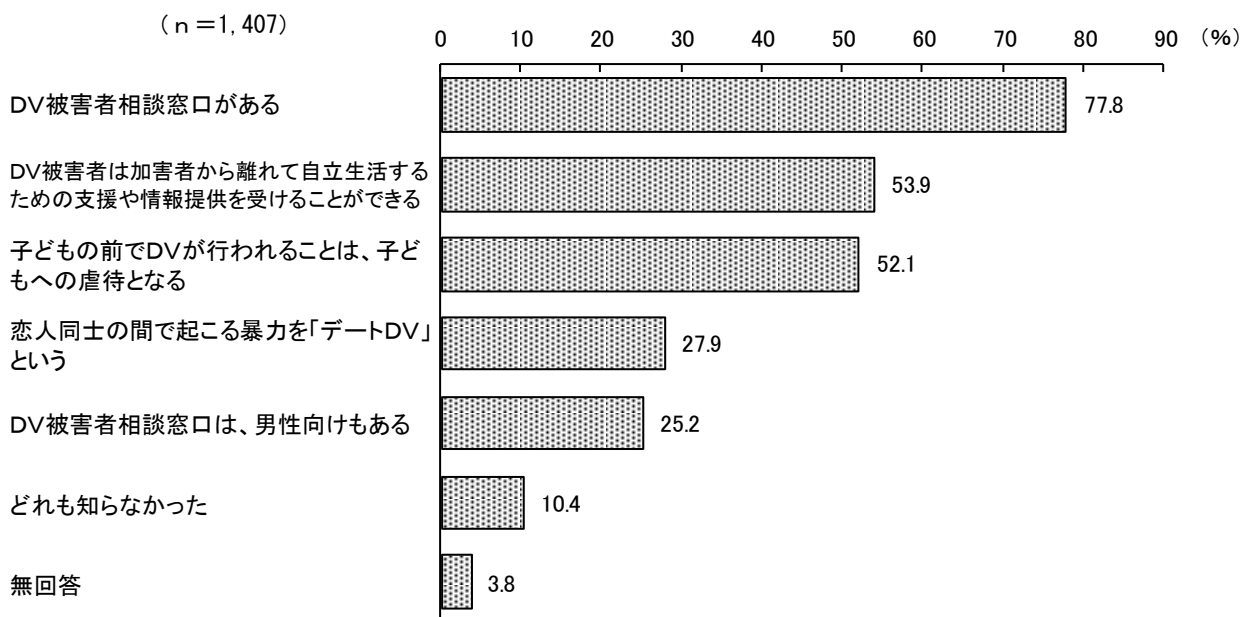


## 2 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと【問35】

### 【全体の状況】

配偶者等からの暴力（DV）について、知っていたことを複数回答で尋ねたところ、「DV被害者相談窓口がある」が77.8%で最も多く、次いで「DV被害者は加害者から離れて自立生活するための支援や情報提供を受けることができる」が53.9%であった。（図表10-2-1）

図表10-2-1 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと（複数回答）



図表10-2-2 配偶者等からの暴力（DV）について知っていたこと（複数回答）

—地域別、性・年代別

(%)

	n	DV被害者相談窓口がある	DV被害者のための支援や情報提供を受け、自立生活できている	子どもの前でDVが行われることは、子どもへの虐待となる	恋人同士の間で起こる暴力を「デートDV」という	DV被害者相談窓口は、男性向けもある	どれも知らなかった	無回答
全 体	1,407	77.8	53.9	52.1	27.9	25.2	10.4	3.8
【地 域 別】								
横 浜	533	78.8	56.8	53.5	31.0	27.8	10.3	3.2
川 崎	195	81.0	50.3	48.2	24.1	25.1	8.2	4.1
相 模 原	103	76.7	50.5	55.3	28.2	30.1	10.7	2.9
横 須 賀 三 浦	134	77.6	55.2	53.0	28.4	19.4	10.4	3.0
県 央	142	73.2	51.4	54.2	25.4	26.8	11.3	3.5
湘 南	215	75.8	54.4	52.6	27.0	22.8	13.0	3.7
県 西	62	82.3	50.0	38.7	24.2	17.7	9.7	1.6
【性・年代別】								
男 性	621	72.9	42.2	43.0	19.3	22.4	15.3	2.1
女 性	743	82.8	64.6	60.0	35.5	28.3	6.5	3.8
男性18～29歳	27	63.0	22.2	44.4	29.6	37.0	25.9	0.0
30歳代	77	74.0	41.6	44.2	26.0	37.7	15.6	0.0
40歳代	129	77.5	39.5	51.2	22.5	30.2	10.1	1.6
50歳代	130	76.2	43.1	33.8	23.1	20.0	15.4	0.0
60歳代	120	74.2	48.3	48.3	20.0	15.8	14.2	3.3
70～74歳	85	70.6	45.9	40.0	7.1	10.6	18.8	0.0
75歳以上	53	58.5	37.7	35.8	5.7	13.2	18.9	13.2
女性18～29歳	46	78.3	50.0	69.6	67.4	43.5	10.9	0.0
30歳代	102	91.2	67.6	66.7	46.1	41.2	2.9	1.0
40歳代	144	88.2	69.4	63.2	43.1	31.3	2.8	0.7
50歳代	161	90.1	67.1	62.1	38.5	27.3	5.6	0.0
60歳代	132	81.1	71.2	59.8	27.3	27.3	8.3	4.5
70～74歳	86	81.4	64.0	53.5	18.6	14.0	7.0	7.0
75歳以上	71	50.7	42.3	42.3	12.7	15.5	14.1	19.7



## 第11章 地域社会との関わり【問36】

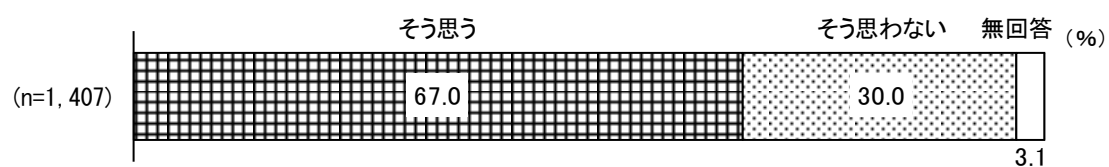
### 1 地域社会との関わりを大切にする意識【問36】

#### 【全体の状況】

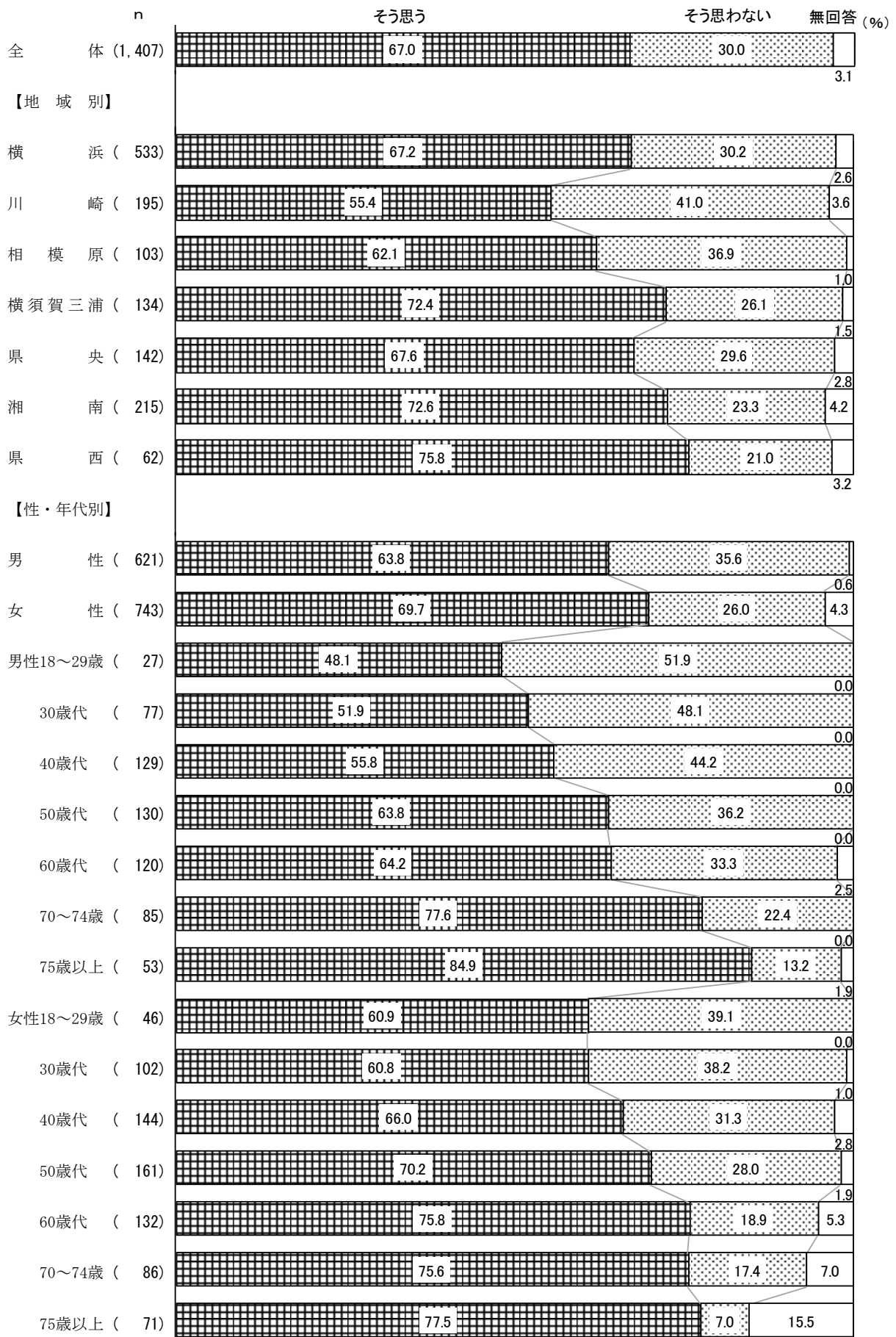
長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしているか尋ねたところ、「そう思う」が67.0%であった。

一方、「そう思わない」が30.0%であった。(図表11-1-1)

図表11-1-1 地域社会との関わりを大切にする意識



図表11-1-2 地域社会との関わりを大切にする意識—地域別、性・年代別



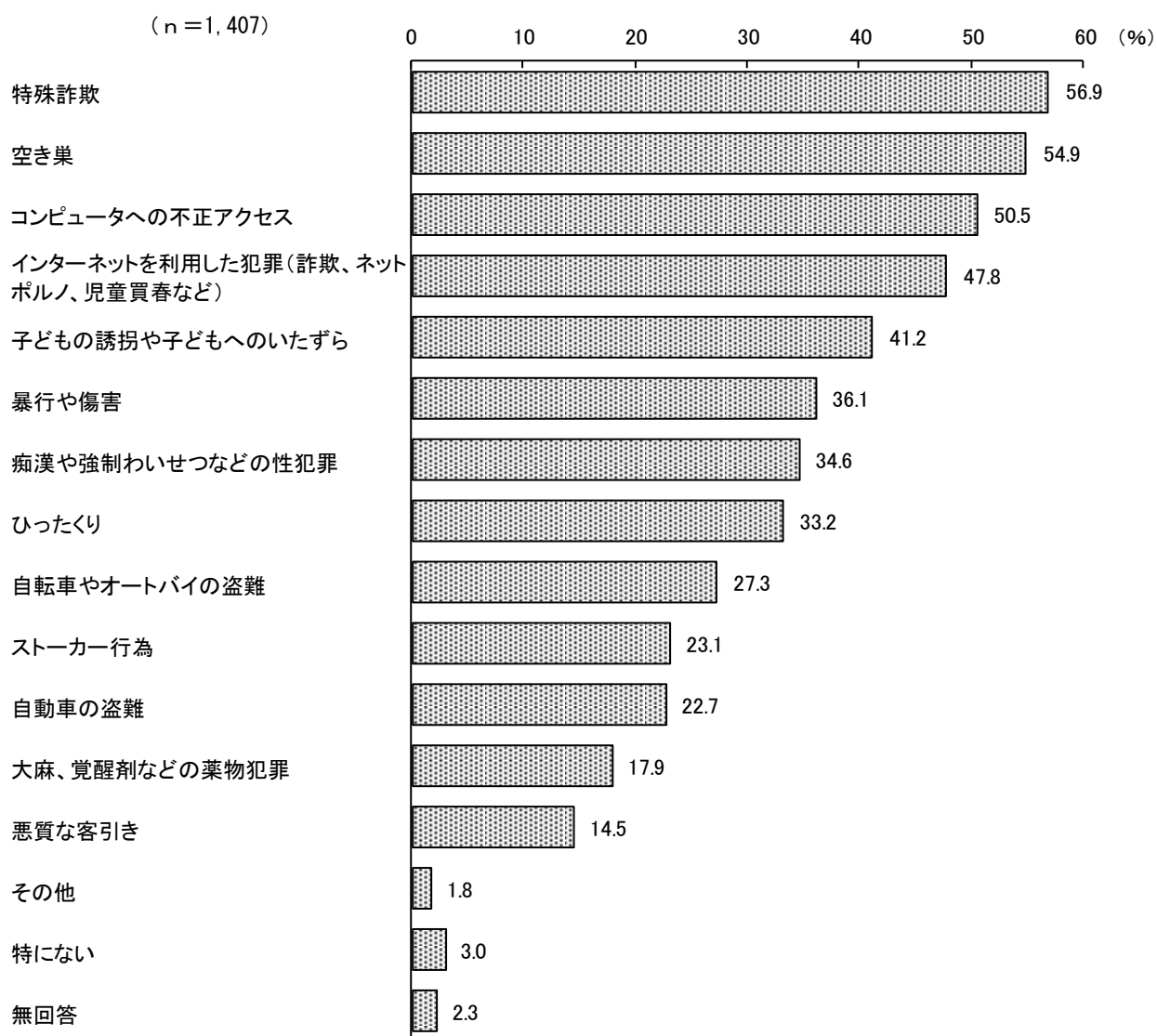
## 第12章 治安対策【問37～問39】

### 1 不安を感じる犯罪【問37】

#### 【全体の状況】

不安を感じる身近な犯罪を複数回答で尋ねたところ、「特殊詐欺」が56.9%で最も多く、次いで「空き巣」が54.9%であった。（図表12-1-1）

図表12-1-1 不安を感じる犯罪（複数回答）



図表12-1-2 不安に感じる犯罪（複数回答）－地域別、性・年代別

(96)

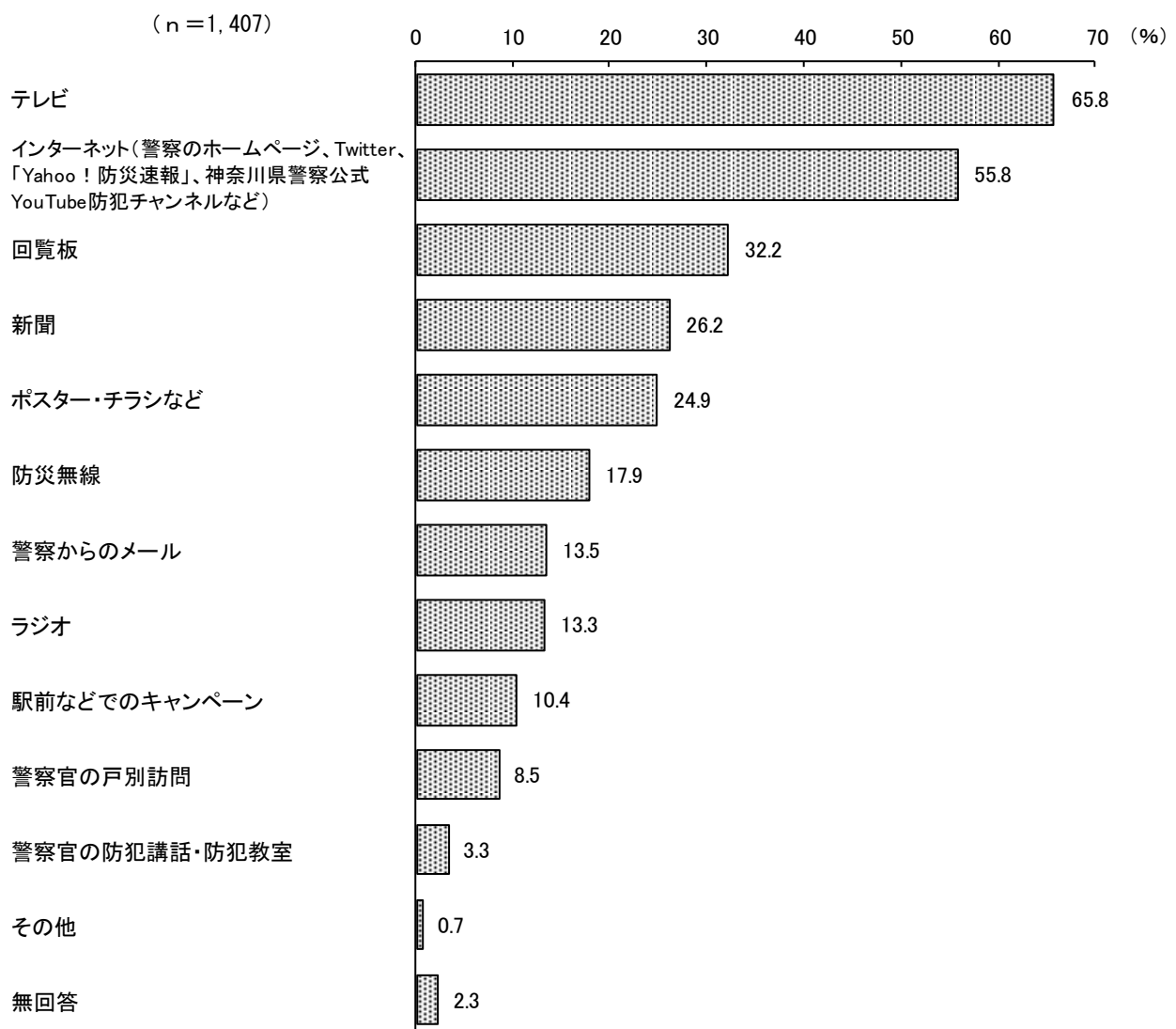
	n	特殊詐欺	空き巣	コンピュータへの不正アクセス	インターネットを利用した犯罪等（詐欺、ネットポルノ、児童買春など）	子どもの誘拐や子どもへのいたづら	暴行や傷害	痴漢や強制わいせつなどの性犯罪	ひったくり	自転車やオートバイの盗難	ストーカー行為	自動車の盗難	大麻、覚醒剤などの薬物犯罪	悪質な客引き	その他	特になし	無回答
全体	1,407	56.9	54.9	50.5	47.8	41.2	36.1	34.6	33.2	27.3	23.1	22.7	17.9	14.5	1.8	3.0	2.3
【地域別】																	
横浜	533	59.1	54.6	55.7	48.6	43.2	37.7	34.9	35.1	25.0	23.8	19.7	20.3	15.2	2.3	3.6	0.4
川崎	195	51.3	54.4	46.2	45.1	40.5	35.9	33.8	32.3	27.7	21.0	20.0	13.3	13.3	1.0	3.6	1.0
相模原	103	60.2	54.4	45.6	42.7	29.1	35.0	27.2	29.1	35.9	17.5	25.2	13.6	12.6	1.9	2.9	1.0
横須賀三浦	134	62.7	66.4	56.7	44.8	46.3	36.6	38.1	33.6	20.9	28.4	14.9	16.4	14.2	2.2	0.0	0.7
県央	142	52.1	57.0	48.6	48.6	50.0	34.5	39.4	35.9	38.0	23.9	38.7	18.3	17.6	1.4	4.2	0.7
湘南	215	59.1	55.3	48.4	55.3	40.9	39.1	38.6	35.8	29.3	23.7	24.7	20.9	14.9	1.4	1.9	1.4
県西	62	58.1	48.4	41.9	53.2	32.3	30.6	27.4	22.6	22.6	25.8	32.3	17.7	12.9	3.2	4.8	3.2
【性・年代別】																	
男性	621	60.4	51.2	48.6	45.7	34.1	39.1	26.7	24.6	30.1	16.9	27.2	16.6	17.1	2.3	4.2	0.3
女性	743	55.3	59.5	53.8	51.3	48.9	35.0	42.4	41.3	25.8	29.1	19.7	19.7	12.9	1.6	1.9	1.1
男性18～29歳	27	29.6	25.9	44.4	18.5	33.3	37.0	22.2	18.5	22.2	14.8	14.8	14.8	25.9	0.0	11.1	0.0
30歳代	77	48.1	49.4	46.8	39.0	53.2	37.7	32.5	22.1	41.6	18.2	27.3	11.7	19.5	7.8	2.6	0.0
40歳代	129	55.8	54.3	48.1	46.5	46.5	40.3	36.4	25.6	27.9	18.6	26.4	19.4	21.7	2.3	3.9	0.0
50歳代	130	60.0	55.4	50.8	46.2	29.2	37.7	24.6	23.1	37.7	13.8	36.9	14.6	14.6	0.8	3.1	0.0
60歳代	120	70.8	51.7	53.3	55.8	28.3	50.8	25.0	31.7	33.3	22.5	30.0	27.5	19.2	1.7	3.3	0.8
70～74歳	85	64.7	47.1	45.9	54.1	24.7	31.8	17.6	18.8	22.4	12.9	24.7	9.4	10.6	0.0	5.9	0.0
75歳以上	53	75.5	54.7	43.4	30.2	17.0	28.3	20.8	26.4	9.4	13.2	9.4	9.4	9.4	3.8	5.7	1.9
女性18～29歳	46	28.3	56.5	52.2	52.2	50.0	50.0	63.0	41.3	30.4	54.3	21.7	23.9	28.3	2.2	4.3	0.0
30歳代	102	50.0	54.9	58.8	60.8	63.7	42.2	52.0	42.2	30.4	35.3	25.5	18.6	19.6	3.9	1.0	0.0
40歳代	144	43.8	56.9	61.8	59.0	66.7	38.9	51.4	40.3	32.6	29.2	27.1	18.8	13.9	0.0	2.1	0.0
50歳代	161	63.4	67.1	67.7	55.9	41.6	35.4	45.3	44.1	27.3	31.1	18.0	21.1	9.3	1.2	0.0	0.0
60歳代	132	65.2	58.3	53.0	49.2	40.2	33.3	32.6	34.8	27.3	22.7	19.7	18.9	9.8	1.5	3.8	2.3
70～74歳	86	66.3	61.6	38.4	39.5	38.4	30.2	26.7	48.8	12.8	19.8	14.0	17.4	8.1	1.2	1.2	2.3
75歳以上	71	54.9	54.9	21.1	28.2	36.6	15.5	26.8	39.4	12.7	22.5	5.6	21.1	11.3	2.8	2.8	4.2

## 2 地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法【問38】

### 【全体の状況】

地域の犯罪発生情報や防犯に役立つ情報について、得やすい方法を複数回答で尋ねたところ、「テレビ」が65.8%で最も多く、次いで「インターネット(警察のホームページ、Twitter、「Yahoo!防災速報」、神奈川県警察公式YouTube防犯チャンネルなど)」が55.8%であった。(図表12-2-1)

図表12-2-1 地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法（複数回答）



図表12-2-2 地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法（複数回答）—地域別、性・年代別

(%)

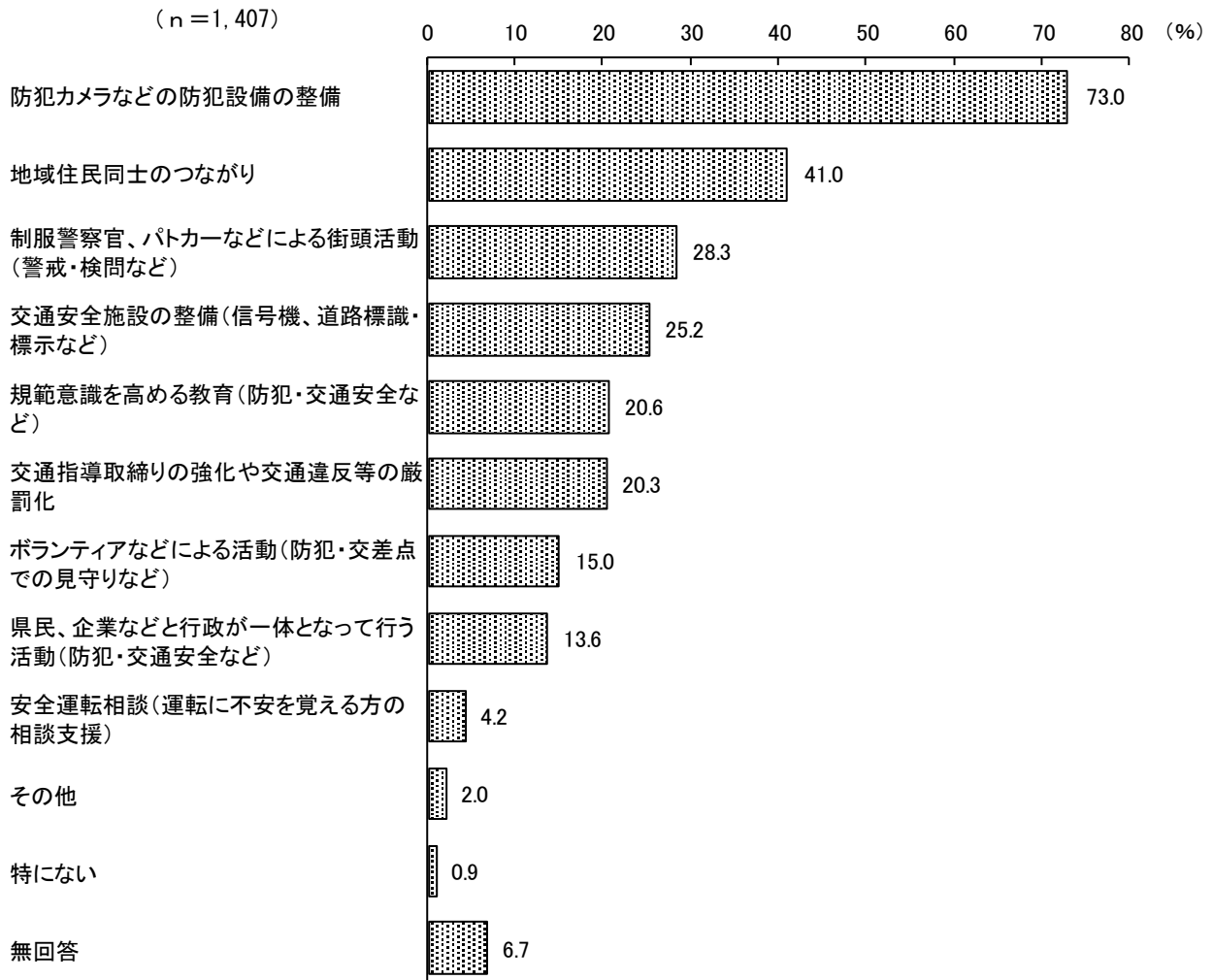
	n	テレビ	インターネット（警察のホームページ、Twitter、YouTube、神奈川県警察公式チャンネルなど）	回覧板	新聞	ポスター・チラシなど	防災無線	警察からのメール	ラジオ	駅前などでのキャンペーン	警察官の戸別訪問	警察官の防犯講話・防犯教室	その他	無回答
全体	1,407	65.8	55.8	32.2	26.2	24.9	17.9	13.5	13.3	10.4	8.5	3.3	0.7	2.3
【地域別】														
横浜	533	67.2	57.6	32.8	25.5	26.6	5.6	15.0	14.3	13.1	10.1	3.0	0.9	0.9
川崎	195	63.1	63.1	21.5	24.1	29.2	9.7	7.7	12.3	11.3	7.7	2.6	0.5	1.5
相模原	103	66.0	58.3	28.2	32.0	21.4	24.3	14.6	13.6	7.8	4.9	3.9	0.0	0.0
横須賀三浦	134	69.4	56.0	40.3	30.6	22.4	20.9	18.7	13.4	6.7	7.5	2.2	1.5	0.7
県央	142	71.8	52.1	36.6	27.5	26.1	33.1	15.5	16.2	9.9	9.2	5.6	0.0	0.7
湘南	215	64.2	54.9	32.6	23.7	20.0	36.3	11.6	12.1	7.9	6.5	2.8	0.0	1.4
県西	62	67.7	43.5	48.4	32.3	29.0	40.3	12.9	9.7	9.7	11.3	6.5	3.2	0.0
【性・年代別】														
男性	621	67.3	61.7	28.2	29.3	22.4	19.3	10.8	14.5	10.6	10.0	3.4	0.8	0.5
女性	743	66.2	53.0	36.5	23.8	27.3	17.0	16.2	12.8	10.4	7.3	3.1	0.7	1.1
男性18～29歳	27	51.9	59.3	14.8	14.8	22.2	14.8	7.4	3.7	22.2	7.4	0.0	0.0	0.0
30歳代	77	57.1	75.3	15.6	13.0	18.2	13.0	9.1	11.7	10.4	9.1	1.3	0.0	0.0
40歳代	129	58.9	66.7	17.8	16.3	20.9	14.7	10.9	10.9	14.0	8.5	4.7	0.0	0.8
50歳代	130	60.8	71.5	21.5	18.5	20.8	21.5	16.2	13.8	13.8	6.9	3.8	1.5	0.8
60歳代	120	77.5	65.8	37.5	39.2	25.0	25.8	14.2	21.7	7.5	10.8	3.3	1.7	0.0
70～74歳	85	77.6	49.4	43.5	52.9	24.7	18.8	5.9	16.5	4.7	14.1	4.7	0.0	0.0
75歳以上	53	86.8	17.0	49.1	58.5	26.4	22.6	1.9	15.1	5.7	15.1	1.9	1.9	1.9
女性18～29歳	46	54.3	76.1	19.6	8.7	17.4	4.3	6.5	2.2	19.6	2.2	6.5	0.0	2.2
30歳代	102	62.7	68.6	19.6	4.9	28.4	9.8	15.7	6.9	17.6	2.9	2.9	0.0	0.0
40歳代	144	54.2	70.1	32.6	11.1	28.5	16.7	24.3	11.1	9.7	5.6	1.4	0.7	0.0
50歳代	161	63.4	66.5	31.1	16.8	26.7	16.8	24.2	11.2	10.6	6.2	5.0	1.2	0.0
60歳代	132	76.5	43.2	37.9	34.1	28.0	23.5	11.4	15.2	7.6	6.8	2.3	0.0	1.5
70～74歳	86	81.4	18.6	57.0	50.0	37.2	22.1	7.0	18.6	7.0	14.0	2.3	2.3	0.0
75歳以上	71	71.8	9.9	64.8	52.1	18.3	18.3	8.5	23.9	4.2	15.5	2.8	0.0	7.0

### 3 犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思うもの【問39】

#### 【全体の状況】

犯罪や交通事故がなく、より安心してくらすために重要だと思うものを複数回答（3つまで選択可）で尋ねたところ、「防犯カメラなどの防犯設備の整備」が73.0%で最も多く、次いで「地域住民同士のつながり」が41.0%であった。（図表12-3-1）

図表12-3-1 犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思うもの（複数回答）



図表12-3-2 犯罪や交通事故がなく安心してくらすために重要だと思うもの（複数回答）

－地域別、性・年代別

(%)

	n	防犯カメラなどの防犯設備の整備	地域住民同士のつながり	制服警察官、パトカーなどによる街頭活動（警戒・検問など）	交通安全施設の整備（信号機、道路標識・標示など）	規範意識を高める教育（防犯・交通安全など）	交通指導取締りの強化や交通違反等の厳罰化	ボランテニアなどによる活動（防犯・交差点での見守りなど）	県民、企業などとして行政が一体となつて行う活動（防犯・交通安全など）	安全運転相談（運転に不安を覚える方の相談支援）	その他	特になし	無回答
全 体	1,407	73.0	41.0	28.3	25.2	20.6	20.3	15.0	13.6	4.2	2.0	0.9	6.7
【地 域 別】													
横 浜	533	75.4	39.2	29.3	26.1	19.5	20.1	14.8	15.2	6.0	2.4	0.6	5.8
川 崎	195	69.7	33.3	30.8	24.6	19.0	26.2	12.3	15.4	4.1	2.1	1.5	7.2
相 模 原	103	76.7	34.0	31.1	30.1	19.4	23.3	22.3	14.6	1.0	0.0	0.0	3.9
横 須 賀 三 浦	134	76.9	56.7	27.6	18.7	26.9	19.4	23.9	11.9	0.7	2.2	0.0	0.7
県 央	142	81.0	44.4	26.1	25.4	24.6	16.9	14.1	12.0	2.8	2.1	1.4	6.3
湘 南	215	68.8	44.7	27.4	29.3	20.5	19.5	12.1	11.2	4.7	0.5	1.9	4.2
県 西	62	67.7	50.0	27.4	16.1	22.6	16.1	11.3	12.9	3.2	6.5	0.0	9.7
【性・年代別】													
男 性	621	74.7	39.6	29.0	27.4	20.8	23.3	12.6	14.7	2.9	1.9	1.3	3.7
女 性	743	73.9	43.2	28.8	24.0	21.4	18.3	17.5	13.5	5.1	2.0	0.4	6.5
男性18～29歳	27	74.1	18.5	40.7	18.5	11.1	22.2	18.5	22.2	11.1	0.0	7.4	0.0
30歳代	77	71.4	29.9	28.6	31.2	24.7	22.1	13.0	15.6	0.0	5.2	0.0	2.6
40歳代	129	76.0	35.7	31.8	27.9	24.0	24.8	11.6	14.7	3.9	2.3	1.6	1.6
50歳代	130	78.5	39.2	34.6	27.7	14.6	25.4	10.8	12.3	3.8	1.5	0.0	3.1
60歳代	120	72.5	47.5	25.8	18.3	27.5	28.3	9.2	13.3	1.7	0.8	2.5	5.0
70～74歳	85	72.9	43.5	23.5	36.5	16.5	16.5	18.8	20.0	1.2	2.4	0.0	5.9
75歳以上	53	75.5	50.9	18.9	30.2	18.9	17.0	13.2	9.4	3.8	0.0	1.9	7.5
女性18～29歳	46	73.9	21.7	43.5	21.7	26.1	15.2	19.6	13.0	8.7	2.2	0.0	6.5
30歳代	102	69.6	41.2	32.4	20.6	27.5	29.4	17.6	14.7	8.8	3.9	0.0	3.9
40歳代	144	75.7	38.2	35.4	25.7	23.6	18.8	23.6	10.4	3.5	3.5	0.0	4.2
50歳代	161	77.0	40.4	26.7	26.1	24.8	20.5	14.9	13.7	3.7	1.9	1.2	5.0
60歳代	132	76.5	48.5	24.2	29.5	17.4	15.9	11.4	12.9	8.3	1.5	0.0	6.8
70～74歳	86	69.8	51.2	23.3	20.9	24.4	11.6	15.1	17.4	2.3	0.0	0.0	14.0
75歳以上	71	69.0	57.7	21.1	15.5	1.4	9.9	23.9	12.7	1.4	0.0	1.4	8.5



第Ⅳ部 調査票と単純集計結果



調査期間 令和4年9月9日～10月3日  
 標本設計数 3,000 有効回収数(率) 1,407 (46.9%)  
 \* 「n」は、質問に対する回答者の総数を表す。  
 ※ 比率(%)の数値は小数第2位を四捨五入しているため、  
 合計が100%にならないことがある。

## 令和4年度(2022年) 神奈川県『県民ニーズ調査』(第1回課題調査)

この調査は、県民の皆様のご意見やお考えをお聴きし、今後の県の施策を検討する基礎資料とするものです。日ごろのお考えを率直にお聴かせください。

### 【アンケートのテーマ】

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| 1 食・食育            | 7 ともに生きる社会かながわ |
| 2 食の安心・安全         | 8 神奈川の文化芸術     |
| 3 神奈川の農林水産業       | 9 子どもの貧困対策     |
| 4 肝炎対策            | 10 配偶者等からの暴力   |
| 5 将来の住まい          | 11 地域社会との関わり   |
| 6 SDGs(持続可能な開発目標) | 12 治安対策        |

#### ◆ 記入上の留意事項

- この調査のご回答は、**封筒のあて名のご本人様**をお願いいたします。
- この調査は無記名式です。お名前やご住所の**記入は不要**です。
- お答えは、直接、この調査票の**あてはまる番号を○**で囲んでください。
- ご記入いただく筆記用具の種類や色の指定はありません。
- 分かる質問だけお答えいただければ結構です。

- ▼ **ご記入いただいた調査票は、同封の返送用封筒に入れ、10月3日(月)まで**にご投函ください。(切手は不要です。お名前やご住所の記入は不要です。)
- ▼ **インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。**

### 【お問合せ先】

神奈川県 政策局 政策部 情報公開広聴課 広聴グループ

- **問合せフォーム** (10月3日までの期間限定)

県民ニーズ調査HP

(<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/h3e/cnt/f3489/>)に掲載している

「令和4年度調査対象者」向け**問合せフォーム**から送信してください。

右記の二次元コードからも送信できます。

お問合せフォームへ  
 アクセスできます。



- **電話 (045)210-1111 (内線3672~3676)**

※ 受付時間：月～金 8:30～17:15(土日祝日は閉庁)

# 1 食・食育

問1 「食育」※に関心がありますか。 (○は1つ) (n=1,407) (%)

1 関心がある	38.2	4 関心がない	3.7
2 どちらかといえば関心がある	39.4	5 分からない	3.9
3 どちらかといえば関心がない	13.3		(無回答 1.5)

※食育とは、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることをいいます。

問2 主食・主菜・副菜を組み合わせた健康的な食事内容を心がけていますか。 (○は1つ) (n=1,407) (%)

1 心がけている	75.8	3 分からない	5.8
2 心がけていない	17.1		(無回答 1.4)

問3 就寝前2時間以内に食事をとらないよう気をつけていますか。 (○は1つ) (n=1,407) (%)

1 気をつけている	63.3	3 分からない	3.0
2 気をつけていない	31.7		(無回答 2.0)

## 【複数人でお住まいの方のみお答えください】

問4 朝食・夕食を同居の方と一緒に食べていますか。 (○はそれぞれ1つずつ)

【朝食】 (n=1,135) (%)

1 ほとんど毎日	44.1	3 週に2~3日	12.5	5 ほとんど食べない	26.2
2 週に4~5日	6.0	4 週に1日程度	7.6		(無回答 3.6)

【夕食】 (n=1,135) (%)

1 ほとんど毎日	61.6	3 週に2~3日	12.9	5 ほとんど食べない	7.7
2 週に4~5日	10.5	4 週に1日程度	3.6		(無回答 3.8)

## 【一人暮らしの方のみお答えください】

問5 昼食・夕食を仲間や友人など、複数で一緒に食べていますか。 (○はそれぞれ1つずつ)

【昼食】 (n=255) (%)

1 ほとんど毎日	5.1	3 週に2~3日	5.9	5 ほとんど食べない	66.3
2 週に4~5日	7.1	4 週に1日程度	8.6		(無回答 7.1)

【夕食】 (n=255) (%)

1 ほとんど毎日	4.3	3 週に2~3日	3.5	5 ほとんど食べない	70.6
2 週に4~5日	1.6	4 週に1日程度	13.3		(無回答 6.7)

## 【全員の方がお答えください】

問6 いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など、食事のマナーを正しくできていると思いますか。 (○は1つ) (n=1,407) (%)

1 できていると思う	29.4	4 できていないと思う	10.0
2 どちらかといえばできていると思う	45.7	5 分からない	2.1
3 どちらかといえばできていないと思う	11.3		(無回答 1.6)

問7 ゆっくりよく噛んで食べていますか。 (○は1つ) (n=1,407) (%)

1 食べている	17.9	4 食べていない	9.6
2 どちらかといえば食べている	40.9	5 分からない	2.3
3 どちらかといえば食べていない	27.8	(無回答 1.4)	

問8 食べ物を無駄にしないよう食べ残しや買いすぎなどに気をつけていますか。 (○は1つ) (n=1,407) (%)

1 気をつけている	54.4	3 あまり気をつけていない	4.1
2 ある程度気をつけている	39.5	4 分からない	0.6
(無回答 1.5)			

問9 歯と口の健康を保つために、かかりつけ歯科医を決めていますか。 (○は1つ) (n=1,407) (%)

1 決めている	72.3	3 分からない	1.4
2 決めていない	23.4	(無回答 3.0)	

## 2 食の安心・安全

問10 食品を購入する際に、確認している表示内容がありますか。 (○はいくつでも) (n=1,407) (%)

1 期限表示 (消費期限や賞味期限)	89.8	5 食品添加物 (保存料や着色料など)	36.5
2 原産地や原産国	65.7	6 保存方法	33.7
3 アレルギー表示	9.2	7 遺伝子組換え食品に関する事項	21.5
4 原材料名	30.2	8 その他	2.6
(無回答 2.1)			

問11 食中毒を予防する上で重要なことについて、知っていたことを選んでください。 (○はいくつでも) (n=1,407) (%)

1 食品を購入したら寄り道せずに帰宅する	55.4
2 食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する	93.0
3 調理や食事前によく手を洗う	84.3
4 生肉や生魚を扱った調理器具は、使用後に消毒する	58.8
5 調理した食品はすぐに食べるようにし、残った食品は速やかに適切な温度で保存する	78.3
6 生肉は、食中毒を起こす細菌がついていることがあるので、よく加熱する	78.0
7 どれも知らなかった	0.4
(無回答 1.4)	

問12 食品を安全に食べるために、必要な知識 (例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど) を持っていると思いますか。 (○は1つ) (n=1,407) (%)

1 持っていると思う	42.9	4 持っていないと思う	1.1
2 ある程度持っていると思う	46.4	5 分からない	0.9
3 あまり持っていないと思う	7.2	(無回答 1.5)	

### 3 神奈川の農林水産業

問 13 県内の農林水産業を活性化する上で、「地産地消」※の取組みを重要だと思いますか。(○は1つ)  
(n=1,407) (%)

1 重要だと思う	52.5	4 重要だと思わない	2.1
2 どちらかといえば重要だと思う	35.5	5 分からない	6.8
3 どちらかといえば重要だと思わない	2.6		(無回答 0.6)

※地産地消とは、地域の需要に即した生産を行い、その産物を地域で消費するための取組みのことをいいます。

問 14 「かながわブランド」という言葉の意味について知っていますか。(○は1つ) (n=1,407) (%)

1 知っている	24.3	3 知らなかった	28.6
2 言葉は聞いたことがある	46.3		(無回答 0.7)

県と生産者団体で構成する「かながわブランド振興協議会」では、組織的な生産・出荷基準によって品質を確保するなどの要件を満たした農林水産物やその加工品を「かながわブランド」として登録しています。

問 15 県の農業に特にどのような役割を期待しますか。(○は1つ) (n=1,407) (%)

1 食料の安定供給	20.9	6 美しい風景や文化の継承	2.8
2 安全・安心な食料の供給	42.9	7 働く場の提供	1.4
3 価格の安い食料の供給	9.9	8 その他	0.7
4 災害時の避難場所など安全な空間の提供	2.6	9 分からない	1.8
5 自然や土とふれあう場・学習の場の提供	3.3		(無回答 13.8)

### 4 肝炎対策

問 16 「ウイルス性肝炎」※という病気を知っていますか。(○は1つ) (n=1,407) (%)

1 知っている	50.9	3 知らなかった	6.1
2 言葉は聞いたことがある	41.8		(無回答 1.2)

※ウイルス性肝炎とは、肝炎ウイルスにより肝臓の細胞が破壊され炎症が起きる病気のことです。日本では特にB型、C型肝炎にかかる人が多くなっており、肝硬変や肝がんなどの命に関わる病気に進行することもあります。

問 17 これまでに「肝炎ウイルス検査」※を受けたことがありますか。(○は1つ) (n=1,407) (%)

1 ある	16.3	3 ない	63.4
2 受けた可能性がある	9.2	4 分からない	10.3
			(無回答 0.8)

※肝炎ウイルス検査は、本人が自覚的に受検する場合と、大きな外科手術（全身麻酔での手術で1993年以降に経験）、妊娠・出産（1993年以降に経験）及び献血時（1990年以降に経験）に無自覚に受けた可能性があります。

【問 17 で 1、2 を選んだ方へ】

問 17-1 検査の結果を知っていますか。(○は1つ) (n=359) (%)

1 知っている	71.6	3 分からない、覚えていない	21.4
2 知らない（結果待ちを含む）	5.6		(無回答 1.4)

## 5 将来の住まい

問 18 将来高齢者になったとき現在の住まいに不安がありますか。高齢者の方は、現在の状況をご回答ください。 (○は1つ) (n=1,407) (%)

1	ある	53.2	2	ない	32.0	3	分からない	13.1	(無回答 1.7)
---	----	------	---	----	------	---	-------	------	-----------

【問 18 で 1 を選んだ方へ】

問 18-1 不安だと思う理由をすべて選んでください。 (○はいくつでも) (n=749) (%)

1	現在の住まいでは、いざというとき支援してくれる人が近くにいないから	34.8
2	現在の住まいでは、ゴミ捨て・買い物や階段・坂の上り下りなどがつらいから	30.8
3	現在の家賃や住宅ローンを払い続けられるか不安だから	33.0
4	リフォームや建替えをする場合、方法・相談先が分からないから	8.3
5	リフォームや建替え、住替えをする場合、費用が用意できるか不安だから	35.0
6	現在の住宅とは別の高齢者向け住宅に住み替える場合、どのような住宅があるのか、 どれがよいのか分からないから	22.4
7	住み替える場合、現在の住宅をどのように処分・管理してよいのか分からないから	17.4
8	住み替える場合、住み替えた先で地域に溶けこめるかどうか不安だから	14.3
9	その他	5.6
10	分からない	1.6

(無回答 0.5)

【全員の方がお答えください】

問 19 将来、親や子、親族の近くに住みたいという考えがありますか。 (○は1つ) (n=1,407) (%)

1	一緒に住みたい	5.5	4	すでに一緒に住んでいる	12.9
2	近くに住みたい	37.6	5	すでに近くに住んでいる	15.4
3	一緒に、あるいは近くに住みたくない	9.3	6	分からない	18.3

(無回答 1.0)

## 6 SDGs(持続可能な開発目標)

問 20 SDGs(エス・ディー・ジーズ)について知っていますか。 (○は1つ) (n=1,407) (%)

1 知っている 57.9    2 言葉は聞いたことがある 25.9    3 知らなかった 12.2

(無回答 3.9)



SDGs(エス・ディー・ジーズ)とは、2015年9月にすべての国連加盟国が全会一致で採択した2030年までに持続可能な世界(将来の世代のための環境や資源を壊さず、今の生活をより良い状態にすること)を実現するための開発目標です。

【問20で「1 知っている」または「2 言葉は聞いたことがある」を選んだ方へ】

問 20-1 SDGs達成に向けて、取り組みたいと思いますか。 (○は1つ) (n=1,180) (%)

1 取り組みたい 27.3    3 取り組みたくない 4.0

2 機会があれば取り組みたい 57.5    4 分からない 8.8

(無回答 2.4)

【全員の方がお答えください】

問 21 どのようなきっかけがあれば、SDGs達成に向けて取り組んでみたいと思いますか。

(○はいくつでも) (n=1,407) (%)

1 SDGsに関する詳細情報 32.3    6 職場、学校などからの後押し 19.0

2 SDGsの取組み事例の紹介 42.6    7 著名人による旗振り 4.4

3 SDGsを意識したイベント情報 30.1    8 その他 2.5

4 SDGsに関する活動の場 26.4    9 分からない 9.8

5 SDGsと一緒に取り組む仲間 19.1    10 特にない 8.6

(無回答 3.5)



## 7 ともに生きる社会かながわ

問 22 「ともに生きる社会かながわ憲章」を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,407) (%)

1 知っている	6.9	3 知らなかった	66.6
2 言葉は聞いたことがある	23.3		(無回答 3.2)

県では、ともに生きる社会かながわの実現をめざし、2016年10月に「ともに生きる社会かながわ憲章」を定めました。

### ともに生きる社会かながわ憲章

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます



【問 22 で「1 知っている」または「2 言葉は聞いたことがある」を選んだ方へ】

問 22-1 「ともに生きる社会かながわ憲章」を何で知りましたか。 (○はいくつでも) (n=425) (%)

1 ポスター・チラシ (駅・公共施設)	41.6	6 ホームページ	5.9
2 ポスター・チラシ (職場・学校)	11.3	7 SNS※	2.6
3 ポスター・チラシ (自治会掲示板・その他)	20.9	8 新聞・ミニコミ誌・タウン誌	13.6
4 県・市町村の広報紙 (県のたよりなど)	56.9	9 地域のイベント・お祭り	2.4
5 県からの送付物 (納税通知など)	7.3	10 その他	1.6
			(無回答 2.8)

※SNSには、例えばLINE、Instagram、Twitterなどがあります。

【全員の方がお答えください】

問 23 5年前と比べて障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思いますか。 (○は1つ)  
(n=1,407) (%)

1 増えたと思う	11.2	4 どちらかといえば増えていないと思う	5.9
2 どちらかといえば増えたと思う	29.4	5 増えていないと思う	11.2
3 どちらともいえない	27.0	6 分からない	13.9
(無回答 1.4)			

問 24 障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。 (○は1つ)  
(n=1,407) (%)

1 あると思う	38.0	4 ないと思う	3.3
2 少しはあると思う	40.7	5 その他	0.1
3 あまりないと思う	10.8	6 分からない	5.3
(無回答 1.8)			

問 25 手話やろう者についての理解を深めるため、手話について学ぶとしたら、どのような方法で学びたいですか。 (○は1つ) (n=1,407) (%)

1 手話講習会	24.4	6 学校教育	6.3
2 手話サークル	10.0	7 学びたいとは思わない	9.0
3 インターネット	19.0	8 その他	0.5
4 本・DVD	5.5	9 分からない	9.7
5 テレビ番組	9.5	(無回答 6.2)	

問 26 「ともに生きる社会かながわ」の実現のため、障がいの程度にかかわらず、あらゆる人が文化芸術活動を楽しむためには、どのような取組みが有効だと思いますか。(○はいくつでも) (n=1,407) (%)

1 障がい者のみが参加・出演するイベントなどの開催	5.1
2 障がい者に限らず、あらゆる人が参加・出演できるイベントなどの開催	67.9
3 自宅や病院などから鑑賞できる公演の開催	26.8
4 鑑賞しやすい環境の整備 (字幕表示や車椅子席の設置など)	55.4
5 その他	1.9
6 分からない	8.0
(無回答 1.8)	

## 8 神奈川の文化芸術

問 27 次にあげる文化芸術について、ホールなどの文化施設での公演や展覧会へ行ってみたいと思いますか。 (〇はいくつでも) (n=1,407) (%)

1 伝統文化（民謡、三味線、歌舞伎、能など）	30.6	6 文学（詩、俳句、短歌、小説など）	7.6
2 演芸（落語、講談、漫才、浪曲など）	30.6	7 美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など）	49.8
3 生活文化（生け花、盆栽、書道など）	18.6	8 映像作品（映画、アニメ、CGなど）	44.2
4 音楽（歌謡曲、ポップス、クラシックなど）	56.9	9 その他	0.9
5 演劇・舞踊（ミュージカル、バレエなど）	42.6	10 行ってみたいとは思わない	9.2
（無回答 2.1）			

問 28 どのような文化施設に行ってみたいと思いますか。 (〇は3つまで) (n=1,407) (%)

1 魅力的な公演や展覧会が開催されている	57.0	6 周辺に商業施設や観光地がある	15.0
2 様々な文化にふれることができる	21.5	7 アクセスが容易である	55.9
3 入場料が安い	40.2	8 その他	0.6
4 設備が整っている※	24.4	9 行ってみたいとは思わない	5.1
5 遅い時間帯まで鑑賞できる	8.5	（無回答 5.8）	

※設備が新しい、きれいであることのほか、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮されていることも含みます。

問 29 どのような文化芸術活動を実践（鑑賞を除く）してみたいと思いますか。 (〇はいくつでも) (n=1,407) (%)

1 伝統文化（民謡、三味線、歌舞伎、能など）	11.3	6 文学（詩、俳句、短歌、小説など）※	8.5
2 演芸（落語、講談、漫才、浪曲など）	8.0	7 美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真など）	40.2
3 生活文化（生け花、盆栽、書道など）	25.2	8 映像作品（映画、アニメ、CGなど）	15.8
4 音楽（歌謡曲、ポップス、クラシックなど）	28.5	9 その他	1.6
5 演劇・舞踊（ミュージカル、バレエなど）	11.2	10 してみたいとは思わない	23.7
（無回答 2.9）			

※自身で創作、発表することに限り、読書を含みません。

問 30 文化芸術活動をする際に、どのような不満や不便を感じますか。 (〇は3つまで) (n=1,407) (%)

1 練習や稽古をする適切な場所がない	14.4	7 受講料や参加費が高い	25.9
2 展示や発表をする適切な場所がない	3.6	8 活動をする時間がとれない	26.9
3 指導をしてくれる人が見つからない	9.0	9 その他	1.3
4 一緒に行く仲間が見つからない	14.9	10 特に不満や不便を感じることはない	7.3
5 活動に関する情報が少ない	16.8	11 そもそも文化芸術活動を行っていない	26.4
6 学ぶための教室や講習、プログラムが少ない	14.6	（無回答 5.5）	

## 9 子どもの貧困対策

問 31 「子どもの貧困」※という言葉の意味を知っていますか。 (○は1つ) (n=1,407) (%)

1 知っている	72.8	3 知らなかった	7.4
2 意味は知らないが言葉は聞いたことがある	18.7	(無回答)	1.1

※「子どもの貧困」とは、17歳以下の子どもが平均的な生活水準の半分以下の世帯で暮らしている状態を指します。『国民生活基礎調査の概況』（厚生労働省）の結果によると、日本の子どもの約7人に1人が子どもの貧困状態にあるとされ、社会的な問題となっています。

問 32 現在、近所や職場、親戚などの身近に経済的に苦しく行政などによる支援※が必要だと思われる17歳以下の子どもはいますか。 (○は1つ) (n=1,407) (%)

1 いる	4.5	3 分からない	40.0
2 いない	54.7	(無回答)	0.9

※「行政などによる支援」には、経済的な支援のほか、相談支援や就労の支援なども含まれます。

問 33 貧困などの困難な環境にある子どもを身近な地域で支援する活動、いわゆる子ども食堂や居場所※の提供などについて、どのように考えていますか。 (○は1つ) (n=1,407) (%)

1 すでに活動している、または活動する予定である	1.2
2 一緒に活動したい、または協力したい	6.3
3 活動に興味を持っている	26.2
4 活動することや協力することは難しい	23.0
5 これから考えたい	21.8
6 関心がない	5.3
7 その他	1.0
8 分からない	12.7
(無回答)	2.6

※この設問の「子ども食堂」とは、子どもが一人でも行け、無料または低額で食事をとることができる場所のことです。また、「居場所」とは、子どもたちにとって学校でも家でもない子ども自身がほっとできる居場所のことで、学習支援などの活動も含まれます。

## 10 配偶者等からの暴力

問 34 次のようなことが夫婦（事実婚や別居中を含む）の間で行われた場合、それを暴力（DV）だと思えますか。（1）から（6）までのそれぞれについて、選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

	(n=1,407) (%)				
	暴力にあたる	暴力にあたる場合も そうでない場合もある	暴力にはあたらない	分からない	(無回答)
(1) 平手で打つ	78.8	15.7	0.4	1.4	3.8
(2) 何を言っても長時間無視し続ける	54.9	31.4	6.1	3.8	3.8
(3) 大声でどなる	59.8	31.3	3.2	1.8	3.9
(4) 生活費を渡さない	72.1	16.7	3.7	3.4	4.1
(5) 交友関係や電話などを細かく監視する	53.7	30.7	7.2	4.2	4.3
(6) いやがっているのに性的な行為を強要する	86.9	6.5	0.9	1.7	3.9

問 35 配偶者等からの暴力（DV）について、知っていたことを選んでください。（○はいくつでも）  
(n=1,407) (%)

1 DV被害者相談窓口がある	77.8
2 DV被害者相談窓口は、男性向けもある	25.2
3 DV被害者は加害者から離れて自立生活するための支援や情報提供を受けることができる	53.9
4 子どもの前でDVが行われることは、子どもへの虐待となる	52.1
5 恋人同士の間で起こる暴力を「デートDV」という	27.9
6 どれも知らなかった	10.4
	(無回答 3.8)

## 11 地域社会との関わり

問 36 長い人生を充実させるため、コミュニティなど、地域社会との関わりを大切にしていますか。  
(○は1つ) (n=1,407) (%)

1 そう思う	67.0	2 そう思わない	30.0	(無回答 3.1)
--------	------	----------	------	-----------

## 12 治安対策

問 37 不安に感じる身近な犯罪は何ですか。 (○はいくつでも) (n=1,407) (%)

1 ひったくり	33.2	9 自転車やオートバイの盗難	27.3
2 特殊詐欺	56.9	10 自動車の盗難	22.7
3 悪質な客引き	14.5	11 コンピュータへの不正アクセス	50.5
4 空き巣	54.9	12 インターネットを利用した犯罪 (詐欺、ネットポルノ、児童買春など)	47.8
5 子どもの誘拐や子どもへのいたづら	41.2	13 大麻、覚醒剤などの薬物犯罪	17.9
6 痴漢や強制わいせつなどの性犯罪	34.6	14 その他	1.8
7 ストーカー行為	23.1	15 特にない	3.0
8 暴行や傷害	36.1		
(無回答 2.3)			

問 38 地域犯罪発生情報や防犯に役立つ情報について、得やすいのはどのような方法ですか。

(○はいくつでも) (n=1,407) (%)

1 テレビ	65.8	8 インターネット(警察のホームページ、Twitter、 「Yahoo!防災速報」、神奈川県警察公式YouTube 防犯チャンネルなど)	55.8
2 ラジオ	13.3	9 警察からのメール	13.5
3 新聞	26.2	10 警察官の防犯講話・防犯教室	3.3
4 ポスター・チラシなど	24.9	11 警察官の戸別訪問	8.5
5 回覧板	32.2	12 その他	0.7
6 防災無線	17.9		
7 駅前などでのキャンペーン	10.4		
(無回答 2.3)			

問 39 犯罪や交通事故がなく、より安心してくらすために重要だと思うものは何ですか。

(○は3つまで) (n=1,407) (%)

1 防犯カメラなどの防犯設備の整備	73.0
2 地域住民同士のつながり	41.0
3 県民、企業などと行政が一体となって行う活動(防犯・交通安全など)	13.6
4 規範意識を高める教育(防犯・交通安全など)	20.6
5 ボランティアなどによる活動(防犯・交差点での見守りなど)	15.0
6 交通安全施設の整備(信号機、道路標識・標示など)	25.2
7 交通指導取締りの強化や交通違反等の厳罰化	20.3
8 制服警察官、パトカーなどによる街頭活動(警戒・検問など)	28.3
9 安全運転相談(運転に不安を覚える方の相談支援)	4.2
10 その他	2.0
11 特にない	0.9
(無回答 6.7)	

…\*\*

集計結果を分析するために必要な項目についてお聞きします。(個人を特定するものではありません。)

F 1 お住まいの地域はどちらですか。 (n=1,407) (%)

1	横浜(横浜市)	37.9
2	川崎(川崎市)	13.9
3	相模原(相模原市)	7.3
4	横須賀三浦(横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町)	9.5
5	県央(厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村)	10.1
6	湘南(平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町)	15.3
7	県西(小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町)	4.4
		(無回答 1.6)

F 2 あなたの性別をお聞かせください。 (n=1,407) (%)

1	男性	44.1	2	女性	52.8	(無回答 3.1)
---	----	------	---	----	------	-----------

F 3 あなたの年齢は、おいくつですか。(2022年9月1日現在) (n=1,407) (%)

1	18~19歳	0.0	5	35~39歳	7.5	9	55~59歳	10.7	13	75~79歳	5.5
2	20~24歳	1.9	6	40~44歳	9.2	10	60~64歳	8.9	14	80歳以上	3.8
3	25~29歳	3.3	7	45~49歳	10.2	11	65~69歳	9.2			
4	30~34歳	5.3	8	50~54歳	10.1	12	70~74歳	12.5			(無回答 1.7)

F 4 あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。(同居、別居は問いません。)

(○はあてはまるものすべて) (n=1,407) (%)

1	小学校入学前	7.7	5	短大、専門学校等在学中	1.3	9	その他	3.1
2	小学校在学中	10.2	6	大学、大学院等在学中	5.8	10	子どもはいない	33.4
3	中学校在学中	6.3	7	学校教育終了 [未婚]	21.0			
4	高校在学中	5.5	8	学校教育終了 [既婚]	25.4			(無回答 2.8)

F 5 現在のお宅の家族形態は、次のどれにあたりますか。(○は1つ) (n=1,407) (%)

1	一人暮らし(単身世帯)	18.1	4	祖父母と親と子の世帯(3世代世帯)	3.6
2	夫婦のみ(1世代世帯)	29.4	5	その他の世帯	4.0
3	親と子の世帯(2世代世帯)	43.6			(無回答 1.2)

F 6 あなたの現在のお仕事は、次のどれにあたりますか。1～9の中から1つ選んでください。  
 また、1～5を選んだ方は、右のア～ケの中から1つ選んでください。

(n=1,407) (%)

(n=855) (%)

1 自営業主	5.0	ア～ウから 1つ選んで ください。	ア 農林水産業	0.5
2 家族従業者 (家業手伝い)	1.1		イ 商工サービス業(各種商店、飲食店、工事店などの経営)	5.3
			ウ 自由業(開業医、弁護士、茶華道師匠、芸術家など)	3.6
3 勤め (フルタイム)	38.6	エ～ケから 1つ選んで ください。	エ 経営・管理職(会社等の部長級、官公庁の課長級以上)	6.0
4 勤め (パートタイム)	15.9		オ 専門・技術職(研究員、技術者、勤務医、看護師など)	22.9
5 内職	0.2		カ 事務職(事務系会社員・公務員、警察官、駅員など)	24.6
6 主婦・主夫 (勤めていない)	13.7		キ 教育職(教諭、保育士など)	5.0
			ク 技能・労務職(工場の生産工程従事者、運転士など)	11.0
			ケ 販売・サービス職(商店、サービス業などの従業員)	19.2
			(無回答	2.0)
7 学生	0.8			
8 無職	16.2			
9 その他	0.9			
	(無回答 7.7)			



質問は以上です。最後までご協力いただき、ありがとうございました。

同封の返送用封筒で、10月3日(月)までにご投函ください。(切手は不要です。)  
なお、インターネットからご回答された方は、調査票の郵送は不要です。

今回の調査でお伺いしたテーマについて、ご意見やご提案がありましたら、お書きください。

ご意見やご提案を希望するテーマの番号に○をつけてください。

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1 食・食育                | 7 とともに生きる社会かながわ |
| 2 食の安心・安全             | 8 神奈川の文化芸術      |
| 3 神奈川の農林水産業           | 9 子どもの貧困対策      |
| 4 肝炎対策                | 10 配偶者等からの暴力    |
| 5 将来の住まい              | 11 地域社会との関わり    |
| 6 S D G s (持続可能な開発目標) | 12 治安対策         |

下記にその内容をご記載ください。

228人(16.2%)から自由意見が寄せられました。

